

二 同條第三號、第四號ノ事項ヲ記載スヘシ  
 耕地整理組合ノ土地原簿ノ乙部ニハ前項乙部ニ記載スヘキ事項ノ外耕地整理法第四十四條第一項ノ土地アルトキハ之ヲ表示スヘシ  
 三 權利者名簿ハ甲、乙、丙、丁、戊、己ノ六部ニ分チ甲部(第三號樣式)ニハ耕地整理法施行規則第三十三條第一號乃至第三號ノ事項ヲ、乙部(第四號樣式)ニハ同條第四號中關係人ノ氏名又ハ名稱、住所及登記ノ要領ヲ、丙部(第五號樣式)ニハ同號中整理施行地ニ存スル建物ニ付先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ノ氏名若ハ名稱、住所及登記ノ要領ヲ、丁部(第六號樣式)ニハ同條第五號ノ事項ヲ、戊部(第七號樣式)ニハ同條第六號ノ事項ヲ、己部(第八號樣式)ニハ同條第七號ノ事項ヲ記載スヘシ  
 四 組合員名簿ハ前項權利者名簿ノ樣式ニ從ヒ之ヲ作製スヘシ但シ第三號樣式中施行者トアルヲ組合トシ其ノ住所、氏名若ハ名稱ノ下ニ代表者ノ欄ヲ設ケ耕地整理法第四十七條ノ規定ニ依リ又ハ耕地整理ニ關スル一切ノ行為ヲ爲サシムル爲メ特ニ定メタル代表者ノ住所、若

ハ居所、氏名若ハ名稱ヲ記載スヘシ  
 五 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ各區ニ付前各項ニ定メタルモノヲ作製スヘシ但シ第一項甲部ニ付テハ地區全部ノ分チモ作製スヘシ  
 六 事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
 (一) 整理施行者又ハ組合員ノ現在數  
 (二) 整理施行地區ノ地目別面積及地價ノ現在總計  
 (三) 工事ノ完了又ハ進捗ノ程度及工事完了シタル部分ノ土地ノ利用ノ狀況  
 (四) 借入現在額  
 (五) 其ノ他重要ナル事項  
 (六) 費用及天役現品ノ分賦收入ノ狀況  
 第一號、第二號ノ事項ハ前年度ト異動ナキ場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得  
 七 工事施行ノ效果ヲ知ルニ足ルヘキ調査ヲ行ヒタルトキハ之ヲ事業報告書ニ添附スヘシ  
 八 收支豫算書ハ之ヲ收入、支出ニ大別シ更ニ款項ニ區分シテ調製スヘシ但シ必要アルトキハ收入豫算又ハ支出豫算ヲ各經常、臨時ノ二部ニ分チ其ノ各部ヲ更ニ各項ニ區分スルコト

ヲ得

九 收支決算書ハ豫算ノ款項ニ依リテ之ヲ調製シ尙豫算ト對照シテ比較増減ヲ示シ其ノ増減ノ理由ヲ説明スヘシ  
 十 換地説明書(第九號樣式)ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ  
 (一) 土地所有者ノ住所、氏名又ハ名稱並土地所有者ニ非スシテ整理施行者又ハ組合員タル者アルトキハ其ノ住所、氏名若ハ名稱  
 (二) 従前ノ土地ノ字、番號、地目、等位及面積並埋立又ハ干拓ノ許可ヲ受ケタル者アルトキハ其ノ位置及面積  
 (三) 従前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付既登記ノ所有權以外ノ權利又ハ處分ノ制限アルトキハ其ノ表示  
 (四) 換地ノ字、番號、地目、等位及面積並耕地整理法第三十三條ニ依リ指定ヲ爲シタルモノアルトキハ其ノ部分ノ表示  
 (五) 金錢ヲ以テ清算スルモノ在リテハ其ノ清算金額  
 (六) 従前ノ土地ニ對シ換地ヲ交付セサルモノアルトキハ其ノ旨

十一 換地説明書ニハ耕地整理法第十一條ノ土地ニ付整理前後ノ地目別面積ヲ對照シタル國有地調書ヲ添附スヘシ  
 十二 整理施行地及之ニ隣接スル土地、水面ノ現形圖ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ(圖面樣式第一號凡例參照)  
 (一) 圖面ノ名稱  
 (二) 整理施行地ノ境界  
 (三) 整理施行地ニ隣接スル土地、水面ニ付工事ノ計劃説明ト對照シ得ル程度ニ於ケル現形  
 (四) 府縣、郡、市町村、大字及字ノ境界並其ノ名稱  
 (五) 土地各筆ノ境界  
 (六) 埋立、干拓ノ許可ヲ受ケタル各水面ノ境界  
 (七) 地目ノ區別  
 (八) 道路、堤塘、溝渠、溜池等及其ノ名稱又ハ番號  
 (九) 揚水機、閘門、樋管、掘抜井戸、詰上井戸其ノ他工作物ノ位置及其ノ名稱又ハ番號



- (十) 水流ノ方向
- (十一) 方位、縮尺及凡例
- (十二) 土地各筆ノ番號及水面ノ名稱又ハ番號
- (十三) 土地及水底ノ同高線又ハ標高
- (十四) 高水位、平水位及低水位ノ註記
- 十三 整理施行地區外ニ工事ヲ施行スル場合ハ其ノ土地水面及之ニ隣接スル土地ノ現形圖ヲ前項ノ圖面ニ添附スヘシ(圖面様式第一號凡例參照)
- 十四 整理豫定圖ニハ第十二項第一號乃至第十號ノ事項ヲ示スヘシ但シ工事施行ノ爲地盤ニ著シキ變更ヲ爲シ工事ノ計劃説明上必要アル場合ハ第十三號ノ事項ヲモ示スヘシ(圖面様式第一號凡例參照)
- 整理施行地區外ニ工事ヲ施行スル場合ハ其ノ豫定圖ヲ添附スヘシ(圖面様式第一號凡例參照)
- 十五 設計書ノ一部トシテ作製スル第十二項又ハ第十三項ノ圖面ト前項ノ圖面トハ同一ノ用紙ニ重ネ示スコトヲ得(圖面様式第二號凡例參照)

- 十六 整理確定圖ニハ第十二項第一號乃至第十號ノ事項ノ外換地説明書ト對照スヘキ土地各筆ノ豫定番號及耕地整理法第三十三條ニ依リ指定シタル換地ノ部分並其ノ符號ヲ示スヘシ(圖面様式第一號凡例參照)
- 十七 耕地整理法施行規則第十二條ノ二ノ圖面ハ同一ノ用紙ニ重ネ示スヘシ(圖面様式第二號凡例參照)
- 十八 整理豫定圖及整理確定圖ノ縮尺ハ現形圖ト同一タルヘシ

第一號様式	地目	面積	地價	筆數
田				
畑				
宅地				
山林				
原野				
合計				

備考	字	番號	地目	記事

- 一 土地各筆又ハ水面ノ實測面積ハ地目別ニ面積欄内ニ朱書ヲ以テ之ヲ併記スヘシ
- 二 土地又ハ水面ノ假地價ノ地價欄ニ記載スヘキ地價中ニ之ヲ算入スヘシ此ノ場合ニ於テハ内書トシテ地目別ニ假地價ヲ朱書スルコトヲ要ス
- 三 外書畦畔ノ面積ハ本地ノ地目別ヲ記載シタル面積欄内ニ朱書ヲ以テ之ヲ併記スヘシ

地土ノ項一第條一十第法理整耕

湖	海	何	計	道路	堤塘	溝渠	溜池	何

備考	字	番號	地目	記事







第六號樣式

所有 者	住所 氏名(又ハ名稱)	地上權、永小作權又ハ賃借權ノ目的タル土地ノ所在	字	番	號	地	目	權利ノ表示
			工 作 物 ノ 表 示 記 事	番	號	地	目	

備考								
----	--	--	--	--	--	--	--	--

- 備考
- 一 水面ノ位置ハ字欄ニ之ヲ記載スヘシ
  - 二 工作物ノ表示欄ニハ工作物ノ種類及使用ノ目的ヲ記載スヘシ
  - 三 建物ニ付先取特權、質權若ハ抵當權ヲ有スル者アルトキ又ハ建物カ訴訟ノ目的タルトキハ其ノ旨ヲ記事欄ニ表示スヘシ

第八號樣式

原告 住所 氏名(又ハ名稱)	被告 住所 氏名(又ハ名稱)	訴訟ノ目的タル土地、水面又ハ訴訟ノ目的タル建物ノ所在	字	番	號	地	目	訴訟ノ要領
			工 作 物 ノ 表 示 記 事	番	號	地	目	

備考							
----	--	--	--	--	--	--	--

- 一 水面ノ位置ハ字欄ニ之ヲ記載スヘシ
- 二 訴訟ノ要領欄ニハ訴訟提起ノ年月日、訴訟ノ目的及經過ヲ記載スヘシ

第九號樣式

住所 氏名(又ハ名稱)	從前ノ土地又ハ水面	換地說明書	換地區分	面積	徵收交付	記事	大	村	何		
							字	番	號	地	目







用水方	排水方	用排水方	向排水方	橋梁	耕地	法第四條	同第三條	同第四條	墳墓	神社	寺院	學校
↓	↓	↓	↓	∩	△	□	△	□	⊥	卍	卍	文
同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前
同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前

鐵道	府縣界	郡市界	町村界	大字界	字界	土地各筆 又ハ水面 ノ權利別	地區界	區界	同高線	標高
—	◇	—	—	—	—	—	○	×	15 20	2,5
同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前
同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前	同前

三百九十五

田	畑	宅地	山林	原野	堤塘
無色	黃色	薄紅色	綠色	鼠色	赤褐色
■	⊗	∩	○	■	■
同前	同前	同前	同前	同前	同前

湖沼池	水路	道路	排水	井
藍色	藍色	褐色	暗色	詰上
—	—	—	—	—
同前	同前	同前	同前	同前

圖面様式

八 内ニ畦畔欄ヲ設ケテ本地ニ量入シタル畦畔面積ヲ表示スヘシ  
 從前ノ土地ノ評定價額ニ對スル一定ノ比率ヲ算出シ之ヲ以テ換地交付ノ標準ヲ算出シタル  
 場合ニ於テハ右ニ關スル説明書ヲ添付スヘシ  
 九 評定價額ヲ附セスシテ金錢清算ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ算出ニ關スル説明書ヲ添付スヘシ  
 十 從前ノ土地ニ對シ換地ヲ交付セサルモノアルトキハ其ノ旨ヲ記事欄ニ記載スヘシ

三百九十四







備考

- 一 大字毎ニ地番ヲ付シタル市町村ニ在リテハ字ノ記載ヲ要セス
- 二 異動ナキトキハ重ネテ現在額ヲ掲グルヲ要セス
- 三 負擔ヲ受クヘキ土地ト利益ヲ受クヘキ土地トニ口座ヲ設クルモノトス

### ●國有林野耕地整理 施行地區編入手續

(明治四十四年十二月二十九日)  
(農商務省訓令第二十二號)

大林区署

- 第一條 國有林野ヲ耕地整理施行地區ニ編入スルノ申請アリタルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ大林區署長之ヲ認許スヘシ但シ面積二町歩ヲ超ユルトキハ編入ヲ認許スヘカラスト認メタルトキハ意見ヲ具シ稟伺スヘシ
- 第二條 國有林野ヲ地區ニ編入スルハ耕地整理組合規約ニ於テ組合費用ヲ國ニ賦課セサルコトヲ定メタル場合ニ限ル
- 第三條 整理施行上必要ノ箇所カ要存置林野ナルトキハ地區外事業トシテ工事ヲ施行セシメ

- 貸付又ハ使用ノ手續ヲ爲スヘシ但シ道路堤塘溝渠溜池等公用又ハ公共ノ用ニ供スル場合ニシテ組換賣拂又ハ讓與ヲ爲スコトヲ要スト認メタルトキハ地區編入ヲ認許スルコトヲ得前項但書ノ規定ニ依リ地區編入ヲ認許セムトスルトキハ豫メ賣拂又ハ讓與ニ關スル認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 第四條 地方長官ヨリ編入申請書ノ送附ヲ受ケタルトキハ速ニ實地ノ調査ヲ爲シ認許書ハ之ヲ地方長官ニ送附スヘシ
- 第五條 耕地整理組合設立認可ノ通知アリタルトキハ速ニ其ノ整理施行地區ニ編入シタル國有林野ノ賣拂又ハ讓與ニ著手スヘシ整理施行地區ニ編入シタル林野ノ内道路堤塘溝渠溜池等他ノ官有地ニ組換ヲ要スルモノハ工事完了ノ後組換ノ手續ヲ爲スヘシ

附則  
本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●土地臺帳規則

(明治二十二年三月勅令第三十九號)

- 第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス
- 第二條 市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ
- 第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及買入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ
- 第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金五錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ
- 第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得
- 第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

- 第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

### ●土地臺帳規則施行 細則(明治二十二年四月 大藏省令第六號)

(三十三年省令第二號及第二十七號、三十四年同第二十四號、三十七年同第六號及第八號、三十八年同第十二號、三十九年同第二十號ヲ以テ改正)

- 第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價及所有者買取主又ハ百年ヨリ長キ存證期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ
- 第二條 土地臺帳記載ノ所有者買取主又ハ地上



禮者ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々  
之ヲ届出ツヘシ

**第三條** 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セントスルモノ  
ハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ府縣廳町村ハ  
島廳郡役所ニ申出ヘシ

國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ係ルモ  
ノニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ヲ下付セ  
ス

謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此場合ニ  
於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スル  
コトヲ要ス

**第四條** 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左  
ノ難形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ（難形略  
ス）

同一人ニシテ二筆以上ノ謄本ヲ請求シタルト  
キハ同一用紙ニ連記スルコトヲ得但シ請求者

ニ於テ每筆各別ノ謄本ヲ請求シタルトキハ此  
ノ限リニ在ラス

四百

**第五條** 土地所有權ノ移轉又ハ質權及地上權ノ  
設定、移轉、消滅若クハ地上權ノ期間ノ變更  
ハ登記所ヨリ通知アルニ非サレハ之ヲ登録セ  
ス但シ國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ  
因リ又ハ未登記土地ノ收用ニ因リ所有權ノ移  
轉シタル場合及未登記土地ノ國有ト爲リ又ハ  
河川法ニ依リ河川ノ敷地ト爲リタル場合ハ此  
ノ限ニ在ラス

相續ノ場合ニ於テ相續人カ未登記所有權ノ保  
存登記ヲ爲シタルトキハ保存登記ニ關スル登  
記所ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登録ス

### ●地租條例

（明治十七年三月太政官布告第七號）

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年（七月）第二百  
七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル  
條規其他本條例ニ抵触スルモノハ廢ス但東京府  
管轄伊豆七島小笠原島「兩館縣」沖繩縣「札幌縣  
根室縣」ハ當分従前ノ通りタルヘシ

#### 地租條例

**第一條** 地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

宅地

地價百分ノ二箇半

田畑

地價百分ノ四箇五

其他ノ土地

地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分

左ノ稅率ニ依ル

田畑

地價百分ノ三箇二

其他ノ土地

地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケ

タル價額ヲ謂フ（改正四十二年法律第二號）

**第二條** 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

**第三條** 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地（二十

二年十一月法律第三十號ヲ以テ本項改正）

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノ

ナ地目變換ト謂フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノナ地類變  
換ト謂フ（追加四十二年法律第二號）

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノナ  
開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押掘、石  
砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ天災ニ罹リ  
地形ヲ變シタルモノナ荒地ト謂フ

**第四條** 左ニ掲クル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス  
（改正三十八年法律第三十三號）

一 國府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル  
公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル  
土地但テ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

二 府縣郡市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公  
共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノ  
ト定メタル其所有地但テ命令ノ定ムル期間内  
ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限  
ニ在ラス

三 府縣社地鄉村社地招魂社地但有料借地ハ  
此限ニ在ラス（改正四十三年法律第二號）

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、隄塘、井溝

四百一



六 鐵道用地、軌道用地（改正四十一年法律第三十六號）

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣都市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益シル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限リニ在ラス  
軌道用地ノ區域ニ關シテハ私設鐵道法第四十一條ノ規定ヲ準用ス（追加四十一年法律第三十六號）

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ步ト爲シ三十步ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分ノ一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勺ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス（二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改正）

第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ修正セス（改正四十三年法律第二號）

四百二

一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾シタルトキ

三 開拓鐵道下年期明ニ至リタルトキ

四 荒地免租下年期明ニ至リ原價ニ復シ難ク若クハ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ原價ニ復シ難キトキ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審查シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム  
第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ヘシ

地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 地租ヲ課スル土地ノ地租ノ課セサル土地ト爲シ又ハ地租ヲ課セサル土地ノ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ヘシ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニ付テハ此限ニ在ラス（改正四十三年法律第二號）

地租ヲ課セサル土地ノ地租ノ課スル土地ト爲シタルトキハ其地ノ現況ニ依リ直ニ其土地ノ地價ヲ定ム但第十六條第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス（同上）

一 宅地

第一期 其年七月一日ヨリ同七月三十一日限

第二期 翌年一月一日ヨリ同三月三十一日限

第三期 翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限

第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限

其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

第二期 翌年二月一日ヨリ同二月末日限

第三期 翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限

第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限

其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

第二期 翌年二月一日ヨリ同二月末日限

第三期 翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限

第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限

其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

第二期 翌年二月一日ヨリ同二月末日限

第三期 翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限

第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限

其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

第二期 翌年二月一日ヨリ同二月末日限

第三期 翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限

第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限

其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

第二期 翌年二月一日ヨリ同二月末日限

第三期 翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限

第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限

其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

第二期 翌年二月一日ヨリ同二月末日限

第十三條 地租ハ左ニ掲グル者ヨリ之ヲ徵收ス  
一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者  
二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者  
三 其他ノ土地ニ付テハ所有者  
前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ（改正三十八年法律第三十三號）

第十四條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス（改正四十三年法律第二號）

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其届出アリタル後



又ハ其事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ  
地租ヲ徵收セス(同上)

地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地  
トナリタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期  
ヨリ地租ヲ徵收ス但地價設定後ニ開始スル納  
期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ  
ハ其納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス

前二項ノ規定ハ荒地免租年期若クハ低價年期  
許可ノ場合又ハ荒地免租年期明若クハ新開免  
租年期明ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ届  
出ツヘシ(二十二年十一月法律第三十號ヲ以  
テ本項改正)

前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ二十一年目  
ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス(二十  
二年十一月法律第三十號ヲ以テ本項追加)

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントス  
ルトキハ政府ニ願出納下年期ノ許可ヲ受クヘ  
シ納下年期ハ四十年トス但年期中ハ原地價ニ  
依リ地租ヲ徵收ス(同上)

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地  
相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ二十年ノ納

下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地  
租ヲ徵收ス(同上)

官有ノ水面ヲ埋立テ又ハ干拓シ民有ニ歸セシ  
土地ハ六十年ノ新開免租年期ヲ許可ス(同上)  
地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要ス  
ルモノハ本條第三項ニ準シ四十年ノ地價据置  
年期ヲ許可スルコトアルヘシ(同上)

但地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾シタ  
ルモノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ其  
地租ヲ修正ス(追加四十二年法律第二號)

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土  
地又ハ開墾納下年期若クハ地價据置年期ノ許  
可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目  
變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合  
ニ於テハ其年ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ  
依リ其地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部  
又ハ一部ノ納期開始後届出アリタルトキハ翌  
年分地租ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ  
其地租ヲ徵收ス(改正四十二年法律第二號)

前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ  
舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ  
對スル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以

テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價ト  
シ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其  
地價ニ依リ地租ヲ徵收ス(追加同上)

第十八條 削除(明治三十一年法律第三十號)

第十九條 納下年期明地價据置年期明新開免租  
年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス(二十  
二年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改正)

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免  
租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(同  
上)海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタル  
モノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアル  
ヘシ(二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ本  
項追加)

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況  
原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下  
ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス  
(二十二年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改  
正)

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復  
シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目  
ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ地價ヲ修正  
ス(改正四十二年法律第二號)

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形状  
ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租年期ヲ  
定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ  
第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス(二十二  
年十一月法律第三十號ヲ以テ本條改正)

第二十四條 川成、海成、潮水成ニシテ免租年期  
明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以  
内免租年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原  
地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、  
海、湖ニ歸スルモノトス(同上)

第二十四條ノ二 收稅官吏ハ土地ノ檢査ヲ爲シ  
又ハ納稅義務者若クハ所有者ニ對シ必要ノ事  
項ヲ尋問スルコトヲ得(追加四十二年法律第  
二號)

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ  
四圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ現  
地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵  
ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス  
(改正四十二年法律第二號)

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上  
三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ  
依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨ



リ三年前以前ニ溯ルコトヲ得ス(同上)

**第二十七條** 第十條第一項第十六條第二項ニ違犯スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年前以前ニ溯ルコトヲ得ス(改正ニ十二年法律第三十號)

**第二十八條** 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス

**第二十九條** 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

### ●地租條例施行規則

(明治四十三年十二月勅令第四四號)

**第一條** 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定

**第二條** 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス

目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾着手後十年以内若ハ墾下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス

前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

**第六條** 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

**第七條** 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

**第八條** 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ

一 別地目ト爲ルトキ

二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ

三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ

四 所有者ヲ異ニスルトキ

五 質權ノ目的ト爲ルトキ

六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ

七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

**第三條** 開墾着手後十年以内又ハ開墾墾下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス

**第四條** 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾着手後十年以内若ハ墾下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中地類ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス

**第五條** 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地

其ノ地價ヲ修正ス

**第九條** 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

**第十條** 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ地租條例ニ依リ届出ト看做ス

**第十一條** 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ墾下年期、地價据置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

**第十二條** 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號ニ依リ低價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿後六十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ

**第十三條** 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日以内ニ稅務署長ニ届出ツヘ



- 一 地目ヲ變地シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ
  - 二 開墾ニ著手シタルトキ開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ
  - 三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之ヲ供用ヲ廢止シタルトキ
  - 四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之ヲ供用ヲ廢止シタルトキ
  - 五 地租ヲ課スル土地ノ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ
- 前項ノ場合ニ於テ地價ヲ定メ又ハ修正スヘキトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

**第四百八**

**第十五條** 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期若ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ若ハ他ノ地目ニ變シタルトキハ年期滿了ノ後六十日內ニ土地所有者又ハ納稅義務者ヨリ稅務署長ニ届出ツヘシ

**第十六條** 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ届出ツヘシ

前項ノ町村ト稱スルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長ノ職務ヲ行フ區域トス

附則  
本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (四十二年法律第二號)  
本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十三年分地租ノ徵收ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

宅地以外ノ土地ノ稅率ハ明治四十三年分地租ヨリ之ヲ適用ス

非常特別稅法中地租ニ關スル規定ハ宅地ニ付テハ明治四十三年分地租限其ノ他ノ土地ニ付テハ明治四十二年分地租限之ヲ廢止ス

本法施行前地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタル土地ニシテ地價ヲ修正セサルモノハ本法施行ノ際其ノ地價ヲ修正シ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

本法施行前地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ニシテ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ラサルモノニ付テハ明治四十四年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

明治二十四年法律第二號、明治三十年法律第五號及宅地組換法ハ之ヲ廢止ス



◎地租條件ニ依ル地

下年期、新開免租

年期延長ニ關スル

件(明治三十四年四月十二日法律第三十號)

地租條例ニ依リ下年期、新開免租年期又ハ地價騰貴年期ノ許可ヲ得タル土地ニシテ年期明ニ至リ事業成功又ハ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更ニ年期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ開墾下年期及地價騰貴年期ノ土地ニ付テハ通シテ五十年開墾下年期ノ土地ニ付テハ通シテ三十年新開免租年期ノ土地ニ付テハ通シテ七十年ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ施行前既ニ年期明トナリタル土地ニシテ未タ地價ノ設定又ハ修正ナキモノニモ之ヲ適用ス地租條例第十八條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎地租條例ニ依ル公

共團體及期間指定

ノ件

(三十八年五月勅令第五百十九號)

第一條 地租條例第四條第一項第一號及第二號ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

府縣組合、郡組合(改正大正三年八月勅令第百七十三號)

市町村組合、水利組合、水利組合聯合會(同上)

町村組合、市町村學校組合及町村學校組合、市町村内ノ區、學區(同上)

沖繩縣ノ區、間切、島、間切島組合、區内ノ部及間切島内ノ村

北海道地方費(追加三十九年勅令第五百十三號)北海道ノ區及區町村内ノ部(同上)

北海道七功組合(同上)

第二條 地租條例第四條第一項第二號ニ依ル期間ハ公用又ハ公共ノ用ニ供ス可キモノト定メタルトキヨリ一箇年トス

◎國稅徵收法

(明治三十年三月法律第二十一號)

第一章

第一條 國稅ノ徵收ハ關稅其ノ他別ニ法律ヲ以テ定ムルモノ、外總テ此ノ法律ニ依ル

第二條 國稅ノ徵收ハ總テノ公課及債權ニ先ツモノトス

第三條 納稅人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其ノ質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限トシ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス

第四條ノ一 納稅人左ノ場合ニ該當スルトキハ未タ納期ノ到ラサルモ既ニ納稅義務ノ確定シタル國稅ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得(改正三十五年法律第三十六號)

一 國稅ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受ルトキ

二 府縣稅其ノ他ノ公課ノ滯納ニ因リ滯納處分ヲ受グルトキ

三 強制執行ヲ受グルトキ

四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五 競賣ノ開始アリタルトキ

六 法人力解散ヲ爲シタルトキ

七 納稅人脫稅又ハ遺稅ヲ謀ルノ所爲アリト認ムルトキ

第四條ノ二 前條第二號乃至第五號ノ場合ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手数料延滞金及滯納處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先チテ之ヲ徵收セス(改正四十四年法律第三十七號)

督促手数料延滞金及滯納處分費ハ國稅其ノ他總テノ公課及債權ニ先チテ之ヲ徵收ス但シ第四條ノ一第二號乃至第五號ノ場合ニ於ケル府縣稅其ノ他ノ公課ノ督促手数料延滞金及滯納



處分費、強制執行費用、破産手續上ノ費用又ハ競賣費用ニ先テ之ヲ徴收セス(同上)

**第四條ノ三** 相續開始ノ場合ニ於テハ關稅、督促手數料延滞金及滞納處分費ハ相續財團又ハ相續人ヨリ之ヲ徴收ス但シ戶主ノ死亡以外ノ原因ニ依リ家督相續ノ開始アリタルトキハ被相續人ヨリモ之ヲ徴收スルコトヲ得(同上)

**第四條ノ四** 共有物、共同事業又ハ共同事業ニ因リ生シタル物件ニ係ル國稅、督促手數料延滞金及滞納處分費ハ納稅者連帶シテ其ノ義務ヲ負擔ス(同上)

**第四條ノ五** 同年ノ地租、營業稅、所得稅、醬油稅及同酒造年度ノ酒造稅ニシテ既納ノ税金過納ナルトキハ爾後ノ納期ニ於テ徴收スヘキ同一稅目ノ税金ニ充ツルコトヲ得

**第四條ノ六** 納稅義務者納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ納稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

四百十二

其ノ納稅管理人ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ他ノ法令ニ特別ノ規定アルモノハ各其ノ法令ニ依ル(同上)

**第四條ノ七** 納稅ノ告知、督促及滞納處分ニ關スル書類ハ名宛人ノ住所又ハ居所ニ送達ス名宛人カ相續財團ニシテ財產管理人アルトキハ財產管理人ノ住所又ハ居所ニ送達ス(同上)

**第四條ノ八** 書類ノ送達ヲ受クヘキ者其ノ住所又ハ居所ニ於テ書類ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ帝國内ニ住所、居所アラサルトキ若ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナルトキハ書類ノ要旨ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

第二章 徵收

**第五條** 市町村ハ其ノ市町村内ノ地租及勸令ヲ以テ命シタル國稅ヲ徴收シ其ノ税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス

前項徴收ノ費用トシテ其ノ徴收金額ノ百分ノ三ニ相當スル金額及納稅告知書一通ニ付金二錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ其市町村ニ

交付ス(改正大正三年三月法律第十二號)

**第六條** 國稅ヲ徴收セントスルトキハ收稅官吏又ハ市町村ハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ指定シ之ヲ告知スヘシ

**第七條** 納稅人非常ノ災害ニ罹リ政府ニ於テ其ノ被害調査ノ爲時日ヲ要スルトキハ其ノ間稅金ノ徴收ヲ爲ササルコトアルヘシ

**第八條** 市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ税金ヲ失ヒタルトキハ其ノ事實ヲ證明シ大藏大臣ニ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請フコトヲ得

前項ノ申出アリタルトキハ大藏大臣ハ其ノ事實ヲ審査シ其免除ヲ爲スコトヲ得

**第九條** 國稅ノ納期限ヲ過キ其ノ税金ヲ完納セサル者アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ之ヲ督促スヘシ但シ第四條ノ一ニ依リ國稅ノ徴收ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勸令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料、滞納金ヲ徴收ス

第三章 滞納處分

**第十條** 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅者ノ

財產ヲ差押フヘシ

一 納稅者督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限マテニ督促手數料延滞金及税金ヲ完納セサルトキ

二 第四條ノ一第一號及第七號ノ場合ニ於テ納稅者納期ノ到ラサル國稅納付ノ告知ヲ受ケ税金ヲ完納セサルトキ

**第十一條** 收稅官吏滞納處分ノ爲メ財產ノ差押ヲ爲ストキハ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證明ヲ示スヘシ

**第十二條** 差押フヘキ財產ノ價格ニシテ督促手數料、延滞金、滞納處分費及第三條ニ依リ控除スヘキ債務額ニ充テ殘餘ヲ得ル見込ナキトキハ滞納處分ノ執行ヲ止ム

**第十三條** 收稅官吏滞納者ノ財產ヲ差押フルニ當リ質權ノ設定セラレタル物件アルトキハ質權設定時期ノ如何ニ拘ラス其ノ質權者ハ質物ヲ收稅官吏ニ引渡スヘシ

**第十四條** 收稅官吏財產ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者其ノ財產ニ就キ所有權ヲ主張シ取戻ヲ請求セムトスルトキハ賣却執行ノ五日間マテニ所有者タル證據ヲ具ヘテ收稅官吏ニ申出ヘシ



第十五條

滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財產ノ差押ヲ免ルル爲故意ニ其ノ財產ヲ讓渡シ讓受人其ノ情ヲ知り讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

第十六條

- 一 滯納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具
- 二 滯納者及其ノ同居家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭
- 三 實印其ノ他職業ニ必要ナル印
- 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑墓
- 五 系譜其ノ他滯納者ノ家ニ必要ナル日記書
- 六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣
- 七 勳章其ノ他名譽ノ章票
- 八 滯納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具
- 九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未タ公ニセサルモノ

第十七條

左ニ掲グル物件ハ他ニ督促手数料、

四百十四

延滞金、滯納處分費及税金ヲ償フニ足ルヘキ物件ヲ提供スルトキハ滯納者ノ選擇ニ依リ差押ヲ爲ササルモノトス

一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並其ノ飼料

二 職業ニ必要ナル器具及材料

第十八條 差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然及法定ノ果實ニ及フモノトス

第十九條 滯納處分ハ裁判上ノ假差押又ハ假處分ノ爲ニ其ノ執行ヲ妨ケラルルコトナシ

第二十條 收税官吏財產ノ差押ヲ爲ストキハ滯納者ノ家屋、倉庫及筐匣ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉、筐匣ヲ開カシメ若ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得滯納者ノ財產ヲ占有スル第三者其ノ財產ノ引渡ヲ拒ミタルトキ亦同シ

第二十一條 收税官吏前條ノ處分ヲナストキハ前二項ニ依リ家屋、倉庫又ハ筐匣ヲ搜索スルハ日出ヨリ日没マテニ限ル

第二十二條

滯納者若ハ前條ニ掲ケタル第三者又ハ其ノ家族屬人ヲシテ立會ハシムヘシ若シ立會フヘキ者不在ナルトキ又ハ立會ニ應セサルトキハ成丁者二人以上又ハ市町村吏員(市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ區戸長及其ノ附屬吏員)若ハ警察官吏ヲ證人トシテ立會ハシムヘシ

第二十三條

動産及有價證券ノ差押ハ收税官吏占有シテ之ヲ爲ス但シ差押物件運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ市町村長、滯納者又ハ第三者ヲシテ保管ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

第二十四條

差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二十五條

債權ノ差押ヲ爲ストキハ收税官吏ハ之ヲ債務者ニ通知スヘシ

第二十六條

前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ政府ハ督促手数料、延滞金、滯納處分費及税金額ヲ限度トシテ債權者ニ代位ス

第二十七條

債權及所有權以外ノ財產權ノ差押ヲ爲ストキハ收税官吏ハ之ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

四百十五

前項ノ財產權ニシテ其ノ移轉ニ付登記又ハ登録ヲ要スルモノニ在リテハ差押ノ登記又ハ登録ヲ關係官廳ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ニ付アモ亦同シ

第二十三條ノ三 不動産又ハ船舶ヲ差押ヘタルトキハ收税官吏ハ差押ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシ其ノ抹消又ハ變更ノ登記ニ付テモ亦同シ

第二十四條 差押ノ解除ニ關シテハ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス

第二十五條 差押ヘタル動産、有價證券不動産及第二十三條ノ一ニ依リ收税官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付スル公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上グルコトヲ得

債權及所有權以外ノ財產權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス



第二十五條 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

第二十六條 滯納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ關スル官吏、公吏、雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其ノ賣却物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第二十七條 滯納處分費ハ財產ノ差押、保管、運搬、公賣ニ關スル費用及通信費トス

第二十八條 物件ノ賣却代金、差押ヘタル通貨及第二十三條ノ一ニ依リ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル通貨ハ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス

賣却シタル物件、質權、抵當權ノ目的物タルトキハ其代金ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滯納處分費及税金ヲ控除シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテテ債權者ニ交付シ尙ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ交付ス但シ第三條ニ掲ケタル質權抵當權ノ目的タル物件ニ關シテハ其ノ代金ヨリ先ツ督促手數料、延滞金、滯納處分費ヲ徴シ次ニ其ノ債務額ニ充ツルマテテ債權者ニ交付シ次ニ税金ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ之ヲ

滯納者ニ交付ス

第二十九條 會社ニ對シ滯納處分ヲ執行スル場合ニ於テ會社財產ヲ以テ督促手數料延滞金、滯納處分費及税金ニ充テ仍不足アルトキハ無限責任社員ニ就キ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條 此ノ法律ニ依リ債權者又ハ滯納者ニ交付スヘキ金錢ハ之ヲ供託スルコトヲ得

第三十一條 滯納處分ヲ結了シ若ハ之ヲ中止シタルトキハ滯納義務及督促手數料延滞金滯納處分費納付ノ義務ハ消滅ス

第四章 罰則

第三十二條 滯納者又ハ滯納者ノ財產ヲ占有スル者其ノ財產ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重懲罰ニ處ス

差押物件ノ保管者其ノ保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若ハ毀損シタルトキ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虛偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

前各項ノ場合ニ於テ刑法ニ罰條アルモノハ本條ヲ適用セス

第五章

第三十三條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス(沖繩縣及東京府管内小笠原島、伊豆七島ニハ當分ニテ施行セス)

市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ本法中市町村ニ關スル條項ヲ適用スヘキ公共團體ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

北海道水產物營業人組合ハ本法ニ於テ市町村ニ準ス

第三十四條 明治二十二年法律第九號國稅徵收法、同年法律第三十二號國稅滯納處分法及同二十三年法律第四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

◎國稅徵收法施行規則

(明治三十五年四月 勅令第三百三十五號)

第一條 收稅官吏國稅ヲ徵收セントスルトキハ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第二條 市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ハ收稅官

吏書面ヲ以テ其ノ金額ヲ市町村ニ通知スヘシ市町村ハ前項ノ通知ニ依リ納稅人ニ對シ其ノ納金額、納期日及約付場所ヲ記載シタル納稅告知書ヲ發スヘシ

第三條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル税金ヲ徵收セムトスルトキハ納期日ヲ定メ第一條ノ告知又ハ第二條ノ通知ヲ爲スト同時ニ其ノ旨告知又ハ通知スヘシ

納稅告知ヲ爲シタル後國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期日前之ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期日ノ變更ヲ納稅人ニ告知スヘシ前項ノ國稅ニシテ市町村ノ徵收スルモノナルトキハ納稅人ニ告知スルト同時ニ其ノ旨市町村ニ通知スヘシ

第四條 市町村ニ於テ税金ヲ徵收シタルトキハ領收證ヲ納稅人ニ交付スヘシ

第五條 市町村ニ於テ徵收シタル税金ハ送付書ヲ添ヘ漸次之ヲ金庫ニ送付スヘシ但シ納稅期後三日ヲ過クルコトヲ得ス

第六條 市町村ニ於テ國稅徵收法第八條ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請書ヲ提出



スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七條 市町村ハ納期内ニ税金ノ納付ヲ了ラサル者アルトキハ直ニ其ノ氏名、住所若ハ居所及納金額滞納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第八條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲クルモノニシテ納期ニ至リ税金ノ徵收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅  
二 造石數査定濟ノ酒類、酒精、酒精含有飲料、醬油ノ造石稅及造石數査定濟ノ麥酒稅  
三 當該年分ノ自家用醬油製造

第九條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ若ハ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ  
納稅管理人其ノ氏名、住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ  
市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前

爲シタルトキ

督促狀ニ指定シタル期限迄ニ税金及督促手續料ヲ完納シタルトキ又ハ前項ニ依リ計算シタル金額カ十錢未滿ナルトキハ延滞金ヲ徵收セス

第十二條 質權又ハ抵當權ノ設定セラレタル財產ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ督促手續料延滞金、滞納處分費及税金額其ノ他必要ト認ムル事項ヲ其ノ債權者ニ通知スヘシ

第十三條 民事訴訟法ニ依リ假差押ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキハ之ヲ執行裁判所又ハ執達吏若ハ強制管理人ニ通知スヘシ假處分ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキ亦之ニ準ス

第十四條 差押フヘキ財產管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產所在地ノ收稅官吏ニ滞納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第十五條 差押フヘキ財產數人ノ共有ニ係ルトキハ滞納者ニ屬スル持分ニ就キ滞納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキモノハ持分相均キモノ

四百十八

二項ノ申告ハ其ノ市町村ヲ經由スヘシ  
第十條 國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第十一條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ納稅者ニ對シ督促狀ヲ發スヘシ  
督促狀ヲ發シタルトキハ手数料トシテ金十錢ヲ徵收ス

第十二條 前條ニ依リ督促ヲ受ケタル場合ニ於テハ税金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滞納ニ付酌量スヘキ情狀アリト認ムルトキハ此ノ限りニ在ラスヘ追加四十四年勅令第二八二號

一 納稅告知書一通ノ税金額二十圓未滿ナルトキ  
二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ  
三 納稅者ノ住所若ハ居所カ帝國内ニ在ラサル爲又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納稅ノ告知又ハ督促ヲ

トシテ處分スヘシ  
第十六條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ(改正四十四年勅令第二八二號)

一 滞納者ノ氏名及住所若ハ居所  
二 差押財產ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項  
三 差押ノ事由  
四 調書ヲ作りタル場所、年月日

第十七條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滞納者又ハ第三者ヨリ督促手續料、延滞金、滞納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ

第十八條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滞納者又ハ第三者ヨリ督促手續料、延滞金、滞納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ

第十九條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滞納者又ハ第三者ヨリ督促手續料、延滞金、滞納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ

第二十條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滞納者又ハ第三者ヨリ督促手續料、延滞金、滞納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ

第二十一條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滞納者又ハ第三者ヨリ督促手續料、延滞金、滞納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ

第二十二條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタル場合ニ於テ滞納者又ハ第三者ヨリ督促手續料、延滞金、滞納處分費及税金ヲ完納シタルトキハ其ノ財產ノ差押ヲ解クヘシ

四百十九



第十八條 公賣ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條 國稅徵收法第二十四條ニ依リ公賣ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 公賣財産ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項(改正四十四年勅令第二八二號)
- 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
- 四 開札ノ場所、日時
- 五 保證金ヲ徵スルトキハ其ノ金額
- 六 代金納付ノ期限

第二十條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ之ヲ政府ノ所得トス

第二十一條 公賣ハ財産所在ノ市區町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ十日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件不相應ノ保存費ヲ要スルモノ若ハ著シク其ノ價

四百二十

格ヲ減損スルノ虞アルモノトナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 財産ヲ公賣セムトスルトキハ收稅官吏ハ其ノ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第二十四條 賣却シタル財産ニ付滯納者ナシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ(改正三十八年勅令第六七號)

第二十五條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同キトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第二十六條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積リ價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 公賣財産ノ買受人代金納付ノ期限

第三十二條 市制町村制ヲ施行セサル地方(稅務署所在地ヲ除ク)ノ戶長ハ稅務署收稅官吏ノ通知ヲ受ケ其ノ町村内ノ國稅(酒類、酒精、酒精含有飲料、醬油、造石稅及麥酒稅ヲ除ク)ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

第三十三條 前條ニ依リ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期内ニ完納セサル者アルトキハ戶長ハ本則中ニ規定セル市町村ノ例ニ準シ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第三十四條 本令中市町村ニ關スル規定ハ國稅徵收法第三十三條ニ依リ指定セラレタル公共團體ニ之ヲ準用ス

第三十五條 本令ハ明治三十五年法律第三十六號國稅徵收法中改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百二十一號ハ之ヲ廢止ス

●耕地整理ニ關シ地

方長官へ委任ノ件

(明治四十二年農商務省令第四十號)

第一條 耕地整理ニ關シ左ニ掲クル事項ハ之ヲ整理地區ノ屬スル地ノ地方長官ニ委任ス

マテニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ收稅官吏ハ其ノ賣買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第二十八條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第二十二條ノ期間ヲ短縮スルトコトヲ得

第二十九條 國稅徵收法第四條ノ一條第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳、公共團體、執行裁判所、執達吏、強制管理人、破產主任官又ハ清算人ニ督促手續料延滞金、滯納處分費及滯納稅金ノ交付ヲ求ムヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス

第三十條 滯納處分ヲ結了シタルトキハ收稅官吏ハ其ノ處分ニ關スル計算書ヲ作り之ヲ滯納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財産ニ對シ質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第三十一條 納稅告知督促及滯納處分ニ關スル公告ハ稅務署ニ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ稅務署ノ外適當ノ場所ニ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

附則



一 耕地整理法第二十六條ノ規定ニ依ル整理施行ノ認可ニ關スル件  
二 耕地整理法第四十條ノ規定ニ依ル設計書若ハ規約ノ變更又ハ整理施行ノ停止若ハ廢止ノ認可ニ關スル件

第二條 耕地整理法第五十一條第一項ニ規定シタル書類ハ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ  
第三條 地方長官第一條ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク農商務大臣ニ報告スヘシ

### ●耕地整理事業ノ引繼及耕地整理組合ノ變更ニ關スル件

(四十二年十月勅令第二百三十一號)

第一條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引繼カムトスルトキハ整理施行者ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ  
一 事業ノ現況

### 四百二十二

二 引繼カムトスル事業及其ノ説明  
三 引繼カムトスル事業ニ關スル權利義務ノ明細  
四 引繼カムトスル事業ノ爲一年間ニ要スル經費ノ概算

前項ノ認可申請書ニハ共同施行者過半数ノ同意又ハ總會ノ議決アリタルコトヲ證スル書面、引繼ヲ受クヘキ郡、市町村又ハ水利組合トノ協議一致ヲ證スル書面協議一致セサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ  
第二條 前條ノ規定ニヨリ協議一致セサル事由ヲ記載シタル書面ノ提出アリタル場合ニ於テハ地方長官ハ引繼ヲ受クヘキ郡、市町村又ハ水利組合ノ意見ヲ徵シタル後ニ非サレハ其ノ引繼ヲ認可スルコトヲ得ス

第三條 事業ノ引繼アリタル場合ニ於テ共同施行ニ依ル耕地整理ノ殘務終了シ又ハ耕地整理組合ノ清算終了シタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク耕地整理事業ニ關スル一切ノ書類及帳簿ヲ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者ニ引繼クヘシ但シ二以上ノ郡、市町村又ハ水利組合ニ事業ヲ引繼キタル場合ニ於テハ整理施行

者ノ申請ニ依リ地方長官ハ其ノ書類及帳簿ノ引繼ヲ受クヘキ郡長、市町村長又ハ水利組合管理者ヲ指定スヘシ

第四條 耕地整理法第三十八條第一項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ヲ普通水利組合ニ變更セムトスルトキハ總會ニ於テ普通水利組合規約ヲ議決シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ  
前項ノ許可申請書ニハ事業ノ現況ヲ記載シタル書面及總會ノ議事録ヲ添付スヘシ  
第一項普通水利組合規約ノ議決ハ組合員三分ノ二以上出席シ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 地方長官ハ耕地整理ノ事業ニシテ郡、市町村又ハ水利組合ニ依リ施行スルコトヲ得ルニ至リタルモノト認メタルトキハ事業ノ引繼ヲ命シ尚耕地整理組合ニ對シテハ普通水利組合ニ變更ノ申請ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

郡、市町村又ハ水利組合ハ地方長官ニ前項事業引繼ノ命令ヲ申請スルコトヲ得  
附則  
本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●耕地整理法ノ規定ニ依ル公共團體指定ノ件

(四十二年十月勅令第二百三十二號)

耕地整理法第四十三條第三號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス  
郡組合  
市町村内ノ區、町村組合、町村學校組合及其ノ區  
市制町村制ヲ施行セサル地ノ區町村内ノ部、町村組合、町村學校組合及其ノ區  
水利組合  
北海道土功組合



附則  
本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●土地收用法

(明治三十三年三月六日法律第二十九號)

- 第一章 總則
- 第二章 事業ノ準備
- 第三章 事業ノ認定
- 第四章 收用ノ手續
- 第五章 收用審査會
- 第六章 損失ノ補償
- 第七章 收用ノ效果
- 第八章 費用ノ負擔
- 第九章 監督、強制及罰則
- 第十章 訴願及訴訟

#### 土地收用法

##### 第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

#### 四百二十四

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業
  - 二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業
  - 三 教育、學藝又ハ慈善ニ關スル事業
  - 四 鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用器水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、電氣機、瓦斯燈又ハ火葬場ニ關スル事業
  - 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業
- 第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス
- 第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

##### 第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ宮内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主

務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長

ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後邸内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者



ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内閣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ内閣ニ提出スヘシ

第十四條 内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急務ヲ要スル事業ノ爲メ土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス  
軍事上臨時急務ヲ要スル事業ノ爲メ土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡市長ニ通知スヘシ

四百二十六

第十六條 起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

第十七條 郡市長カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

郡市長カ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年內ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後

ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日没後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸内ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ必要ト認ムルトキハ土地所有者又ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ゲタル關係ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地所有者又ハ關係人カ調査ノ必要ヲ認メタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス  
起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作りタル調査ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求ムトスルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ゲタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫書及圖面  
二 市區町村別ニ左ニ掲ゲタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目、收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ  
損失補償ノ見積金額及内譯  
收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間  
土地所有者及關係人ノ氏名、住所

四百二十七



收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ  
第二十四條 前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ豫メ公告ヲ爲シ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得  
收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

四百二十八

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急施ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ト生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三十三條 郡市長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條

起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第三十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域  
一 損失ノ補償  
三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ  
高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘ

キ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス  
收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監查役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ  
本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ  
一 府縣名譽職參事會員  
二 府縣名譽職參事會員ノ補充員  
三 府縣會議員



第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ビ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得  
前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得  
收用審査會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ  
裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同ヲ收用審査會ヲ開クコトヲ得  
第六章 損失ノ補償

四百三十

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス  
第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ  
使用スヘキ土地ニ付テハ其ノ土地及近傍類地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、塙柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用力三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス（但書追加大正三年三月法律第十五號）

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求

スルコトヲ得

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ボシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

第五十八條 第十九條地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ効果  
第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ  
左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

- 一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
- 二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
- 三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ

四百三十一



決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ

四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ゲタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ  
二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テテ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ゲサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 収用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ収用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ収用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之ヲ買受ルコトヲ得ス  
前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス

第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クモ三回ノ公告ヲ爲スヘシ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三回ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行為ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ

第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ

取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得ス

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ニ先ツルコトヲ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督、強制及罰則

七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込



ナキトキハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ニシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 收用審査會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ贈與シ又ハ贈與スルコトヲ約シタル者亦同シ

第七十六條 第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ障害物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

四百三十四

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者ハ詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

第八十條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出テ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章 訴願及訴訟

第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起ス

ルコトヲ得ス

第八十二條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十九條ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ケ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 收用審査會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

郡長ノ爲スヘキ職務ハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ヲ置カサル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區長ヲ置キタル地ニ於テハ區長之ヲ行フ

町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ町村長ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第八十七條 明治二十一年勅令第五號東京市區改正土地建物ノ處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協



議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

### ◎土地收用法施行令

(明治三十三年三月三十日勅令第九十九號)

第一條 土地收用法第十條第三項及第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長之ヲ行フ

第二條 土地收用法第九條第十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ日出前日没後邸内ニ立入ル者又ハ障害物ヲ除却スル者ハ行政廳ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調査及圖面ヲ申請書ニ添付スヘシ

- 一 御陵墓地及御料地
- 二 國有地
- 三 現ニ公用ニ供スル土地
- 四 社寺境内地
- 五 名所舊蹟及古墳墓

### 三百三十六

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公報ハ官報ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五條 内閣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ  
地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リ圖書ヲ作りタル者ハ之ニ署名又ハ捺印スヘシ

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ縦覽期間ノ始期ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願スヘシ

- 一 工事ノ種類
  - 二 取用又ハ使用スヘキ土地ノ細目
  - 三 其ノ必要ヲ生セシメタル事業トノ關係
- 本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス
- 第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許

可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ取用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ取用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ  
地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第十一條 取用審査會會長及委員ニハ旅費ヲ支給ス

第十二條 取用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内閣旅費規則ノ定ムル所ニ依ル  
高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル

第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ左ノ範圍内ニ於テ取用審査會ノ定ムル所ニ依ル  
一 汽車賃一哩ニ付三錢以上六錢以下  
二 船賃一海里ニ付三錢以上六錢以下

三 車馬賃一里ニ付十錢以上三十錢以下  
通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金一圓乃至金五圓ノ範圍内ニ於テ取用審査會ノ定ムル所ニ依ル  
鑑定ヲ爲スニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十五條 土地收用法第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官カ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ前二條ノ旅費額及手當ハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 土地收用法第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ物件ノ附加増置ニ關シテハ之ヲ郡市長ニ委任スルコトヲ得

第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テハ地



本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法第六條

ニ基ツク命令ノ件

(明治三十三年三月勅令第百號)

第一條 本令ハ土地收用法又ハ土地收用法ニ基

ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法

通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテ之ヲ適用ス

第二條 期間ヲ定ムルニ時ヲ以テシタルトキハ

即時ヨリ之ヲ起算ス

第三條 期間ヲ定ムルニ日、週、月又ハ年ヲ以テ

シタルトキハ期間ノ初日ハ之ヲ算入セス但シ

其ノ期間カ午前零時ヨリ始マルトキハ此ノ限

ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ期間ノ末日ノ終了ヲ以テ

期間ノ滿了トス

第四條 期間ノ末日カ大祭日、日曜日ニ當ルト

キハ期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス但シ行政廳

ニ對スル期間ハ其ノ末日カ行政廳ノ休日ニ當

ルトキハ其ノ休日ノ終了シタル翌日ヲ以テ滿

了トス

第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシ

タルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セサルト

キハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其

ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但

シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ

最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ

以テ滿了ス

第六條 土地收用法第十八條第二十五條及第三

十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル

場合ニ於テハ其ノ遞送ニ要スル日時ヲ算入セ

ス

第七條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ內

務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之

了ス

第五條 期間ヲ定ムルニ週、月又ハ年ヲ以テシ

タルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ算ス

週、月又ハ年ノ始メヨリ期間ヲ起算セサルト

キハ其ノ期間ハ最後ノ週、月又ハ年ニ於テ其

ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但

シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於テ

最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ

以テ滿了ス

第六條 土地收用法第十八條第二十五條及第三

十四條ノ期間ハ郵便ニ依リ書類ヲ差出シタル

場合ニ於テハ其ノ遞送ニ要スル日時ヲ算入セ

ス

第七條 通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ內

務大臣カ定メタル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之

ニ代フルコトヲ得

第八條 書類ノ送達ニシテ送達者自ラ送達セザ

ル場合ニ於テハ使丁又ハ書留郵便ニ依ルコト

ヲ得

第九條 數人カ一人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於

テ其ノ代理人ニ爲スヘキ送達ハ一通ノ書類ヲ

以テ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於

テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ

其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス

第十條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又

ハ事務所ニ在ラサルトキハ其ノ送達ハ現場ニ

在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ

得

第十一條 第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務

執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ

在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコト

ヲ得

第十二條 規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサル

一人カ數人ノ代理人ヲ有スル場合ニ於テ其ノ

代理人ニ爲スヘキ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲ス

コトヲ得

第十條 委任ニ因ル代理人アル場合ニ於テモ其

ノ委任者ニ爲シタル送達ハ其ノ效力ヲ妨ケス

第十一條 無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代

理人ニ之ヲ爲スヘシ但シ委任ニ因ル代理人アル

トキハ此ノ限ニ在ラス

法人又ハ組合ニ對スル送達ハ其ノ代表者又ハ

業務執行者ニ之ヲ爲スヘシ

了ス

前項ノ規定ハ送達ヲ受クヘキ人カ其ノ地ニ於

テ住所、居所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テ

其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ適用セス

第十條 送達ヲ受クヘキ人其ノ住所、居所又

ハ事務所ニ在ラサルトキハ其ノ送達ハ現場ニ

在ル成年ノ同居者又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ

得

第十一條 第二項ノ場合ニ於テ代表者又ハ業務

執行者事務所ニ在ラサルトキハ送達ハ現場ニ

在ル他ノ役員又ハ成年ノ雇人ニ之ヲ爲スコト

ヲ得

第十二條 規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサル

トキハ其ノ送達ハ交付スヘキ書類ヲ其ノ地ノ

市町村長ニ預ケ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ住所

又ハ居所ノ門戸ニ貼付シ且近隣ニ住居スル者

二人以上ニ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコト

ヲ得

第十六條 法令上ノ理由ナクシテ送達書類ヲ受

領セズ又ハ受領スルコト能ハサルトキハ其ノ

書類ヲ送達ノ場所ニ差置クコトヲ得此場合ニ

於テハ送達人ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第十七條 書類ノ送達ヲ受領シタル者ハ其ノ場

所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 現役及召集中ノ豫備、後備軍籍ニ

在ル下士以下ノ軍人ニ對スル送達ハ其ノ所屬

ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十三條 在監人ニ對スル送達ハ其ノ監獄ノ首

長ニ之ヲ爲スヘシ

第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ現所在地

ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ現所在地

ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第十四條 送達ハ送達ヲ受クヘキ人ノ現所在地



所及平日日時ヲ記載セル受領證ヲ交付スヘシ  
前項ノ受領證ヲ交付セス又ハ交付スルコト能  
ハサルトキ又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ  
送達ヲ爲シタルトキハ送達人ハ其ノ調書ヲ作  
ルヘシ

第十八條 送達ヲ受クヘキ者ノ住所、居所又ハ  
事務所不明ナルトキハ收用又ハ使用スヘキ土  
地所在ノ市町村長ニ於テ之ヲ公告スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ公告ノ日ヨリ一週間ヲ經過  
シタルトキハ送達ヲ爲シタルモノト看做ス  
第十九條 書類ノ送達ニ關スル規定ハ通知ヲ爲  
ス場合ニ之ヲ準用ス

第二十條 訴訟及訴訟提起期間ノ計算法ハ訴訟  
法行政裁判法及民事訴訟法ノ規定ヲ適用ス  
第二十一條 書留郵便ニ依リテ爲ス送達ニ付テ  
ハ郵便ニ關スル法令ノ規定ヲ適用ス

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●土地合同收用審査 會ニ關スル件

(明治三十三年三月勅令第百一號)

四百四十

第一條 合同收用審査會ヲ開カムトスルトキハ  
關係地方長官協議ヲ爲シ内務大臣ノ認可ヲ受  
クヘシ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ  
請フヘシ

第二條 合同收用審査會會長ハ開會地ノ地方長  
官ヲ以テ之ニ充テ其ノ委員ハ關係府縣收用審  
査會委員ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 土地收用法第二十六條乃至第二十九條  
ニ規定シタル地方長官ノ職權ハ合同收用審査  
會ヲ開キタル場合ニ於テハ開會地ノ地方長官  
之ヲ行フ

第四條 合同收用審査會ノ費用ニシテ府縣ノ負  
擔スヘキモノノ中高等文官ニ非サル委員ノ旅  
費ハ其ノ所屬府縣ノ負擔トシ其ノ他ハ關係府  
縣ノ負擔トス

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●土地收用法第八十 五條第三項ニ基ツ ク命令ノ件

水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有  
權以外ノ權利ニ付キテハ土地收用法ノ規定ヲ準  
用ス

### ●國有林野法

(明治三十二年三月  
法律第八十五號)

第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國  
ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野  
ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣  
拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ  
公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合  
ハ此限ニ在ラス

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入  
スルノ必要アルトキハ之カ組織ヲ爲スコトヲ  
得

組織ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタ  
ル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ  
更ニ國有林野ニ編入ス  
社寺土地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野  
ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ  
得

四百四十一

(明治三十三年三月勅令第百三號)

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規  
則ニ依リ買上ケ引續キ國有ニ屬スル土地ニ付テ  
ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ヲ除クノ外土地  
收用法第八十五條第一項及第二項ノ規定ヲ準用  
ス

一 公用土地買上規則第四則但書又ハ第八則  
ノ規定ニ依ラスシテ買上ケタル土地  
二 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ土地  
收用法施行ノ際現ニ修理保存費ヲ負擔スル  
土地

三 明治三十二年勅令第三百三十三號第一條  
ノ規定ニ依リ帝國ノ臣民又ハ法人ニ於テ所  
有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキ土地  
四 土地收用法施行前不用ニ歸シタル土地  
五 土地收用法施行前第三者ニ讓渡スヘキ契  
約ヲ爲シタル土地

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### ●權利收用ニ關スル 件(明治三十二年三月 法律第七十二號)



得

第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ鄰接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求メ施行スヘシ  
鄰接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ鄰接地所有者ニ通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第七條 鄰接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得  
一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ  
二 市町村又ハ公立小學園ノ基本財産ニ充ツルトキ

四百四十二

三 社寺土地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ  
四 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ  
五 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ

七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ

第九條 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂フ豫約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得  
一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ  
二 牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ  
三 牛馬放牧ノ爲使用セシムルコト  
四 第九條ニ依ル開墾者ノ爲ニスルトキ

五 一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルトキ  
第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徵收スヘシ但シ前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス  
一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年  
二 家屋、倉庫其ノ他ノ建設物ノ場合ニ於テハ三十年  
三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年

第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限り國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格以上ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得

第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り讓與スルコトヲ得  
一 段別一町歩以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ  
二 府縣郡市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、

溜池、火葬場、墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ

第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第十七條 社寺土地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムルコトヲ得  
社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得

第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得  
委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ  
四百四十三



契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ設クルコトヲ得

法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做ス

第二十二條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ部合ニ均シキモノトス

部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス

第二十一條 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

第二十五條 主務大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル

四百四十四

國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

附則

第二十六條 此ノ法律ハ北海道ニ施行セス

沖繩縣ノ國有林野ノ貸付、使用及賣拂並其ノ產物ノ處分ニ關シ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

國有土地森林原野

下戻法(明治三十二年四月法律第九十九號)

第一條 地租改正又ハ社寺土地處分ニ依リ官有ニ編入セラレ現ニ國有ニ屬スル土地森林原野者ハ立木竹ハ其ノ處分ノ當時之ニ付キ所有又ハ分收ノ事實アリタル者ハ此ノ法律ニ依リ明治三十三年六月三十日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得

者ハ其ノ土地森林原野若ハ立木竹ニ關シ第三者ニ對スル國ノ權利義務ヲ承繼ス

第五條 第二條ニ依リ下戻ヲ受ケタルモノト雖公用又ハ社寺境内ニ供セラレルモノハ其ノ公用又ハ社寺境内ヲ離シタル後ニアラサレハ權利ヲ行使スルコトヲ得ス

第六條 下戻申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七條 此ノ法律施行以前ニ差出シタル下戻ニ關スル申請書又ハ願書ハ此ノ法律ニ依リタルモノト看做ス

河川法

(明治二十九年四月一日法律第七十一號)

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

府縣設置以後土地處分ヲ受ケタル土地及地租改正處分既濟地方ニ於ケル未定地脫落地ニ付テハ此ノ法律ノ規定ヲ準用ス

第二條 下戻ノ申請ヲ爲ス者ハ第一條ノ事實ヲ證スル爲少クトモ左ノ書面ノ一ヲ添附スルコトヲ要ス

一 公簿若ハ公書ニ依リ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルモノ

二 高受又ハ正租ヲ納メタル證アルモノ

三 拂下下附賣買讓與實書入寄附等ニ依ル所有又ハ分收ノ事實ヲ證スヘキモノ

四 木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタル證アルモノ

五 私費ヲ以テ木竹ヲ植付ケタル證アルモノ

六 私費ヲ以テ田畑宅地ニ開墾シタル證アルモノ

第三條 前條ノ證據書類ニシテ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルニ足ルト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ下戻ヲ爲スヘシ

第四條 下戻ヲ受ケタル者ハ其ノ下戻ニ因リテ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得ス

前項ニ依リ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得シタル



流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモ  
ノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區  
域ヲ變更スヘシ

**第三條** 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的  
トナルコトヲ得ス

**第四條** 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川  
ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ  
設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規  
程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水  
ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却  
若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行  
政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ  
命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク  
ノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

**第五條** 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定  
ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐  
スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサ  
ル河川ニ準用スルコトヲ得

**第二章 河川ノ管理**  
**第六條** 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係  
ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全

スル爲必要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代  
テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ  
得

**第七條** 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行  
シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第  
四十三條ニ依リ通航料徵收ノ許可ヲ得タル者  
チシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ  
妨ケス

**第八條** 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係ス  
ル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ  
工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ  
又ハ河川ノ全部又ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一  
定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキ  
ハ主務大臣ハ自ラ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ  
工事ニ因リ特別ノ利益ヲ受ケル公共團體ノ行政  
廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依  
リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スル  
コトヲ得  
**第九條** 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其  
ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事  
ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシム

ルコトヲ得

**第十條** 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物  
ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其  
ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル  
工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコト  
ヲ得

他ノ工作物ニシテ兼テ河川ノ附屬物ノ效用  
ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ  
工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ  
ナスコトヲ得

**第十一條** 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ  
必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事  
ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシ  
ムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ  
工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必  
要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之  
ヲ施行スルコトヲ得

**第十二條** 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲ  
ナスコトヲ得ス  
**第十三條** 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命  
令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十四條** 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川  
ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ  
臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程  
ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項  
ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製  
後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルチ妨ケ  
ス

**第十五條** 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ  
吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給  
料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ  
命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

**第三章 河川ノ使用ニ關スル制限**  
並警察

**第十六條** 舟筏ノ通航及流木ニ關スル規程ハ命  
令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十七條** 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若  
ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受  
クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ  
害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物  
二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物



三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ボスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ

許可スル爲ニ必要ナルトキ

四百四十八

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受タルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又

ハ下級公共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ指揮シテ必要ナル處分ヲサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲ニ必要ナル準備ヲサシムルコトヲ得

第四章

河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並

河川ノ管理ヨリ生スル收入等

河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第二十四條 主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 通航料徵收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徵收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用

ニシテ其ノ府縣内ノ地租總額千分ノ二箇中ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地價總額千分ノ二箇中ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徵收スヘキ土地ノ一月一日現在地價ヲ謂フ

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ第一項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ハ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ



第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼テ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川

ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲メ必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建築物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得  
堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘシ工事ノ爲メ必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得  
前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ

ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲メ必要ナル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除ク外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲メ必要ナル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲メ寄付ヲナスコトヲ得  
第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助

使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ  
前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲メノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得  
本條ノ使用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス  
第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下



級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ

改築工事ヲ施行スル場合ニ限リ舟筏ヨリ通航

料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其

ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超

過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償

其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ

以テ之ヲ定ム

第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ

地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分

スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認

メタル證據アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有

者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從

ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲

又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ボス損害ヲ豫防ス

ル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又

ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務

ヲ有ス

設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコト

ヲ得ス

前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル

所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若

ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハ

シムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土

地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之

ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外

尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物

ニ關シ河川ノ公利ヲ增進シ又ハ公害ヲ除却若

ハ輕減スル爲ニ必要ナル制院ハ命令ヲ以テ之

ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ

規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川

ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域

若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監

督ス

第五十條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律

ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ

主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若

期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ

不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル

過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命ス

ルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發

スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメ

タル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目

的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ

事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若

ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ

之ヲ定ム

第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並

此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關

シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體

ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續

ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河

川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域

及其ノ附屬物ノ認定若ハ審帳ノ更正ヲナサシ

メ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ

職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法

律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス

若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スル

ノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜キ得サ

ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執

行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコト



依り公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲テ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ(禁錮)ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナ

第六章 訴願及訴訟

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

シタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
此ノ法律ニ依リ行政廳ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
第六十一條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十二條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依

リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十三條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場合ニ於テ補償金額ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ヲキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七章 附則

第六十五條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム  
此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十六條 河川ノ濫帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調整スヘシ

第六十七條 災害土木費負擔ニ關スル慣例及(外國人居留地)内ニ於ケル河川ニ關スル慣例ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラズ

砂防法抄録

(明治三十年三月法律第二十九號)

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若シ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行



ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發

スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得

前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發

スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス  
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

四百六十五

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發

スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務

ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

市區町村內土地ノ

字名改稱變更取扱

規定(明治四十四年三月)

府 縣(沖繩縣ヲ除ク)

從來公稱スル市町村內土地ノ字名ハ明治十四年第八十三號公達ノ趣旨ニ依リ容易ニ改稱變更スヘキモノニアラサルモ已ムヲ得サル事實アリテ改稱變更ヲ必要トスルモノニ限り左ノ規定ニ依リ取扱フヘシ  
一 市町村內大字名(市制町村制施行ノ際分合シタル舊區町村名、從前獨立町村內ノ支郷又ハ某組ト唱フル部落等ノ總稱)及市內ノ

二

町名ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ノ變更ヲ要スルトキハ市町村會之ヲ議決シ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ町村ニ屬スルモノハ島司、郡長ヲ經由シ島司、郡長ハ意見ヲ副申スヘシ

三

前項ノ場合ニ於テ其ノ區域全部カ國有林野ニ屬スルトキハ府縣知事之ヲ處分シ若シ其ノ區域カ國有林野ノ外民有地ニ屬スルトキハ府縣知事之ヲ處分スヘシ但シ本項ノ處分ハ直ニ之ヲ關係市町村ニ通知スヘシ

四

第二項ノ場合ニ於テ其ノ區域カ御料地ニ屬スルトキハ前項ノ例ニ依ルヘシ  
但シ帝室林野管理局長官ニ協議スヘシ  
耕地整理施行ノ爲メ市町村內ノ大字若ハ字ノ名稱ヲ改メ又ハ其ノ區域ヲ變更スルノ必要アルトキハ關係市町村會ノ意見ヲ聞キ

五

府縣知事之ヲ處分スヘシ但シ本項ノ處分ハ直ニ之ヲ關係市町村ニ通知スヘシ  
水面埋立地其ノ他新開地等新ニ字名稱ヲ付スルトキハ第二項ノ例ニ依ルヘシ  
市町村ノ境界ニ關スル爭論ノ裁決及民事訴訟

六

市町村ノ境界ニ關スル爭論ノ裁決及民事訴訟

七

八

訟ノ判決ニ依リ字名ノ訂正又ハ其ノ區域ヲ變更スヘキトキハ市參事會町村長、第七項ノリテハ町村長ニ進スヨリ府縣知事ニ申報セヘキ職務ヲ行フ者ヨリ府縣知事ニ申報セシムヘシ但シ町村ニ關スルモノハ島司、郡長ヲ經由スヘシ

九

第一項乃至第六項及第八項ノ許可又ハ處分ヲ爲シタルトキ並第七項ノ申報ヲ受ケタルトキハ府縣知事ハ直ニ其ノ府縣ニ於ケル公布式ニ依リ之ヲ公告シ同時其ノ公報ヲ內務大臣ニ報告シ且左ノ官廳ニ送付スヘシ(改

正九年訓令第十九號)

一 土地臺帳主管廳タル所轄稅務署

二 當該要審司令官、陸地測量部、當該師團司令官(近衛師團ヲ含メス)、當該聯隊司令官

三 同區裁判所、同區裁判所、同區裁判所、同區裁判所

四 同區裁判所、同區裁判所、同區裁判所、同區裁判所

○明治四十四年三月十五日內務省訓令第三號

從來公稱スル區町村內土地ノ字名ハ明治十四年

四百五十七



○明治四十四年三月十五日內務省訓令第四號  
北海通廳

第八十三號公達ノ趣旨ニ依リ容易ニ改稱變更ス  
ヘキモノニアラサルモ已ムテ得サル事實アリテ  
改稱變更ヲ必要トスルモノニ限リ左ノ規定ニ依  
リ取扱フヘシ  
一 區町村ノ字名ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ノ變  
更ヲ要スルトキハ區町村會之ヲ議決シ縣知  
事ノ許可ヲ受ケヘシ但シ區町村ニ屬スルモ  
ハ島司、郡長ヲ經由シ島司、郡長ハ意見ヲ  
副申スヘシ  
二 區町村ノ小字ヲ改稱シ又ハ其ノ區域ノ變  
更ヲ要スルトキハ關係アル地主ノ意見ヲ聞  
キ區町村會之ヲ議決シ縣知事ノ許可ヲ受ケ  
ヘシ但シ區町村ニ屬スルモノハ島司、郡長ヲ  
經由シ島司、郡長ハ意見ヲ副申スヘシ  
三 水面埋立地其ノ他新開地等ノ新ニ字及小字ノ  
名稱ヲ付スルトキハ前二項ノ例ニ依ルヘシ  
四 前各項ノ許可又ハ處分ヲ爲シタルトキハ縣  
知事ハ直ニ其ノ縣ニ於ケル公布式ニ依リ之  
ヲ公告シ同時ニ其ノ公報ヲ內務大臣ニ報告  
シ且左ノ官廳ニ送付スヘシ  
一 土地臺帳主管廳タル所轄稅務署  
當該要審司令部、陸地測量部、當該師  
團司令部(近衛師團ヲ含マズ)、當該聯  
隊司令部  
二 區司法省、所轄地方裁判所、同區裁判所、  
同區裁判所出張所  
三 同區裁判所出張所  
四 同區裁判所出張所、同管船局、同電氣局、  
當該所轄郵便局

從來公稱スル區町村内地ノ字名ハ容易ニ改稱  
變更スヘキモノニアラサルモ已ムテ得サル事由  
アリテ其ノ改稱變更ヲ必要トシ又新開地等ニテ  
新ニ字名ノ設定ヲ要スルトキハ北海道廳長官之  
ヲ定ムヘシ  
前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ廳ニ於ケ  
ル公布式ニ依リ之ヲ公告シ同時ニ其ノ公報ヲ內  
務大臣ニ報告シ且左ノ官廳ニ送付スヘシ  
一 土地臺帳主管廳タル所轄稅務署  
當該要審司令部、陸地測量部、當該師團司令  
部(近衛師團ヲ含マズ)、當該聯隊司令部  
二 區司法省、所轄地方裁判所、同區裁判所、同區  
裁判所出張所  
三 同區裁判所出張所  
四 同區裁判所出張所、同管船局、同電氣局、當該  
所轄郵便局

○明治十四年九月二十二日太政官第八十三號  
各地ニ唱フル字ノ儀ハ其地固有ノ名稱ニシテ往  
古ヨリ傳來ノモノ甚多ク土地爭訟ノ審判歴史ノ  
考證地誌ノ編纂等ニハ最も要用ナルモノニ候條  
漫ニ改稱變更不致様可心得此旨相達候事  
但實際已ムテ得サル分ハ時時內務省ヘ可伺出  
候事

官有財産管理規則

(明治二十三年十一月二十五日)  
勅令第二百七十五號

第一條 此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國  
ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、  
第二條 官有財産ハ主管大臣ノ管理ス  
ルニ依リ、官有財産ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ  
特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ  
依ルヘシ  
第三條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際  
一時ニ納付セシムヘシ  
第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際  
一時ニ納付セシムヘシ  
第五條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際  
一時ニ納付セシムヘシ  
第六條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際  
一時ニ納付セシムヘシ  
第七條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際  
一時ニ納付セシムヘシ  
第八條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際  
一時ニ納付セシムヘシ

國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契  
約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ  
前項ノ場合ニ於テ借受人ハ其ノ直接ニ受ケタ  
ル損失ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得  
第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許  
可ヲ得スルニシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意  
怠慢ニ由リ之ヲ荒廢ニ歸シ又ハ毀損亡失シタ  
ルトキハ主管大臣ハ其ノ損失ヲ賠償セシムヘ  
シ  
第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ  
得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スル  
コトヲ得ス  
第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換  
スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少ク  
トモ評定價格相均キモノニ限ル  
森林、原野、田畑ハ同一種類ノ財産ト見做ス  
コトヲ得  
第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市  
場、河川、汙水敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル  
爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大  
臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコ  
トヲ得  
第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、



市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲  
ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内  
務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコ  
トヲ得但シ官林内若ハ官廳使用地内ニ包含セ  
ルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモ  
ノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場  
合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲  
ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換  
スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂  
若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ  
滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一  
日ニ現在スル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ其  
ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ  
但シ國防用防禦營造物ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所  
管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度  
開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ  
國防用防禦營造物ハ此ノ限ニ在ラス

### 官有地取扱規則

(明治二十三年十一月二十五日  
勅令第二百七十六號)

第一條 官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ内務大  
臣ニテ處理ス

第二條 官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結  
登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ内務大  
臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第三條 各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスル  
キハ内務大臣ニ請求スヘシ

第四條 各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ内  
務大臣ニ還付スヘシ

第五條 甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移  
サントスルトキハ内務大臣其手續ヲ爲スヘシ

第六條 各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付  
セントスルモノアルトキハ内務大臣受納ノ手  
續ヲ爲スヘシ

第七條 官有地ヲ開墾セントシ請フモノアル  
トキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ  
後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ  
豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ

### 四百六十

開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ  
國防用防禦營造物ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書  
ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價

第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル  
最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格  
アルモノハ其ノ價格

第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ  
其ノ目錄價格

第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タ  
ル財産

第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アル  
モノハ其ノ條件

第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲グル官有財産  
ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三  
月三十一日ノ現在高チ以テ同年六月三十日マ  
テニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未濟ノ官有財産  
ハ調査了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ

第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨ  
リ施行ス

第八條 官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及  
價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコ  
トヲ得ス

第九條 借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニ非サレハ  
其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ  
得ス

借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官  
ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地  
ヲ命スルコトヲ得

第十條 借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變  
シタルトキハ借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ  
原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタル  
モノハ此限ニアラス

第十一條 官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公  
用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ  
貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル  
限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特  
ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條 官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地  
ト爲サンコトヲ請フモノアルトキハ公衆ノ妨  
害トナラサル部分ニ限リ之ヲ許スコトヲ得

第十三條 官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換



貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條 隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條 官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財産管理規則ニ依ル

第十六條 本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス

第十七條 官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

### 官有地特別處分規

則(明治二十三年七月二十二日勅令第三百三十五號)

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競

### 四百六十二

争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡スコトキ

二 不用ニ屬スル官有地ニシテ其ノ評定價格四百圓以內坪數六百坪未滿ノモノヲ賣渡シ又ハ其ノ貸渡料一箇年四十圓以內貸渡期限五箇年以內ノモノヲ貸渡スコトキ但シ望人二名以上ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡スコトキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡スコトキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接

公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理

上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其

土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

### 北海道國有未開地處分法

(明治四十一年四月法律第五十七號)

第一條 北海道國有未開地ノ處分ハ本法ニ依リ北海道廳長官之ヲ行フ

第二條 土地ノ賣拂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内ニ其土地ニ關スル事業ヲ成功スヘキ者又ハ棄地ノ儘使用セムトスル者ニ對シ之ヲ行フ

第三條 自ラ耕作ヲ爲サムトスル者ノ爲メ土地ノ區域ヲ限リ特定地ヲ設置ス特定地ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ貸付シ成功ノ後之ヲ

付與ス

第四條 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ之ヲ付與シ又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第五條 棄地ノ儘使用セムトスル土地ハ有償又ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得

第六條 賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ地積ノ制限並賣拂及貸付ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 民有地トノ交換ハ價額稍相均シキモノニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 賣拂ヲ爲ス土地ニ關スル事業ノ成功期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 土地ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 無償貸付 十年

二 有償貸付 十五年

第十條 前二條ノ期間ハ植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ限リ特ニ二十年迄之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ事業ヲ成功スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得前項ノ延長期間ハ通シテ豫定期間ノ半ヲ超ユ



ルコトヲ得ス  
第十二條 土地ノ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ行政廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ貸付處分ヲ取消スコトヲ得  
第十三條 賣拂又ハ貸付ヲ受ケタル者ノ權利ヲ取得シタル者ハ本法ニ依ル前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第十四條 土地ノ賣拂又ハ第三條第二項ニ依ル貸付ヲ受ケタル者法令ノ規定又ハ豫定ノ事業方法ニ違反シタルトキハ未成功地ノ全部ニ付賣拂又ハ貸付ノ處分ヲ取消スヘシ此ノ場合ニ於テ拓殖上又ハ土地整理上支障アリト認ムルトキハ其ノ成功地ノ一部又ハ全部ニ付亦同シ前項ノ場合ニ於テ賣拂ヒタル土地ニ付テハ賣拂代金ハ之ヲ還付セシム

第十五條 左ノ場合ニ於テハ天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルモノヲ除クノ外貸付又ハ付與ノ處分ヲ取消スヘシ但シ借地料ハ之ヲ還付セシム  
一 第四條又ハ第五條ニ依リ無償ニテ貸付シ

タル土地ニシテ一年以内ニ事業ニ著手セス又ハ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ  
二 第四條又ハ第五條ニ依リ付與又ハ有償ニテ貸付シタル土地ニシテ二年以内ニ事業ニ著手セス又ハ豫定ノ目的ニ使用セサルトキ

第十六條 貸付地ニシテ公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要アルモノハ之ヲ返還セシムルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ノ請求ニ因リ評定ノ上移轉料ヲ辨償シ又ハ評定價額ヲ以テ之ヲ買收シ且土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ハ之ヲ辨償ス但シ第三條第二項ニ依リ貸付シタル土地ノ評定價額其ノ土地ニ對シテ費シタル直接ノ費用ヨリ多キトキハ其ノ價額ニ依リテ辨償ス  
前項ノ處分ニ要スル費用ハ返還地ノ使用ヲ爲スヘキ者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ  
第十七條 自己ノ便宜ニ依リ貸付地ヲ返還シ又ハ賣拂、貸付若ハ付與ノ處分ヲ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物其ノ

他ノ物件アルトキハ所有者ニ於テ行政廳ノ指定スル期間内ニ之ヲ除去スヘシ其ノ除去セラレサルモノハ國ノ所有ニ歸ス  
第十八條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因ルニ非スシテ貸付地ヲ返還シ又ハ第十四條第一項ノ處分若ハ付與ノ處分ヲ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ伐採シタル樹木アルトキハ其ノ相當代價ヲ辨償セシム

第十九條 民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功期間満了ノ翌年ヨリ起算シ十年ノ後ニ非サレハ之ヲ賦課セス但シ素地ノ儘使用スル土地又ハ交換若ハ第四條ニ依リ付與シタル土地ニ對シテハ民有ト爲リタル翌年ヨリ起算ス

第二十條 土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以内ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地臺帳ニ登錄スルトキハ其ノ登錄稅ヲ免除ス

前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スルコトヲ要ス  
第二十一條 拓殖上又ハ土地整理上必要アル場

合ニ於テハ既ニ開墾セラレタル部分ヲ含ム土地ト雖本法ニ依リ處分スルコトヲ得  
第二十二條 賣拂、貸付又ハ付與ノ處分ヲ取消アリタルトキハ其ノ土地ニ付登記シタル所有權以外ノ權利ハ消滅ス  
第二十三條 賣拂又ハ付與シタル土地ノ返還ヲ命ジタルトキハ行政廳ハ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ  
前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登記官吏ハ通知ノ事項ヲ登記用紙中甲區事項欄ニ記載シ不動產ノ表示、表示番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二十四條 第十四條第一項又ハ第十五條ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (四十二年勅令  
第四百十五號ヲ以テ同  
年七月一日ヨリ施行)  
第十五條ノ期間ハ舊法ニ依リ付與又ハ貸付シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

四百六十五



舊法第三條第一項ニ依リ貸付シタル土地ニ對シテハ本法ノ特定地ニ關スル規定ヲ適用ス  
舊法ニ依リ賣拂ヒ交換若ハ付與シタル土地ノ免租期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

### ◎北海道舊土人保護法

法

(明治三十二年三月二日法律第二十七條)

- 第一條 北海道舊土人ニシテ農業ニ從事スル者又ハ從事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以內ヲ限リ無償下付スルコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ從フヘキモノトス
  - 一 相續ニ因ルノ外讓渡スコトヲ得ス
  - 二 質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス
  - 三 北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス
  - 四 留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ
- 前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス又登錄稅ヲ徵收セス

- 舊土人ニ於テ從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ相續ニ因ルノ外之ヲ讓渡シ又ハ第一項第二及第三ニ掲ケタル物權ヲ設定スルコトヲ得ス
- 第三條 第一條ニ依リ下付シタル土地ニシテ其ノ下付ノ年ヨリ起算シ十五箇年ヲ經ルモ尙開墾セサル部分ハ之ヲ沒收ス
- 第四條 北海道舊土人ニシテ貧困ナル者ニハ農具及種子ヲ給スルコトヲ得
- 第五條 北海道舊土人ニシテ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ自費治療スルコト能ハサル者ハ之ヲ救療シ又ハ藥價ヲ給スルコトヲ得
- 第六條 北海道舊土人ニシテ傷疾疾病、不具、老衰又ハ幼少ノ爲自活スルコト能ハサル者ハ從來ノ成規ニ依リ救助スルノ外仍之ヲ救助シ救助中死亡シタルキハ埋葬料ヲ給スルコトヲ得
- 第七條 北海道舊土人ノ貧困ナル者ノ子弟ニシテ就學スル者ニハ授業料ヲ給スルコトヲ得
- 第八條 第四條乃至第七條ニ要スル費用ハ北海道舊土人共有財產ノ收益ヲ以テ之ニ充ツ若シ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ支出ス
- 第九條 北海道舊土人ノ部落ヲ爲シタル場所ニ

ハ國庫ノ費用ヲ以テ小學校ヲ設クルコトヲ得  
第十條 北海道廳長官ハ北海道舊土人共有財產ヲ管理スルコトヲ得

北海道廳長官ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ共有者ノ利益ノ爲ニ共有財產ノ處分ヲ爲シ又必要ト認ムルトキハ其ノ分割ヲ拒ムコトヲ得  
北海道廳長官ノ管理スル共有財產ハ北海道廳長官之ヲ指定ス

第十一條 北海道廳長官ハ北海道舊土人保護ニ關シテ警察令ヲ發シ之ニ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若ハ十一日以上二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

### ◎國有財產法

第十二條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス  
第十三條 此ノ法律ノ施行ニ關スル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

第一條 (大正十年四月七日法律第四十三號)  
本法ニ於テ國有財產ト稱スルハ國有ノ

不動産並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ不動産及權利ヲ謂フ

- 第二條 國有財產ヲ分チテ左ノ四種トス
  - 一 公共用財產 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
  - 二 公用財產 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、專業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
  - 三 營林財產 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
  - 四 雜種財產 前各號ニ屬セサルモノ
- 第三條 國有財產ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財產ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ
- 第四條 國有財產ハ雜種財產ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 雜種財產ハ左ニ掲ケル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得
  - 一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公



用ニ供スル爲必要アルトキ  
二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限リ之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限リ帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴訟シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス  
一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年

二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコト

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス



第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サシムル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セザルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セザルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與

又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 従前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ

臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 政府ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財産増減總計算書ニハ各省ノ國有財産増減報告書ヲ、國有財産現在額總計算書ニハ各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添附スヘシ

附則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ

定ム(大正十年 月 日勅令第 號)

ヲ以テ同年 月 日ヨリ施行ス)

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財産ニ付之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動報告ニ付テハ仍従前ノ例ニ依ル

第三十二條 従前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特

別ノ定ヲ爲スコトヲ得

◎借地法

(大正十年四月七日法律第四十九號)

第一條 本法ニ於テ借地權ト稱スルハ建物ノ所有ヲ目的トスル地上權及賃借權ヲ謂フ

第二條 借地權ノ存續期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ之ニ類スル堅固ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ六十年、其ノ他ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ三十年トス但シ建物力此ノ期間滿了前朽廢シタルトキハ借地權ハ之ニ因リテ消滅ス

契約ヲ以テ堅固ノ建物ニ付三十年以上、其ノ他ノ建物ニ付二十年以上ノ存續期間ヲ定メタルトキハ借地權ハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第三條 契約ヲ以テ借地權ヲ設定スル場合ニ於テ建物ノ種類及構造ヲ定メザルトキハ借地權ハ堅固ノ建物以外ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノト看做ス

第四條 借地權消滅ノ場合ニ於テ建物アルトキハ借地權者ハ契約ノ更新ヲ請求スルコトヲ



得

土地所有者が契約ノ更新ヲ欲セザルトキハ時價ヲ以テ建物其ノ他借地権者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第五條 當事者カ契約ヲ更新スル場合ニ於テハ借地権ノ存續期間ハ更新ノ時ヨリ起算シ堅固ノ建物ニ付テハ三十年、其ノ他ノ建物ニ付テハ二十年トス此ノ場合ニ於テハ第二條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

第六條 借地権者借地権ノ消滅後土地ノ使用ヲ繼續スル場合ニ於テ土地所有者カ遲滞ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ前契約ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ借地権ヲ設定シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七條 借地権ノ消滅前建物カ滅失シタル場合ニ於テ殘存期間ヲ超エテ存續スヘキ建物ノ築造ニ對シ土地所有者カ遲滞ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ借地権ハ建物滅失ノ日ヨリ起算シ堅固ノ建物ニ付テハ三十年間、其ノ他ノ建物

四百七十二

ニ付テハ二十年間存續ス但シ殘存期間之ヨリ長キトキハ其ノ期間ニ依ル

第八條 前二條ノ規定ハ借地権者カ更ニ借地権ヲ設定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 前七條ノ規定ハ臨時設備其ノ他一時使用ノ爲借地権ヲ設定シタルコト明ナル場合ニハ之ヲ適用セス

第十條 第三者カ貸借權ノ目的タル土地ノ上ニ存スル建物其ノ他借地権者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ取得シタル場合ニ於テ貸借權人カ貸借權ノ讓渡又ハ轉貸ヲ承諾セザルトキハ貸借權人ニ對シ時價ヲ以テ建物其ノ他借地権者カ權原ニ因リテ土地ニ附屬セシメタル物ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十一條 第二條、第四條乃至第八條及前條ノ規定ニ反スル契約條件ニシテ借地権者ニ不利ナルモノハ之ヲ定メザルモノト看做ス

第十二條 地代又ハ借賃カ土地ニ對スル租稅其ノ他ノ公課ノ増減若ハ土地ノ價格ノ高低ニ因リ又ハ比隣ノ土地ノ地代若ハ借賃ニ比較シテ不相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ條件ニ拘ラス當事者ハ將來ニ向テ地代又ハ借賃ノ増減

ヲ請求スルコトヲ得但シ一定ノ期間地代又ハ借賃ヲ増加セザルヘキ特約アルトキハ其ノ定ニ從フ

第十三條 土地所有者又ハ貸借人ハ辨濟期ニ至リタル最後ノ二年分ノ地代又ハ借賃ニ付借地権者カ其ノ土地ニ於テ所有スル建物ノ上ニ先取特權ヲ有ス

第十四條 前條ノ先取特權ハ他ノ權利ニ對シテ優先ノ効力ヲ有ス但シ國稅徵收法ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請求權、共益費用不動産保存不動産工事ノ先取特權及地上權又ハ貸借ノ登記前登記シタル質權抵當權ニ後ル

附則

第十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年 月 日勅令第 號ヲ以テ同年 月 日ヨリ施行ス)

第十六條 本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 本法施行前設定シタル地上權又ハ賃借權ニシテ建物ノ所有ヲ目的トスルモノノ存

續期間ハ既ニ經過シタル期間ヲ算入シ堅固ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ三十年、其ノ他ノ建物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付テハ二十年トス但シ建物カ此ノ期間滿了前朽廢シタルトキハ借地権ハ之ニ因リテ消滅シ堅固ノ建物ニ付三十年ヲ超エ、其ノ他ノ建物ニ付二十年ヲ超ユル存續期間ノ定アル地上權ハ其ノ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス

◎借家法(大正十年四月七日) 法律第五十號



第一條 建物ノ貸借ハ其ノ登記ナキモ建物ノ

引渡アリタルトキハ爾後其ノ建物ニ付物權ヲ

取得シタル者ニ對シ其ノ效力ヲ生ス

民法第五百六十六條第一項及第三項ノ規定ハ

登記セサル貸借ノ目的タル建物カ賣買ノ目

的物ナル場合ニ之ヲ準用ス

民法第五百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之

ヲ準用ス

第二條 貸借ノ期間満了ノ後賃借人カ建物ノ

使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃借人カ

遲滞ナク異議ヲ述ヘサリシトキハ前貸借ト

同一ノ條件ヲ以テ更ニ貸借ヲ爲シタルモノ

ト看做ス

第三條 賃借人ノ解約申入ハ六月前ニ之ヲ爲ス

コトヲ要ス

六月未滿ノ期間ノ定アル貸借ハ之ヲ期間ノ

定ナキモノト看做ス

前條ノ規定ハ貸借カ解約申入ニ因リテ終了

シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 解約申入ニ因リテ終了スヘキ、轉賃借

アル場合ニ於テ貸借カ終了スヘキトキハ賃

借人ハ轉借人ニ對シ其ノ旨ノ通知ヲ爲スニ非

シタルコト明ナル場合ニハ之ヲ適用セス

附則

第九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正十年 五月十二日勅令第二〇七號ヲ以

テ同年 五月十五日ヨリ施行ス)

第十條 本法施行ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 本法ハ本法施行前ニ爲シタル建物ノ

貸借ニ付亦之ヲ適用ス但シ本法施行前ニ賃

借人ノ解約ノ申入アリタル場合ニ於テハ賃借

借ハ既ニ經過シタル期間ヲ算入シ六月ヲ經過

スルニ因リテ終了ス

公有水面埋立法

(大正十年四月八日法律第五十七號)

第一條 本法ニ於テ公有水面ト稱スルハ河、海、

湖、沼其ノ他ノ公共ノ用ニ供スル水流又ハ水

面ニシテ國ノ所有ニ屬スルモノヲ謂ヒ埋立ト

稱スルハ公有水面ノ埋立ヲ謂フ

公有水面ノ干拓ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ埋

立ト看做ス

本法ハ耕地整理法ニ依ル溝渠又ハ溜池ノ變更

ノ爲必要ナル埋立其ノ他勅令ヲ以テ指定スル

サレハ其ノ終了ヲ以テ轉借人ニ對抗スルコト

ヲ得ス

賃借人カ前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ轉賃借

人ハ其ノ通知ノ後六月ヲ經過スルニ因リテ終了

ス

第五條 賃借人ノ同意ヲ得テ建物ニ附加シタル

疊、建具其ノ他ノ造作アルトキハ賃借人ハ賃

借終了ノ場合ニ於テ其ノ際ニ於ケル賃借人

ニ對シ時價ヲ以テ其ノ造作ヲ買取ルヘキコト

ヲ請求スルコトヲ得賃借人ヨリ買受ケタル造

作ニ付亦同シ

第六條 前五條ノ規定ニ反スル特約ニシテ賃借

人ニ不利ナルモノハ之ヲ爲ササルモノト看做

ス

第七條 建物ノ借賃カ土地若ハ建物ニ對スル租

稅其ノ他ノ負擔ノ増減ニ因リ、土地若ハ建物

ノ價格ノ昂低ニ因リ又ハ比隣ノ建物ノ借賃ニ

比較シテ相當ナルニ至リタルトキハ契約ノ

條件ニ拘ラス當事者ハ將來ニ向テ借賃ノ増減

ヲ請求スルコトヲ得但シ一定ノ期間借賃ヲ増

加セサルヘキ特約アルトキハ其ノ定ニ從フ

第八條 本法ハ一時使用ノ爲建物ノ貸借ヲ爲

埋立ニ付之ヲ適用セス

第二條 埋立ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ免

許ヲ受ケヘシ

第三條 前條ノ免許ハ地方長官期間ヲ指定シテ

地元市町村會ノ意見ヲ徵シ之ヲ爲スヘシ

第四條 地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區

域内ニ於ケル公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者

アルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除

クノ外埋立ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

一 其ノ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者埋立

ニ同意シタルトキ

二 其ノ埋立ニ因リテ生スル利益ノ程度カ損

害ノ程度ヲ著シク超過スルトキ

三 其ノ埋立カ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使

用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルトキ

第五條 前條ニ於テ公有水面ニ關シ權利ヲ有ス

ル者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ

謂フ

一 法令ニ依リ公有水面占用ノ許可ヲ受ケタ

ル者

二 漁業權者又ハ入漁權者

三 法令ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ



公有水面ニ排水ヲ爲ス許可ヲ受ケタル者  
四 慣習ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ  
公有水面ニ排水ヲ爲ス者

第六條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ勅令ノ定ム  
ル所ニ依リ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ對シ其  
ノ損害ノ補償ヲ爲シ又ハ其ノ損害ノ防止ノ施  
設ヲ爲スヘシ  
漁業權者及入漁權者ノ前項ノ規定ニ依ル補償  
ヲ受ケル權利ハ共同シテ之ヲ有スルモノト  
ス

第一項ノ補償又ハ施設ニ關シ協議調ハサルト  
キ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長  
官ノ裁定ヲ求ムヘシ

第七條 前條ノ規定ニ依リ漁業權者ニ對シ損害  
ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ漁業權カ登  
録シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タルトキ  
ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ補償ノ金額  
ヲ供託スヘシ但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ  
同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ規定ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内  
ニ於ケル公有水面ニ付存スル漁業權又ハ入漁  
權カ訴訟ノ目的タル爲訴訟當事者ヨリ請求ア

リタル場合ニ之ヲ準用ス  
登録シタル先取特權若ハ抵當權ヲ有スル者又  
ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依ル供託金ニ  
對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第八條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規  
定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ  
其ノ補償ヲ爲シ又ハ前條ノ規定ニ依ル供託  
爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル  
者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ著手スルコトヲ得  
ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルト  
キ又ハ地方長官ノ裁定シタル補償ノ金額ヲ供  
託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依  
リ損害防止ノ施設ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其  
ノ施設ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利  
ヲ有スル者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ著手スル  
コトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ  
得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲ス  
ヘキ漁業權ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權  
ヲ有スル者ハ前條第一項但書ノ規定ニ依ル供  
託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十條

公有水面ノ利川ニ關シテ爲シタル施設  
カ埋立ノ爲其ノ效用ヲ妨ケラレルトキハ地方  
長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受  
ケタル者ヲシテ其ノ施設ヲ爲シタル者ニ對シ  
之ニ代ルヘキ施設若ハ其ノ效用ヲ保全スル爲  
必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ損害ノ全部若ハ  
一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第十一條 地方長官埋立ヲ免許シタルトキハ其  
ノ免許ノ日及其ノ事件ノ要領ヲ告示スヘシ

第十二條 地方長官ハ埋立ニ付免許料ヲ徵收ス  
ルコトヲ得

前項ノ免許料ノ徵收及歸屬ニ關シ必要ナル事  
項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關  
スル工事ノ著手及工事ノ竣功ヲ地方長官ノ指  
定スル期間内ニ爲スヘシ

地方長官正常ノ事由アリト認ムルトキハ前項  
ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第十四條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關ス  
ル測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ地方長官  
ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土  
地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入り又ハ使用ヲ爲サムトス  
ル者ハ其ノ日時及場所ヲ少クとも五日日前ニ其  
ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルト  
キハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ通知ス  
ルコト能ハサルトキハ告示スヘシ

前三項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者  
ニ關シ之ヲ準用ス

第十五條 前條ノ規定ニ依ル立入り又ハ使用ニ因  
リテ生シタル損害ハ其ノ立入り又ハ使用ヲ爲シ  
タル者之ヲ補償スヘシ

第十六條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ地方長官  
ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ埋立ヲ爲ス權利ヲ  
他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタ  
ル者ハ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス  
處分若ハ其ノ條件ニ依リ讓渡人ニ生シタル權  
利義務ヲ承繼ス但シ第六條第一項、第十條又  
ハ前條ノ規定ニ依ル義務ハ讓渡人及讓受人連  
帶シテ之ヲ負フ

第十七條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ相續人ハ  
其ノ被相續人ノ有シタル埋立ヲ爲ス權利ヲ承  
續スルコトヲ得



繼ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第十八條 埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社成立  
ノ後ニ於テ會社ノ爲ス埋立ニ付免許ヲ受ケタ  
ル場合ニ於テ會社成立シタルトキハ埋立ヲ爲  
ス權利其ノ他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基  
キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權  
利義務ハ會社之ヲ承繼ス

第十九條 埋立ノ免許ヲ受ケタル會社合併ニ因  
リテ消滅シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其ノ他  
ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分  
若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ合併  
後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ成立シタル  
會社之ヲ承繼ス

第二十條 前三條ノ規定ニ依リ權利義務ヲ承繼  
シタル者ハ其ノ承繼ノ日ヨリ起算シ十四日內  
ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 第十六條乃至第十九條ノ規定ニ依  
ル權利義務ノ承繼アリタル場合ニ於テハ本法  
ノ適用ニ付テハ其ノ權利義務ヲ承繼シタル者  
ヲ以テ埋立ノ免許ヲ受ケタル者トス  
第二十二條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ

關スル工事竣功シタルトキハ遲滞ナク地方長  
官ニ竣功認可ヲ申請スヘシ

第二十三條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ  
竣功認可前ニ於テ埋立地ヲ使用スルコトヲ得  
但シ埋立地ニ埋立ニ關スル工事用ニ非サル工  
作物ヲ設置セムトスルトキハ命令ヲ以テ指定  
スル場合ヲ除クノ外地方長官ノ許可ヲ受ケヘ  
シ

第二十四條 第二十二條ノ竣功認可アリタルト  
キハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ竣功認可  
ノ日ニ於テ埋立地ノ所有權ヲ取得ス但シ公用  
又ハ公共ノ用ニ供スル爲必要ナル埋立地ニシ  
テ埋立ノ免許條件ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル  
モノハ此ノ限ニ在ラス  
前項但書ノ埋立地ノ歸屬ニ付テハ勅令ヲ以テ  
之ヲ定ム

第二十五條 公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋  
立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタル  
モノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ有償又ハ無償ニ  
テ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下付スルコ  
トヲ得  
第二十六條 前二條ノ規定ハ耕地整理法第十一

條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第二十七條 埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓  
渡ニ付テハ埋立ノ免許條件ヲ以テ地方長官ノ  
許可ヲ受ケヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ埋立地ニ關スル處分ノ制限  
ヲ定メタル場合ニ於テハ地方長官ハ第二十二  
條ノ竣功認可ヲ爲シタル後遲滞ナク其ノ登記  
ヲ登記所ニ囑託スヘシ  
不動産登記法第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ登  
記ニ付テハ準用ス

地方長官登記シタル處分ノ制限ノ全部又ハ一  
部ヲ解除シタルトキハ遲滞ナク其ノ登記ノ抹  
消又ハ變更ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十八條 前條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立  
地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニシテ同條第  
一項ノ許可ヲ受ケヘキモノハ其ノ許可ヲ受ケ  
ルニ非サンハ效力ヲ生セス

第二十九條 前條ノ許可ヲ受ケ權利ヲ取得シタ  
ル者ヲ除クノ外第二十七條第二項ノ登記ヲ爲  
シタル埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ハ  
其ノ取得ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ地方長官  
ニ届出ツヘシ

第三十條 地方長官ハ前二條ノ埋立地ニ關スル  
權利ヲ取得シタル者ニ對シ埋立ノ免許條件ノ  
範圍內ニ於テ義務ヲ命スルコトヲ得

第三十一條 第八條第一項ノ規定ニ依リ埋立ニ  
關スル工事ニ著手スルコトヲ得ル場合ニ於テ  
ハ地方長官ハ其ノ工事ノ施行區域內ニ於ケル  
公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ノ除却  
ヲ其ノ所有者ニ命スルコトヲ得

第三十二條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ埋立ニ關  
スル工事竣功認可前ニ限リ地方長官ハ埋立ノ  
免許ヲ受ケタル者ニ對シ本法若ハ本法ニ基キ  
テ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル免許其ノ  
他ノ處分ヲ取消シ其ノ效力ヲ制限シ若ハ其ノ  
條件ヲ變更シ、埋立ニ關スル工事ノ施行區域  
內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ  
物件ヲ改築若ハ除却セシメ、損害ヲ防止スル  
爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲  
サシムルコトヲ得

一 埋立ニ關スル法令ノ規定又ハ之ニ基キテ  
爲ス處分ニ違反シタルトキ  
二 埋立ニ關スル法令ニ依リ免許其ノ他ノ處  
分ノ條件ニ違反シタルトキ



三 詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタルトキ

四 埋立ニ關スル工事施行ノ方法公害ヲ生スルノ虞アルトキ

五 公有水面ノ狀況ノ變更ニ因リ必要ヲ生シタルトキ

六 公害ヲ除却シ又ハ輕減スル爲必要ナルトキ

七 前號ノ場合ヲ除クノ外法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルトキ

前項第七號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方長官ハ同號ノ事業ヲ爲ス者ヲシテ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

**第三十三條** 埋立ニ關スル工事竣功認可後埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件又ハ第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反スル者アルトキハ地方長官ハ其ノ違反ニ因リテ生シタル事實ヲ更正セシメ又ハ其ノ違反ニ因リテ生スル損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシムルコトヲ得

**第三十四條** 左ニ掲グルル場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ地方長官ハ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ效力ヲ失ヒタル日ヨリ起算シ三月内ニ限り其ノ效力ヲ復活セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ始ヨリ其ノ效力ヲ失ハサリシモノト看做ス

一 免許條件ニ依リ埋立ニ關スル工事ノ實施設計認可ノ申請ヲ要スル場合ニ於テ申請ニ對シ不認可ノ處分アリタルトキ又ハ免許條件ニ於テ指定スル期間内ニ申請ヲ爲ササルトキ

二 第十三條ノ期間内ニ埋立ニ關スル工事ノ著手又ハ工事ノ竣功ヲ爲ササルトキ

前項但書ノ規定ニ依リ免許ノ效力ヲ復活セシメタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許條件ヲ變更スルコトヲ得

**第三十五條** 埋立ノ免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ヲ原狀ニ回復スヘシ但シ地方長官ハ原狀回復ノ必要ナシト認ムルモノ又ハ原狀回復ヲ爲スコト能ハスト認ムルモノニ付埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ

申請アルトキ又ハ催告ヲ爲スニ拘ラス其ノ申請ナキトキハ原狀回復ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

前項但書ノ義務ヲ免除シタル場合ニ於テハ地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ存スル土砂其ノ他ノ物件ヲ無償ニテ國ノ所有ニ屬セシムルコトヲ得

ヲ爲ス者、其ノ他ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

**第三十八條** 第十二條ノ免許料ニシテ國ニ歸屬スルモノ及前條ノ鑑定ニ要スル費用ハ地方長官國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

**第三十六條** 第三十二條第一項及前條ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者ニ關シ之ヲ準用ス

埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者アル場合ニ於テ地方長官原狀回復ノ必要ナシト認ムルトキハ埋立ノ追認ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ追認ノ日ニ於テ埋立ノ免許アリタルモノト看做ス

埋立ノ免許ニ關スル規定ハ前項ノ埋立ノ追認ニ關シ之ヲ準用ス

**第三十七條** 地方長官第六條第三項ノ裁定ヲ爲シ又ハ第十條若ハ第三十二條第二項ノ規定ニ依ル補償ヲ爲サシムル場合ニ於テ鑑定人ノ意見ヲ聞キタルトキハ其ノ鑑定ニ要スル費用ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テハ同項ノ事業

**第三十九條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者

二 詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタル者

三 埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ公有水面ノ公共ノ利用ヲ妨害シタル者

**第四十條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十三條但書ノ規定ニ違反シ工作物ヲ設置シタル者

二 第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ於テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其



ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ工事ヲ爲シタル者

第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反シ埋立地ニ於テ工事ヲ爲シタル者

第四十一條 第二十條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十二條 國ニ於テ埋立地ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳地方長官ノ承認ヲ受クヘシ

埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ當該官廳直ニ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ

第三條乃至第十一條、第十四條、第十五條、第三十一條、第三十七條及第四十四條ノ規定ハ第一項ノ埋立ニ關シ之ヲ準用ス但シ第十四條ノ規定ノ準用ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テハ之ニ代ヘ地方長官ニ通知スヘシ

第四十三條 地方長官ハ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

第四十四條 第六條第三項ノ規定ニ依ル補償ノ

ハ區會又ハ區長ニ關シ之ヲ適用ス

本法中町村會又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會又ハ町村長ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

第五十條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公有水面ノ一部ヲ區劃シ永久的設備ヲ築造スル場合ニ之ヲ準用ス

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
(大正十年 月 日勅令第 號ヲ以テ  
同年 月 日ヨリ施行ス)

本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス但シ地方長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シ三月内ニ限リ第三十二條ノ規定ニ拘ラス處分ニ附シタル條件ヲ變更シ又ハ處分ニ條件ヲ附スルコトヲ得

地方長官ニ對スル申請其ノ他ノ埋立ニ關スル手續ニシテ本法施行前爲シタルモノハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定書ノ送付ヲ受タタル日ヨリ起算シ六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第四十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十七條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十八條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輕易ナルモノニ限り下級行政廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第四十九條 本法中市會又ハ市長ニ關スル規定ハ北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依ル區ニ付テ

第一條 國ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公共團體トシテ其ノ利益ヲ分收スルノ條件ヲ以テ公有林野ニ造林ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依リ造林ニ係ル樹木ハ國ト公共團體トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ歩合ニ均シキモノトス

第三條 第二百五十六條ノ規定ハ前項ノ樹木ニ付之ヲ適用セス

第三條 國ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ニ同條ノ契約ノ存續期間中地上權ヲ有ス

第四條 公共團體ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野又ハ第二條ノ規定ニ依リ持分ヲ處分スル場合ニ於テハ國ノ承認ヲ受クヘシ

第五條 第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ノ產物ニ關スル權利ニシテ國ニ屬スルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該公共團體ニ之ヲ讓與スルコトヲ得

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正九年 月 日勅令第 號ヲ以テ  
同年 月 日ヨリ施行ス)

四百八十三

裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定書ノ送付ヲ受タタル日ヨリ起算シ六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第四十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十七條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十八條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輕易ナルモノニ限り下級行政廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第四十九條 本法中市會又ハ市長ニ關スル規定ハ北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依ル區ニ付テ

第一條 國ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公共團體トシテ其ノ利益ヲ分收スルノ條件ヲ以テ公有林野ニ造林ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依リ造林ニ係ル樹木ハ國ト公共團體トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ歩合ニ均シキモノトス

第三條 第二百五十六條ノ規定ハ前項ノ樹木ニ付之ヲ適用セス

第三條 國ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ニ同條ノ契約ノ存續期間中地上權ヲ有ス

第四條 公共團體ハ第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野又ハ第二條ノ規定ニ依リ持分ヲ處分スル場合ニ於テハ國ノ承認ヲ受クヘシ

第五條 第一條ノ規定ニ依リ造林ヲ爲ス公有林野ノ產物ニ關スル權利ニシテ國ニ屬スルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該公共團體ニ之ヲ讓與スルコトヲ得

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正九年 月 日勅令第 號ヲ以テ  
同年 月 日ヨリ施行ス)

四百八十三

●公有林野官行造林法

(大正九年七月二十六日法律第七號)



年九月勅令第四百二十五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス

### 公有林野官行造林法 施行令

(大正九年九月二十四日第四百二十六號)

- 第一條 國ハ造林地ノ植樹、補植、手入、防火線ノ設置其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲ス
- 第二條 公共團體ハ造林地保護ノ爲左ノ事項ヲ行フノ義務ヲ負フ
  - 一 火災ノ豫防及消防
  - 二 盜伐、誤伐、侵襲其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止
  - 三 有害鳥獸ノ驅除
  - 四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存
  - 五 大林區署長ノ指定ニ依リ看守人ヲ配置スルコト
- 第三條 公共團體ハ左ノ產物ヲ採取スルコトヲ得
  - 一 下草、落葉及落枝
  - 二 樹實及菌草ノ類
  - 三 手入ノ爲伐除スル枝條ノ類

四百八十四

- 四 植樹後二十年内ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木
- 第四條 造林著手後天然ニ生シタル樹木ハ之ヲ造林契約ニ依リ造林ニ係ル樹木ト看做ス造林著手前ヨリ存スル樹木ニシテ造林ニ係ル樹木ト共ニ生育セシムルノ亦同シ
- 第五條 根株ハ別段ノ契約アル場合ヲ除クノ外公共團體ノ所有トス
- 第六條 造林地ノ收益分收ノ歩合ハ國及公共團體各十分ノ五ヲ標準トシ地代、造林費其ノ他造林契約ノ實行ニ要スル費用ヲ參酌シテ之ヲ定ム
- 第七條 造林地ノ收益分收ハ其ノ樹木ノ賣拂代金ヲ以テ之ヲ爲ス但シ大林區署長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ材積ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 賣拂代金ヲ以テ收益分收ヲ爲ス場合ニ於ケル樹木ノ賣拂及材積ヲ以テ收益分收ヲ爲ス場合ニ於ケル分收樹木ノ指定ハ當該官廳之ヲ行フ
- 第九條 造林ニ係ル樹木ニ關シ第三者ヨリ受ケタル賠償金其ノ他ノ金額ハ其ノ請求ニ要シタルキハ直ニ收益分收ヲ爲ス

ル費用ヲ控除シ收益分收ノ歩合ニ依リ之ヲ分收ス

- 第十條 公共團體造林地ノ土石ヲ處分セムトスルトキハ當該官廳ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十一條 公用若ハ公益事業ノ爲必要アルトキ又ハ造林地ノ經營ニ支障ナキトキハ當該官廳ハ造林地ヲ貸付シ又ハ使用セシムルヲ得前項ノ場合ニ於ケル貸付料又ハ使用料ハ公共團體ノ收入トス
- 第十二條 左ノ場合ニ於テハ大林區署長ハ造林契約ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得
  - 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
  - 二 公共團體自ラ造林地ノ經營ヲ爲サムトスル場合ニ於テ經營ノ能力確實ナリト認めタルトキ
  - 三 契約ノ目的ヲ達スルコト能ハスト認めタルトキ
  - 四 公共團體造林地又ハ造林ニ係ル樹木ノ持分ヲ處分シタルトキ
  - 五 造林地ヲ林野以外ノ用途ニ供スヘキ特別ノ必要アルトキ
- 第十三條 前條ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル

トキハ直ニ收益分收ヲ爲ス

前條第二號又ハ第四號ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ公共團體ハ大林區署長ノ指定ニ從ヒ造林ニ係ル樹木ニ付國ノ有スル持分ノ價額ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ但シ其ノ金額カ造林ノ爲國ノ支出シタル金額ト之ニ對スル重利計算ニ依リ年五分ノ利息ニ相當スル金額トノ合算額ニ達セサルトキハ其ノ合算額ヲ納付スヘシ

公共團體前項ノ規定ニ依リ金額ヲ納付シタルトキハ造林ニ係ル樹木ニ付國ノ有スル權利ヲ取得ス

附則

### 公有林野官行法 施行規則

(大正九年九月三十日農商務省令第三十二號)

- 第一條 造林契約ヲ締結セムトスルトキハ大林區署長ハ地方長官ト協議ノ上造林箇所、植栽樹種、契約ノ存續期間及收益分收ノ歩合ヲ定

四百八十五



メ公共團體ニ之ヲ提示スヘシ

第二條 造林契約成立シタルトキハ大林區署長ハ公共團體ト共ニ造林契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ

第三條 大林區署ニハ別記様式ニ依ル公有林野官行造林地臺帳ヲ備フヘシ  
公有林野官行造林地臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 記入番號
  - 二 造林地ノ所在
  - 三 造林地ノ面積
  - 四 公共團體ノ名稱
  - 五 契約ノ年月日
  - 六 地上權登記ノ年月日及番號
  - 七 存續期間
  - 八 收益分收ノ歩合
  - 九 公共團體ノ所有トシテ造林地ニ存置スル樹木ノ種類及本數
  - 十 權利ノ處分及其ノ事由
- 國有林野臺帳規程及國有林野臺帳及圖面謄本抄本下付規程ハ公共林野官行造林地臺帳ニ關シ之ヲ準用ス

四百八十六

第四條 造林地ノ施業計畫ヲ定メタルトキハ大林區署長ハ之ヲ公共團體ニ通知スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五條 公共團體ハ造林地ノ保護及產物ノ採取ニ付當該官廳ノ指揮ニ從フヘシ

第六條 公共團體ハ造林地ノ保護及產物ノ採取ニ關シ規定ヲ設ケ大林區署長ノ承認ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第七條 造林地ニ火災又ハ盜伐アルトキハ公共團體ハ直ニ其ノ防止ニ必要ナル措置ヲ執リ其ノ旨當該官廳ニ届出ツヘシ造林地ノ附近ニ火災發生シ造林地ヲ害スルノ虞アルトキ亦同シ

造林地若ハ其ノ樹木ニ異狀ヲ生シタルトキ又ハ造林地ノ附近ニ病蟲害其ノ他ノ異狀ヲ生シ造林地ニ損害ヲ及ボスノ虞アルトキハ公共團體ハ其ノ旨當該官廳ニ届出ツヘシ

第八條 公共團體造林地ニ看守人ヲ置キタルトキハ其ノ住所氏名ヲ當該官廳ニ届出ツヘシ

第九條 公共團體ハ當該官廳ノ承認ヲ受テ造林地ヲ使用スルコトヲ得

第十條 公共團體造林地又ハ樹木ノ持分ノ處分ニ付承諾ヲ受ケムトスルトキハ相手方ト連署

ノ規定ヲ適用スルノ外森林法中國有林ニ關スル規定ヲ適用ス

附則

本令ハ公有林野官行造林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ◎住宅組合法

(大正十年四月十一日法律第六十六號)

第一條 住宅組合ハ組合員ニ住宅ヲ供給スルヲ以テ目的トス

住宅組合ハ法人トス

第二條 住宅組合ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事項ヲ行フコトヲ得

- 一 住宅用地ノ取得、造成若ハ借受又ハ組合員ニ對スル貸付若ハ讓渡
- 二 住宅ノ建設又ハ購入

第三條 本法ニ於テ住宅ト稱スルハ住居ノ用ニ供スル家屋及其ノ附屬設備ヲ謂フ

前項ノ附屬設備ノ種類及範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 組合ノ供給スル組合員ノ住宅ハ一組合員ニ付一戸ニ限ル

四百八十七

連印ノ上願書ヲ大林區署長ニ提出スヘシ

第十一條 造林地ノ地上權ニ關スル登記ハ大林區署長之ヲ囑託スヘシ

第十二條 國有林野法施行規則第五章、明治三十八年農商務省令第二十八號、明治三十八年農商務省令第三十六號、明治三十九年農商務省令第二十五號、國有林野產物賣拂規則及國有林野產物極印規則ハ公有林野官行造林地ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公有林野官行造林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(別記様式略ス)

### ◎公有林野官行造林地ニ付森林法ヲ適用スル件

(大正九年九月三十日農商務省令第三十三號)

公有林野官行造林法ニ依ル造林地ニ付テハ森林法第十八條第二項及國ト樹木ヲ共有スル者ノ持分ノ限度ニ於テ森林法第二十八條乃至第三十條



第五條 住宅組合ノ供給スル住宅ニ關スル坪數  
其ノ他ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 組合員ノ持分ハ之ヲ相續スルコトヲ得

第七條 組合員住宅ノ所有權ヲ取得シタル後出  
資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間左ノ各號ノ一ニ該  
當スルトキハ組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組  
合員ニ對シ住宅ノ所有權ヲ組合ニ讓渡スルコ  
トヲ請求スルコトヲ得

一 出資拂込ノ義務ヲ怠リタルトキ

二 組合ノ定ムル住宅使用條件ニ違反シタル  
トキ

第八條 組合員ハ前條ノ規定ニ依リ其ノ住宅ノ  
所有權ヲ失ヒタルトキハ組合ヲ脫退ス

第九條 組合員出資拂込ノ完了前住宅ノ所有權  
ヲ取得シタルトキハ組合ハ組合員ヲシテ未拂  
込出資金額ニ付其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定  
セシムルコトヲ得

第十條 住宅ハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ火災  
保險ニ付スヘシ

第十一條 住宅組合ノ建設、購入若ハ住  
宅用地ノ取得又ハ組合ト組合員トノ間ニ於ケ

ル住宅若ハ其ノ用地ノ所有權移轉ニ關シテハ  
地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第十二條 北海道地方費、府縣又ハ市町村ハ勅  
令ノ定ムル所ニ依リ住宅組合ニ對シ住宅資金  
ヲ貸付スルコトヲ得

第十三條 國、北海道地方費、府縣、郡又ハ市町  
村ノ所有ニ屬スル土地ハ隨意契約ニ依リ住宅  
組合ニ之ヲ賣拂又ハ貸付スルコトヲ得

第十四條 住宅組合ハ主務大臣、地方長官、郡長  
及市長之ヲ監督ス

第十五條 本法中郡、郡長トアルハ郡長ヲ置カ  
サル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトシ市町  
村、市長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサ  
ル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第十六條 本法第四十四條第一項、第四十五條  
第二項第三項、第四十八條、第五十二條第二項  
第五十三條乃至第五十五條、第五十九條乃至  
第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、  
第六十五條第一項、第六十六條、第七十條、第  
七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八  
十一條ノ規定ハ同法第四十五條第三項及第四

十八條第一項中間ニ關スル規定ヲ除クノ外  
住宅組合ニ付之ヲ準用ス

產業組合法ハ第一條、第五條、第十六條、第三  
十二條、第三十四條、第三十八條、第四十三條、  
第四十四條、第四十六條乃至第四十六條ノ三、  
第五十九條、第六十九條、第七十五條、第七十  
六條乃至第九十二條及第九十六條ノ規定ヲ除ク  
ノ外住宅組合ニ付之ヲ準用ス

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十  
年七月六日勅令第三〇三號ヲ以テ同年七月十日  
ヨリ施行)

### ◎住宅組合法施行規

則

(大正十年七月六日內務省令第二十一號)

第一條 住宅組合ノ區域ハ住宅ヲ供給スル地域  
ニ依リ道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二條 住宅組合ノ設立許可ノ申請書ニハ定款  
ノ外事業方法書ヲ添付スヘシ

前項ノ事業方法書ニ記載スヘキ事項ハ地方長  
官之ヲ定ム

第三條 住宅組合ハ設立當初ノ組合員全員ニ對  
スル事業計畫ヲ完了スヘキ時期ニ據リ其存立  
期間ヲ定ムヘシ

第四條 住宅組合法第三條ニ規定スル附屬設備  
ハ家屋ニ相應スル門、牆壁、物置、井戸其ノ  
他居住ノ爲必要ナル設備ニ限ル

第五條 住宅組合ノ供給スル住宅ハ一戸ニ付家  
屋各階ノ床面積合計五十坪ヲ超ユルコトヲ得  
ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ  
限ニ在ラス

第六條 住宅組合ハ定款ヲ以テ住宅ノ使用及讓  
渡ノ時期及手續ヲ定ムヘシ

第七條 住宅ノ所有權ノ讓渡ニ關シテハ出資金  
ヲ以テ其ノ對價トス

第八條 組合員タル資格ニ關スル定款ノ規定ニ  
ハ他ノ住宅組合ノ組合員ニ非サルコトヲ要ス  
ル旨ヲ定ムヘシ

第九條 住宅組合ハ持分ノ相續又ハ讓受ニ依ル  
場合ヲ除クノ外新ニ組合員ヲ加入セシムルコ  
トヲ得ス但シ現ニ供給スヘキ住宅アルトキハ  
此ノ限ニ在ラス

第十條 住宅組合法第二條ノ規定ニ依ル住宅用

四百八十八ノ三



地ノ貸付又ハ讓渡ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

**第十一條** 出資一口ノ金額ハ二百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

**第十二條** 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ニ付其ノ金額ノ二十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ五十分ノ一迄下スコトヲ得

**第十三條** 事業方法書ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

**第十四條** 住宅組合出資拂込ノ完了ニ至ラサル組合員ニ住宅ノ所有權ヲ讓渡スル場合ニ在リテハ組合ハ之ニ對シ讓渡ノ條件トシテ未拂込出資金額ニ付其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定シ又ハ相當ノ擔保ヲ提供セシムヘシ

**第十五條** 住宅組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ルヘシ

**第十六條** 住宅組合ノ理事ハ毎年度豫算及事業計畫書ヲ調製シ年度開始ノ二月前迄ニ總會ノ決議ヲ經ヘシ但シ初年度ノ豫算及事業計畫書ニ付テハ設立許可ノ後二月内ニ總會ノ決議ヲ經ヘシ

**第二十二條** 理事又ハ監事ノ變更ノ届書ニハ其ノ變更カ總會ノ決議ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ決議録其ノ他ノ場合ニ在リテハ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

**第二十三條** 出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ第十九條ニ掲ケタル書類ノ外財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

**第二十四條** 登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ要スル場合ニ在リテハ其ノ手續ヲ賤ミタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

**第二十五條** 住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第五十八條第三項ノ場合ニ於ケル定款變更ノ認可申請書ニハ第二十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

**第二十六條** 組織變更ニシテ組合員ノ責任ヲ減少スル場合ニ在リテハ其ノ認可申請書ニ第二十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

**第二十七條** 組合員ノ保證金額ヲ減少シ又ハ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シ

**第十七條** 住宅組合ノ理事ハ毎年度決算書ヲ調製シ次ノ通常總會ノ承認ヲ經ヘシ

**第十八條** 住宅組合ノ豫算、事業計畫書、決算書及事業報告書ハ總會ノ決議又ハ承認ヲ經タル後一月内ニ地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

**第十九條** 定款變更ノ認可書ニハ其ノ變更理由書及總會ノ決議録ヲ添附スヘシ  
定款變更ニシテ總會ノ同意ヲ要スル場合ニ在リテハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

**第二十條** 登記又ハ組合原簿ノ記載ニ關スル届書ニハ理事又ハ清算人署名捺印スヘシ

**第二十一條** 地方長官ニ提出スル組合原簿ニハ其ノ記載事項ニ付監事ノ證明書ヲ添付スヘシ其ノ記載事項變更ノ届書ニ付亦同シ但シ組合員ノ氏、名又ハ住所ノ變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

無限責任組合ニ於テ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第十六條ノ六第二項ノ規定ニ依リ組合原簿提出ノ場合ニ在リテハ總會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

タル産業組合法第五十八條第三項ノ規定ニ依リ責任期間ノ短縮ヲ爲シタル場合ニ於テ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第四十條第二項及第四十一條第二項ノ手續ヲ終リタルトキハ遲滞ナク之ヲ證スル書面ヲ地方長官ニ提出スヘシ

**第二十八條** 總會ノ決議ニ因ル解散ノ認可申請書ニハ理由書、總會決議録、財産目錄及貸借對照表ヲ添附スヘシ

**第二十九條** 住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第六十二條第一項第一號又ハ第四號ノ事由ニ因ル解散ノ届書ニハ其ノ事由ヲ記載シ監事ノ證明書ヲ添附スヘシ

**第三十條** 合併ノ認可申請書ニハ第二十三條ニ掲ケタル書類並合併契約書、合併後存続スル住宅組合又ハ合併ニ因リテ設立スル住宅組合ノ定款及設立者ハ各住宅組合ニ於テ選任セラレタル者ナルコトヲ證スル書面ヲ添付スヘシ合併ニ付總會ノ同意ヲ要スル場合ニ在リテハ前項ノ書類ノ外其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ



**第三十一條** 第二十二條ノ規定ハ清算人ノ選任及其ノ變更ノ届書ニ之ヲ準用ス

**第三十二條** 清算人ハ財産目録及貸借對照表ニ付總會ノ承認ヲ得タルトキハ遲滞ナク地方長官ニ之ヲ提出スヘシ

**第三十三條** 清算終了ノ届書ニハ總會ノ承認ヲ經タル決算報告書ヲ添附スヘシ

附則  
本令ハ住宅組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●住宅組合登記取扱手續

(大正十年七月六日司法省令第十八號)

**第一條** 住宅組合登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

**第二條** 住宅組合登記見出帳ハ附錄二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

**第三條** 住宅組合登記受附帳ハ附錄第三號雛形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ

受附番號ハ一箇年毎ニ更新スヘシ

**第四條** 組合原簿ハ附錄第四號乃至第六號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

**第五條** 住宅組合ニ關スル登記ノ事務ハ商業登記ヲ取扱フ登記所ニ於テ之ヲ取扱フ

**第六條** 產業組合登記取扱手續第六條、第七條、第九條乃至第二十五條及第二十九條ノ規定ハ住宅組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

**第七條** 住宅組合登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ノ請求等ニ關スル手数料ニ付テハ明治三十二年司法省令第十四號第一條及第三條乃至第六條ノ規定ヲ準用ス

附則  
本令ハ大正十年七月十日ヨリ之ヲ施行ス  
(附錄様式ハ產業組合登記ト同一ニ付略ス)

●住宅組合定款例

(大正十年七月二十日官報)

內務省ノ調査ニ係ル住宅組合ノ定款例左ノ如シ

住宅組合定款例

有限責任何々住宅組合定款

第一章 總則

**第一條** 本組合ハ住宅ノ建設又ハ購入ヲ爲シ之ヲ組合員ノ使用ニ供シ及其ノ所有權ヲ讓渡スルヲ以テ目的トス

**第二條** 本組合ハ有限責任何々組合ト稱ス

**第三條** 本組合ノ組織ハ有限責任トス

**第四條** 本組合ノ區域ハ何府縣郡市區町村トス

**第五條** 本組合ノ事務所ハ何府縣郡市區町村番地ニ之ヲ置ク

**第六條** 本組合ノ公告ハ何々ニ揭示(登載)シテ之ヲ爲ス

**第七條** 本組合ノ存立時期ハ何年トス

**第八條** 本組合ノ財産ニ付組合員ノ有スル持分ハ其ノ拂込済出資金額ニ應シ之ヲ算定ス

第二章 組合員

**第九條** 本組合ノ組合員ハ左ノ各號ニ該當スル者ニ限ル

一 出資金完納ノ資力アリ又ハ出資金ノ完納ニ付適當ナル保證人アルコト

二 他ノ住宅組合ノ組合員ニ非サルコト

三 本組合ノ區域内ニ於テ居住ニ適スル住宅ヲ所有セサルコト

**第十條** 新ニ組合ニ加入セムトスル者ニ對スル承諾ハ總會ノ決議ニ依ル

**第十一條** 組合長ハ持分ノ相續又ハ讓受ニ依ル加入ノ場合ヲ除クノ外加入者ヲシテ遲滞ナク

**第一回**ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

**第十二條** 持分ノ相續ヲ爲シタル者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ組合長ニ届出ツヘシ

**第十三條** 組合員持分ヲ讓渡セムトスル場合ニ於ケル承諾ハ總會ノ決議ニ依ル但シ讓渡ヲ受ケムトスル者カ組合員ナルトキハ組合長限之ヲ爲スコトヲ得

**第十四條** 組合員住宅ノ所有權ヲ取得スル前左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ除名ス

一 二月以上出資拂込ノ義務ヲ怠リ組合ノ戒告ヲ受ケタル後一月内ニ其ノ義務ヲ履行セサルトキ

二 第三十二條ニ規定スル住宅使用條件ニ違反シ組合ノ戒告ヲ受ケタルモ仍之ニ從ハサルトキ

組合員前項ノ規定ニ依リ除名セラレタルトキハ速ニ住宅ノ引渡ヲ爲スヘシ

**第十五條** 組合員住宅ノ所有權ヲ取得シタル後出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間前條第一項各號ノ一ニ該當スルトキハ組合長ハ住宅ノ所有權ヲ組合ニ讓渡スルコトヲ請求スヘシ

組合員前項ノ規定ニ依リ住宅ノ所有權讓渡ノ



請求ヲ受ケタル時ハ速ニ其ノ所有權ヲ組合ニ讓渡シ且ツ住宅ノ引渡ヲ爲スヘシ

**第十六條** 組合員除名又ハ住宅組合法第八條ノ事由ニ因リ組合ヲ脱退シタル場合ニ於テモ其ノ脱退ニ至ル迄ノ間ノ出資拂込其ノ他組合ニ對シ負擔シタル義務ハ之ヲ免ルルコトヲ得ス

**第十七條** 出資拂込ノ完了前ニ脱退シタル組合員ハ脱退後其ノ住宅ノ引渡迄ノ間ニ於ケル住宅使用料ヲ本組合ニ支拂フヘシ  
前項使用料ノ額ハ組合員トシテ當該期間ニ拂込ムヘカリシ金額ト同額トス

**第十八條** 持分ノ讓渡ニ因リテ脱退シタル場合ヲ除クノ外住宅ノ所有權ヲ取得セス又ハ取得後組合ニ之ヲ讓渡シテ脱退シタル組合員ニ對シテハ其ノ住宅ノ供給ヲ受ケタル以前ニ於ケル拂込済出資金ノ十分ノ八ニ相當スル金額ノ拂戻ヲ爲ス但シ脱退ノ事情ニ依リ總會ノ決議ヲ以テ拂戻金額ヲ増減スルコトアルヘシ

第三章 出資

**第十九條** 出資一口ノ金額ハ何圓トス

**第二十條** 組合員ハ出資何口以上何口以下ヲ有スヘシ

該住宅ノ供給ヲ受ケル組合員ニ貸付シ又ハ讓渡スルコトアルヘシ

**第二十六條** 組合員本組合ノ貸付又ハ讓渡スル住宅用地以外ノ土地ニ於テ住宅ノ供給ヲ受ケムトスルトキハ組合長ノ承諾ヲ受クヘシ

**第二十七條** 住宅ノ設計ハ出資金額ニ應ジ當該組合員ノ希望ヲ參酌シテ理事之ヲ定ム  
**第二十八條** 住宅供給ノ順位ハ組合員ノ協議ニ依リ之ヲ定ム其ノ協議調ハサルトキハ抽籤ニ依ル

**第二十九條** 住宅ノ所有權ハ出資金額二分ノ一以上ヲ拂込ミタルトキ之ヲ當該組合員ニ讓渡ス但シ組合及組合員ノ協議ニ依リ出資拂込ノ完了ニ至ル迄之ヲ延期スルコトヲ得

**第三十條** 出資拂込ノ完了セサル組合員ニ對シ住宅ノ所有權ヲ讓渡スル場合ニ於テハ組合長ハ其ノ組合員ヲシテ未拂込出資金額ニ付其ノ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定セシメ所有權移轉ノ登記ト同時ニ其ノ登記ヲ爲サシムヘシ

**第三十一條** 組合員出資拂込ノ完了前住宅ノ所有權ヲ取得シタルトキハ出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間之ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得ス

**第二十一條** 出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付何圓トス

**第二十二條** 出資第二回以後ノ拂込ハ左ノ區別ニ依リ毎月何日限之ヲ爲スヘシ

- 一 住宅ノ供給ヲ受ケル前ニ在リテハ毎月第一回拂込金額ノ十分ノ一ニ相當スル金額
- 二 住宅ノ供給ヲ受ケタル後ニ在リテハ出資金額及之ニ對スル利子相當額ノ合算額ヨリ住宅ノ供給ヲ受ケル前ニ於ケル拂込金額ヲ控除シタル殘額ヲ組合存立期間満了迄ノ月數ニ依リ均等ニ分割シタル金額

前項第二號ニ規定スル利子相當額ノ算定方法ハ總會決議ニ依リ之ヲ定ム

**第二十三條** 前條ニ規定スル拂込金ノ拂込ヲ怠リタルトキハ期限後一日ニ付其ノ拂込ムヘキ金額ノ千分ノ一ノ過意金ヲ徴收ス

**第二十四條** 組合員ハ組合長ノ承諾ヲ受ケルニ非サレハ出資口數ノ減少又ハ増加ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 事業

**第二十五條** 本組合ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲住宅用地ノ購入、造成又ハ借家ヲ爲シ之ヲ當

**第三十二條** 住宅ノ供給ヲ受ケタル組合員ハ出資拂込ノ完了ニ至ル迄ノ間其ノ住宅ノ使用ニ關シ左ノ各號ノ條件ヲ遵守スヘシ

- 一 相當ノ事由アル場合ヲ除クノ外他人ヲシテ其ノ住宅ヲ使用セシメサルコト
- 二 修繕其ノ他住宅ノ保存上必要ナル管理ヲ爲スコト
- 三 理事ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外住宅ノ模様替ヲ爲ササルコト

前項各號ノ外特ニ必要ナル條件ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

**第三十三條** 本組合ノ貸付ニ係ル住宅用地ノ借賃ハ毎月出資ノ拂込下同時ニ之ヲ拂込ムヘシ

**第三十四條** 組合員ニ對スル住宅用地ノ讓渡ハ月賦賣却ノ方法ニ依リ其ノ月割代金ハ毎月出資ノ拂込下同時ニ之ヲ拂込ムヘシ但シ組合員ノ希望ニ依リ月賦賣却ノ方法ニ依ラサルコトアルヘシ

**第三十五條** 本組合ノ供給スル住宅ハ本組合ニ於テ之ヲ火災保險ニ付ス其ノ保險金額ハ保險價額ニ依ル  
保險料ハ當該組合員ノ負擔トシテ月割ヲ以テ



毎月出資ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムヘシ  
第三十六條 本組合ノ經費ハ出資金額ニ應シ組合員之ヲ分擔シ毎月出資ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムヘシ

第五章 機關

第三十七條 本組合ニ理事何名監事何名ヲ置ク  
第三十八條 理事中一名ヲ組合長トシ理事ノ互選ニ依リ之ヲ定ム  
組合長ハ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス組合長事故アルトキハ理事中ノ年長者之ヲ代理ス  
第三十九條 理事ノ任期ハ何年監事ノ任期ハ何年トス但シ再選ヲ妨ケス  
補闕ニ依リ就任シタル理事又ハ監事ハ前任者殘任期間在任ス理事及監事ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フ  
第四十條 理事又ハ監事ハ通常總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ猶豫スルコト能ハサル場合ニ限り臨時總會ニ於テ之ヲ行フ  
總會ニ於テ理事又ハ監事ノ解任ヲ決議スルトキハ同時ニ其ノ補闕選任ヲ行フ  
第四十一條 通常總會ハ毎年一回一月中ニ之ヲ開ク

第四十二條 總會ノ招集ハ書面ヲ以テ之ヲ組合員ニ通知ス  
第四十三條 總會ハ組合員ノ半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第四十四條 總會ハ組合長ヲ以テ議長トス組合長事故アルトキハ理事中ノ年長者之ヲ代理ス監事ノ招集シタル總會ハ招集シタル監事中心ノ年長者ヲ以テ議長トス  
第四十五條 組合員ハ何人以上ヲ代理シテ議決權ヲ行フコトヲ得ス  
第四十六條 總會ニ於テハ決議ヲ作り會議ノ顛末及出席者ノ員數ヲ記載スヘシ  
決議録ニハ議長及議長ノ指名シタル出席者二名以上署名スヘシ  
第六章 解散  
第四十七條 解散ノ決議ハ組合員三分ノ二以上出席シタル總會ニ於テ出席者四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
第四十八條 本組合解散ノ場合ニ於ケル殘餘財産ノ處分方法ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

第七章 補則

第四十九條 本定款ノ施行ノ爲必要ナル細則ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム  
第五十條 本組合設立當時ノ理事及監事ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ第一回ノ總會ニ於テ之ヲ改選ス  
理事 何 某  
理事 何 某  
監事 何 某  
監事 何 某  
備考  
一 本定款例ハ有限責任ノ組合ニ關スル例ヲ示セルモノナルヲ以テ無限責任又ハ保證責任ノ組合ノ定款ヲ作成スル場合ニハ本例ニ多少ノ補修ヲ加フルヲ要スヘシ  
二 本例ハ可成具體的ノ事例ヲ示スコトトセリ從テ實際定款ヲ作成スル場合ニハ其ノ組合ノ經營振ニ應シ適宜變更ヲ加フルヲ要スル事項アルヘシ  
三 本令第三十三條及第三十四條ノ規定ハ實際組合ニ於テ住宅用地ノ貸付又ハ讓渡ノ事

業ヲ行フ場合ニ限リ要スル規定ナリ

●信託法

(大正十一年四月二十一日法律第六十二號)  
第一條 本法ニ於テ信託ト稱スルハ財産權ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ爲シ他人ヲシテ一定ノ目的ニ從ヒ財産ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムルヲ謂フ  
第二條 信託ハ遺言ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得  
第三條 登記又ハ登録スヘキ財産權ニ付テハ信託ハ其ノ登記又ハ登録ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
有價證券ニ付テハ信託ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ證券ニ信託財産ナルコトヲ表示シ株券及社債券ニ付テハ尙株主名簿又ハ社債原簿ニ信託財産タル旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
第四條 受託者ハ信託行爲ノ定ムル所ニ從ヒ信託財産ノ管理又ハ處分ヲ爲スコトヲ要ス  
第五條 未成年者、禁治產者、準禁治產者及破產者ハ受託者ト爲ルコトヲ得ス  
妻カ信託ノ引受ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クル



コトヲ要ス

民法第十四條第二項及第十五條乃至第二十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 信託ノ引受ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス

第七條 信託行爲ニ依リ受益者トシテ指定セラレタル者ハ當然信託ノ利益ヲ享受ス但シ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第八條 不特定ノ受益者又ハ未タ存在セサル受益者アル場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託管理人ヲ選任スルコトヲ得但シ信託行爲ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 信託管理人ハ前項ノ受益者ノ爲自己ノ名ヲ以テ信託ニ關スル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十條 裁判所ハ事情ニ依リ信託財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ信託管理人ニ與フルコトヲ得

第十一條 受託者ハ共同受益者ノ一人タル場合ヲ除クノ外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十二條 法令ニ依リ或財産權ヲ享有スルコトヲ

得サル者ハ受益者トシテ其ノ權利ヲ有スルト同一ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十三條 信託ハ訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ主タル目的トシテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 債務者カ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知りテ信託ヲ爲シタル場合ニ於テハ債權者ハ受託者カ善意ナルトキト雖民法第四百二十四條第一項ニ規定スル取消權ヲ行フコトヲ得

第十五條 前項ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ受益者カ既ニ受ケタル利益ニ影響ヲ及ホサス但シ受益者ノ債權カ經濟期ニ到ラサルトキ又ハ受益者カ其ノ利益ヲ受ケタル當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知りタルトキ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 受託者ハ信託財産ノ占有ニ付委託者ノ占有ノ瑕疵ヲ承繼ス

第十七條 前項ノ規定ハ金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ付之ヲ準用ス

第十八條 信託財産ノ管理、處分、滅失、毀損其ノ他ノ事由ニ因リ受託者ノ得タル財産ハ信託財産ニ屬ス

第十九條 信託財産ハ受託者ノ相續財産ニ屬セ

第二十條 信託財産ニ付信託前ノ原因ニ因リテ生シタル權利又ハ信託事務ノ處理ニ付生シタル權利ニ基ク場合ヲ除クノ外信託財産ニ對シ強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

第二十一條 前項ノ規定ニ反シテ爲シタル強制執行又ハ競賣ニ對シテハ委託者、其ノ相續人、受益者及受託者ハ異議ヲ主張スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 信託財産ニ屬スル債權ト信託財産ニ屬セサル債權トハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 信託財産カ所有權以外ノ權利ナル場合ニ於テハ受託者カ其ノ目的タル財産ヲ取得スルモ其ノ權利ハ混同ニ因リテ消滅スルコトナシ

第二十四條 受託者カ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔スル債務ニ付テハ信託財産ノ限度ニ於テノミ其ノ履行ノ責ニ任ス

第二十五條 受託者ハ信託ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スルコトヲ要ス

第二十六條 信託財産ニ屬スル金錢ノ管理方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 受託者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託財産ヲ固有財産ト爲シ又ハ之ニ付權利ヲ取得スルコトヲ得但シ己ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケ信託財産ヲ固有財産ト爲スハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 前項ノ規定ハ受託者カ相續其ノ他包括名義ニ因リ信託財産ニ付權利ヲ承繼スルコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 信託行爲ノ當時豫見スルコトヲ得ザリシ特別ノ事情ニ因リ信託財産ノ管理方法カ受益者ノ利益ニ適セサルニ至リタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益者又ハ受託者ハ其ノ變更ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第三十條 前項ノ規定ハ裁判所ノ定メタル管理方法ニ付之ヲ準用ス

第三十一條 受託者數人アルトキハ信託財産ハ其ノ合有トス

第三十二條 前項ノ場合ニ於テ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外信託事務ノ處理ハ受託者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ一人ニ對シテ



爲シタル意思表示ハ他ノ受託者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

**第二十五條** 受託者數人アルトキハ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔スル債務ハ之ヲ連帶トス信託事務ノ處理ニ付負擔スル債務亦同シ

**第二十六條** 受託者ハ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ他人ヲシテ自己ニ代リテ信託事務ヲ處理セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ受託者ハ選任及監督ニ付テノミ其ノ責任ニ任ス信託行爲ニ依リ他人ヲシテ信託事務ヲ處理セシメタルトキ亦同シ  
受託者ニ代リテ信託事務ヲ處理スル者ハ受託者ト同一ノ責任ヲ負フ

**第二十七條** 信託者カ管理ノ失當ニ因リテ信託財産ニ損失ヲ生セシメタルトキ又ハ信託ノ本旨ニ反シテ信託財産ヲ處分シタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益者及他ノ受託者ハ其ノ受託者ニ對シ損失ノ填補又ハ信託財産ノ復舊ヲ請求スルコトヲ得

**第二十八條** 信託財産ハ固有財産及他ノ信託財産ト分別シテ之ヲ管理スルコトヲ要ス但シ信

託財産タル金錢ニ付テハ各別ニ其ノ計算ヲ明ニスルヲ以テ足ル

**第二十九條** 第二十七條ノ規定ハ受託者カ前條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ管理シタル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ信託財産ニ損失ヲ生シタルトキハ受託者ハ分別シテ管理ヲ爲シタル場合ニ於テモ損失ヲ生スヘカリシコトヲ證明スルニ非サレハ不可抗力ヲ理由トシテ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

**第三十條** 信託財産ニ付附合、混和又ハ加工アリタル場合ニ於テハ各信託財産及固有財産ハ各別ノ所有者ニ屬スルモノト看做シ民法第二百四十二條乃至第二百四十八條ノ規定ヲ適用ス

**第三十一條** 受託者カ信託ノ本旨ニ反シテ信託財産ヲ處分シタルトキハ受益者ハ相手方又ハ轉得者ニ對シ其ノ處分ヲ取消スコトヲ得但シ信託ノ登記若ハ登録アリタルトキ又ハ登記若ハ登録スヘカラサル信託財産ニ付テハ相手方及轉得者ニ於テ其ノ處分カ信託ノ本旨ニ反スルコトヲ知りタルトキ若ハ重大ナル過失ニ因

リテ之ヲ知ラサリシトキニ限ル

**第三十二條** 受益者數人アル場合ニ於テ其ノ一人カ前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ他ノ受益者ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ス

**第三十三條** 第三十一條ノ規定スル取消權ハ受益者又ハ信託管理人カ取消ノ原因アルコトヲ知リタル時ヨリ一月内ニ之ヲ行ハサルトキハ消滅ス處分ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

**第三十四條** 受託者タル法人カ其ノ任務ニ背キタルトキハ之ニ干與シタル理事又ハ之ニ準スヘキ者亦連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

**第三十五條** 受託者ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除クノ外特約アルニ非サレハ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

**第三十六條** 受託者ハ信託財産ニ關シテ負擔シタル租税、公課其ノ他ノ費用又ハ信託事務ヲ處理スル爲自己ニ過失ナクシテ受ケタル損害ノ補償ニ付テハ信託財産ヲ賣却シ他ノ權利者ニ先チテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得  
受託者ハ受益者ニ對シ前項ノ費用又ハ損害ニ付其ノ補償ヲ請求シ又ハ相當ノ擔保ヲ供セシ

ムルコトヲ得但シ受益者カ不特定ナルトキ及未タ存在セサルトキハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ規定ハ受益者カ其ノ權利ヲ拋棄シタル場合ニハ之ヲ適用セス

**第三十七條** 前條ノ規定ハ受託者カ信託財産ヨリ報酬ヲ受クベキ場合ニ其ノ報酬ニ付之ヲ準用ス受託者カ受益者ヨリ報酬ヲ受クヘキ場合亦同シ

**第三十八條** 第三十六條又ハ前條ニ規定スル受託者ノ權利ハ受託者カ第二十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル損失ノ填補及信託財産復舊ノ義務ヲ履行シタル後ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

**第三十九條** 受託者ハ帳簿ヲ備ヘ各信託ニ付其ノ事務ノ處理及計算ヲ明ニスルコトヲ要ス  
受託者ハ信託引受ノ時及毎年一回一定ノ時期ニ於テ各信託ニ付財産目録ヲ作ルコトヲ要ス

**第四十條** 利害關係人ハ何時ニテモ前條ノ書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得  
委託者、其ノ相續人及受益者ハ信託事務ノ處理ニ關スル書類ノ閱覽ヲ請求シ且信託事務ノ處理ニ付説明ヲ求ムルコトヲ得



**第四十一條** 信託事務ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除クノ外裁判所ノ監督ニ屬ス裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託事務ノ處理ニ付検査ヲ爲シ且検査役ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

**第四十二條** 受託者カ死亡シタルトキ又ハ破産、禁治産若ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ任務ハ之ニ因リテ終了ス受託者タル法人カ解散シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ受託者ノ相續人、其ノ法定代理人、破産管財人、後見人、保佐人又ハ清算人ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄信託財産ヲ保管シ且信託事務ノ引繼ニ必要ナル行為ヲ爲スコトヲ要ス法人合併ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ設立シタル人又ハ合併後存續スル法人亦同シ

**第四十三條** 受託者ハ信託行為ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外受益者及委託者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス

**第四十四條** 信託行為ニ依リ特定ノ資格ニ基キ受託者ト爲リタル者其ノ資格ヲ喪失シタルト

キハ其ノ任務ハ之ニ因リテ終了ス

**第四十五條** 第四十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ任務終了シタル者ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄仍受託者ノ權利義務ヲ有ス

**第四十六條** 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ受託者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

**第四十七條** 受託者カ其ノ任務ニ背キタルトキ其ノ他重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ委託者、其ノ相續人又ハ受益者ノ請求ニ因リ受託者ヲ解任スルコトヲ得

**第四十八條** 第四十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ受託者其ノ任務ヲ辭シ又ハ解任セラレタルトキハ裁判所ハ信託財産ノ管理人ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

**第四十九條** 受託者ノ任務終了ノ場合ニ於テハ利害關係人ハ新受託者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ遺言ニ依リ受託者トシテ指定セラレタル者カ信託ノ引受ヲ爲サス又ハ之ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ信託行為ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

**第八條第三項ノ規定ハ受託者ニ之ヲ準用ス**

**第五十條** 受託者ノ選アリタルトキハ信託財産ハ前受託者ノ任務終了ノ時ニ於テ新受託者ニ讓渡サレタルモノト爲ス

受託者數人アル場合ニ於テ其ノ一人ノ任務終了シタルトキハ信託財産ハ當然他ノ受託者ニ歸ス

**第五十一條** 第二十七條又ハ第二十九條ニ規定スル權利ハ新受託者亦之ヲ行フコトヲ得

**第五十二條** 受託者ノ更迭アリタルトキハ新受託者ハ前受託者カ信託行為ニ因リ受益者ニ對シテ負擔シタル債務ヲ承繼ス

前項ノ規定ハ第五十條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

信託事務ノ處理ニ付生シタル債權ハ信託財産ノ限度ニ於テ新受託者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

**第五十三條** 信託財産ニ對スル強制執行又ハ競賣手續ハ新受託者ニ對シテ之ヲ續行スルコトヲ得

**第五十四條** 前受託者ハ第三十六條第一項ニ規定スル費用若ハ損害ノ補償ヲ受クル權利又ハ

第三十七條ニ規定スル報酬ヲ受クル權利ニ基キ新受託者ニ對シ信託財産ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得

前受託者ハ前項ノ權利ヲ行フ爲信託財産ヲ留置スルコトヲ得

**第五十五條** 受託者更迭ノ場合ニ於テハ信託事務ノ計算ヲ爲シ受益者又ハ信託管理人ノ立會ヲ以テ事務ノ引繼ヲ爲スコトヲ要ス

受益者又ハ信託管理人カ前項ノ計算ヲ承認シタルトキハ前受託者ノ其ノ受益者ニ對スル引繼ニ關スル責任ハ之ニ因リテ解除セラレタルモノト看做ス但シ不正ノ行為アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第五十六條** 信託行為ヲ以テ定メタル事由發生シタルトキ又ハ信託ノ目的ヲ達シ若ハ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ信託ハ之ニ因リテ終了ス

**第五十七條** 委託者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場合ニ於テハ委託者又ハ其ノ相續人ハ何時ニテモ信託ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於



テハ民法第六百五十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

**第五十八條** 前條ノ場合ヲ除クノ外受益者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場合ニ於テ信託財産ヲ以テスルニ非サレハ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキ其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキハ裁判所ハ受益者又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ信託ノ解除ヲ命スルコトヲ得

**第五十九條** 第五十七條及前條ノ規定ニ拘ラス信託ノ解除ニ關シ信託行為ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

**第六十條** 信託ノ解除ハ將來ニ向テノミ其ノ效力ヲ生ス

**第六十一條** 第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ信託力解除セラレタルトキハ信託財産ハ受益者ニ歸屬ス

**第六十二條** 信託終了ノ場合ニ於テ信託行為ニ定メタル信託財産ノ歸屬權利者ナキトキハ其ノ信託財産ハ委託者又ハ其ノ相續人ニ歸屬ス

**第六十三條** 信託終了ノ場合ニ於テ信託財産カ其ノ歸屬權利者ニ移轉スル迄ハ仍信託ハ存續スルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ歸屬權利

者ヲ受益者ト看做ス

**第六十四條** 第五十三條及第五十四條ノ規定ハ信託ノ終了ニ因リ信託財産カ受益者其ノ他ノ者ニ歸屬シタル場合ニ之ヲ準用ス

**第六十五條** 信託終了ノ場合ニ於テハ委託者ハ信託事務ノ最終ノ計算ヲ爲シ受益者ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第五十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

**第六十六條** 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其ノ他公益ヲ目的トスル信託ハ之ヲ公益信託トシ其ノ監督ニ付テハ後第六條ノ規定ヲ適用ス

**第六十七條** 公益信託ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

**第六十八條** 公益信託ノ引受ニ付テハ委託者ハ主務官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

**第六十九條** 主務官廳ハ何時ニテモ公益信託事務ノ處理ニ付検査ヲ爲シ且財産ノ供託其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

委託者毎年一回一定ノ時期ニ於テ信託事務及財産ノ狀況ヲ公告スルコトヲ要ス

**第七十條** 公益信託ニ付信託行為ノ當時豫見スルコトヲ得サリシ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ主務官廳ハ信託ノ本旨ニ反セサル限り信託

ノ條項ノ變更ヲ爲スコトヲ得

**第七十一條** 公益信託ノ受託者ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

**第七十二條** 公益信託ニ付テハ第八條第一項第三項、第二十二條第一項但書及第四十七條乃至第四十九條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ主務官廳ニ屬ス但シ第四十七條及第四十九條ニ規定スル權限ニ付テハ職權ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

**第七十三條** 公益信託終了ノ場合ニ於テ信託財産ノ歸屬權利者ナキトキハ主務官廳ハ其ノ信託ノ本旨ニ從ヒ類似ノ目的ノ爲ニ信託ヲ繼續セシムルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年十二月勅令第五百十二號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス)

### ◎信託業法

(大正十一年四月二十日法律第六十五號)

**第一條** 信託業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非

サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

**第二條** 信託業ハ資本金百萬圓以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

**第三條** 信託會社ハ其ノ商號中ニ信託ナル文字ヲ用フヘシ

信託會社ニ非サルモ、ハ其ノ商號中ニ信託業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス但シ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ム者ハ此限ニ在ラス

**第四條** 信託會社ハ左ニ掲クル財産以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 金錢
- 二 有價證券
- 三 金錢債權
- 四 動産
- 五 土地及其ノ定著物
- 六 地上權及土地ノ賃借權

**第五條** 信託會社ハ左ニ掲クル業務ニ限り之ヲ併セ營ムコトヲ得



- 一 保護預リ
  - 二 債務ノ保證
  - 三 不動産賣買ノ媒介又ハ金錢若ハ不動産ノ貸借ノ媒介
  - 四 公債社債若ハ株式ノ募集其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱
  - 五 左ノ事項ニ關スル代理事務
    - イ 財産ノ取得、管理、處分又ハ貸借
    - ロ 財産ノ整理又ハ清算
    - ハ 債權ノ取立
    - ニ 債務ノ履行
- 主務大臣ハ債務ノ保證ニ付命令ヲ以テ必要ナル制限ヲ設クルコトヲ得
- 第六條 信託會社ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業務ヲ營ムコトヲ得
  - 第七條 信託會社ハ信託義務ノ違反ニ因リテ受益者ニ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ命令ノ定ムル所ニ依リ資本金ノ十分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ其ノ金額ハ百萬圓ヲ超ユルコトヲ要セス
  - 第八條 受益者ハ信託會社カ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先チ返済

- ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 第九條 信託會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運用方法ノ特定セサル金錢信託ニ限り元本ニ損失ヲ來シタル場合又ハ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ得サリシ場合ニ於テ之ヲ補填シ又ハ補足スル契約ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 信託法第二十二條第一項但書ノ規定ハ信託會社ニ之ヲ適用セス
- 信託會社ハ金錢信託ニ付其ノ運用ニ依リ取得シタル財産カ取引所ノ相場アルモノナルトキハ信託行為ニ依リ受益者ニ對シ負擔スル債務ヲ履行スル爲必要ナル場合ニ限り信託行為ノ定ムル所ニ依リ之ヲ固有財産ト爲スコトヲ得
- 第十一條 信託會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス
  - 一 公債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入
  - 二 公債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ質トスル貸付
  - 三 不動産ノ買入又ハ不動産ヲ擔保トスル貸付
  - 四 不動産ノ買入
  - 五 不動産又ハ法令ニ依リテ設定シタル財團

ヲ抵當トスル貸付

- 六 公共團體又ハ産業組合ニ對スル貸付
- 七 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金
- 八 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入前項第三號ニ規定スル動産ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第一項第四號ノ規定ニ依ル不動産ノ買入價格ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十二條 信託會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ
- 第十三條 信託會社ハ毎年業務報告書ヲ作り之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ
- 貸借對照表ハ每半年新聞紙ニ依リテ之ヲ公告スヘシ
- 第十四條 信託會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
- 第十五條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
  - 一 定款ヲ變更セムトスルトキ
  - 二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルト

キ

- 三 代理店ヲ設置セムトスルトキ
- 第十六條 合併後存續スル信託會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル信託會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル信託會社ノ信託ニ關スル權利義務ヲ承繼ス
- 信託會社ノ合併ニ付異議ヲ述ヘタル受益者アルトキハ其ノ信託ニ付テハ信託法第四十二條及第四十九條第一項第三項ノ規定ヲ準用ス
- 第十七條 主務大臣ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ業務ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
- 第十八條 主務大臣ハ信託會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ノ變更又ハ業務ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第十九條 信託會社カ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役監督ノ改任ヲ命シ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得
- 第二十條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ信託業



ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二十一條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締  
役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ  
過料ニ處ス

- 一 第四條、第五條第一項、第七條、第十一條乃至第十三條及第十五條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第九條ノ規定又ハ同條ニ基ク命令ニ違反シテ信託ニ付補填又ハ補足ノ契約ヲ爲シタルトキ
- 三 第十條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ固有財産ト爲シタルトキ
- 四 第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サヌ又ハ検査ヲ妨ケタルトキ
- 五 本法ノ命令又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
- 六 信託會社カ信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ信託財産ノ管理ヲ爲ササルトキ
- 七 信託會社カ信託法第三十九條ニ規定スル事務ノ處理若クハ計算ヲ爲サヌ又ハ財産目錄ヲ作ラサルトキ

八 信託會社カ正當ノ理由ナクシテ信託法第四十條ノ規定ニ依ル閱覽ノ請求ヲ拒ミ又ハ説明ヲ爲ササルトキ

第二十二條 第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營ム者ニシテ本法施行後六月内ニ信託業ノ免許ヲ申請スルモノニハ本法施行後五年ヲ限リ第二條ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ資本金ハ二十五萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

本法施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノハ本法施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ信託會社ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

◎信託業法施行細則

(大正十一年十二月一日大藏省令第五十七號)

- 第一條 信託業ヲ營ムトスル株式會社ハ免許申請書ニ總取締役署名シ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ
- 一 定款
  - 二 業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面
  - 三 免許申請前日ニ於ケル日計表
  - 四 預ケ先ノ預金證明書
  - 五 非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類
- 株式會社ニシテ其ノ目的ヲ變更シテ信託業ヲ營ムトスルモノハ前項第四號及第五號ノ書類ニ代ヘ左ノ書類ヲ添附スヘシ
- 一 會社登記簿ノ謄本
  - 二 免許申請ノ際現ニ存スル取引ノ性質ヲ知ルニ足ル書面
  - 三 最終ノ財産目錄及貸借對照表
  - 四 最終ノ損益計算及利益處分ニ關スル書面
  - 五 株主ノ氏名又ハ商號及持株數ヲ記載シタル書面

六 代理店ヲ有スル者ニ在リテハ代理店ノ所在地、代理店主ノ氏名又ハ商號及住所ヲ記載シタル書面並代理店契約書

第二條 業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ左ノ區分ニ依リ其ノ營ム信託業務ノ種類ヲ記載スヘシ

- 甲 金錢信託ニ付テハ其ノ運用方法ニ依ル區分
- 一 運用方法ノ特定セル金錢信託
  - 二 運用方法ノ指定アル金錢信託
  - 三 運用方法ノ特定及指定ナキ金錢信託
- 乙 金錢信託以外ノ信託ニ付テハ信託引受ノ際受入ルル財産ノ種類ニ依ル區分
- 一 金錢信託以外ノ金錢ノ信託
  - 二 有價證券ノ信託
  - 三 金錢債權ノ信託
  - 四 動産ノ信託
  - 五 土地及其ノ定著物ノ信託
  - 六 地上權ノ信託
  - 七 土地ノ賃借權ノ信託
- 業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ左ノ區分ニ依リ其ノ營ム業務ノ種類ヲ記載スヘシ



- 一 シ 保護預り
  - 二 債務ノ保證
  - 三 不動産賣買ノ媒介
  - 四 不動産賃借ノ媒介
  - 五 金錢貸借ノ媒介
  - 六 公債社債若ハ株式ノ募集又ハ其ノ拂込金受入ノ取扱
  - 七 公債社債若ハ株式ノ元利金又ハ配當金ノ支拂ノ取扱
  - 八 財産ノ取得、管理、處分又ハ貸借ノ代理事務
  - 九 財産ノ整理又ハ清算ノ代理事務
  - 十 債權取立ノ代理事務
  - 十一 債務履行ノ代理事務
- 第三條** 業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ其ノ營ム信託業務ノ方法ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 信託引受ノ際受入ルル財産ノ種類
  - 二 信託事務ノ處理ニ依リ取得スヘキ財産ノ種類
  - 三 信託業法第九條ノ規定ニ依ル補填又ハ補

- 足ニ關スル事項
  - 四 信託業法第十條ノ規定ニ依リ信託財産ヲ固有財産ト爲ス場合ニ於ケル財産ノ種類及價格算定ノ方法
  - 五 信託會社カ受クヘキ報酬額ノ計算方法
  - 六 金錢信託ニ付信託法第五十七條ノ規定ニ依ル信託ノ解除ニ關スル事項
  - 七 委託者又ハ受益者ニ對スル特別利益ノ提供ニ關スル事項
  - 八 其ノ他重要ナル事項
- 第四條** 信託會社カ營業ノ免許ヲ得タル日ヨリ六月内ニ業務ヲ開始セサルトキハ其ノ免許ハ效力ヲ失フ但シ己ムコトヲ得サル事由ニ因リ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條** 信託會社カ業務ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ
- 第六條** 信託契約ヲ爲スニハ書面ヲ用フヘシ
- 第七條** 信託契約書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託者及信託會社ノ代表者之ニ署名スベシ
- 一 委託者、受益者及信託會社ノ氏名又ハ商號

- 二 不特定ノ受益者又ハ未タ存在セサル受益者アルトキハ其ノ範圍、資格其ノ他受益者トナルヘキ者ヲ知ルコトヲ得ヘキ事項
- 三 受益權ノ發生ニ付受益者カ信託ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示スルヲ要件トスルコト又ハ委託者カ受益者ヲ指定若ハ變更スルコトヲ定メタルトキハ之ニ關スル事項
- 四 信託ノ目的
- 五 信託契約締結ノ際ニ於ケル信託財産ノ種類、數量及價額
- 六 信託法第三條ノ規定ニ依ル登記、登錄又ハ信託財産ナルコトノ表示及記載ニ關スル事項
- 七 契約ノ期間
- 八 信託事務ノ處理ニ依リ取得スヘキ財産ヲ特定又ハ指定シタルトキハ其ノ種類
- 九 受益者ニ交付スヘキ信託財産ノ種類並其ノ交付ノ方法及時期
- 十 信託財産タル金錢ト他ノ信託財産タル金錢トノ合同運用ニ關スル事項
- 十一 信託業法第九條ノ規定ニ依ル補填又ハ補足ノ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ補填補足ノ

- 割合其ノ他之ニ關スル事項
- 十二 信託業法第十條ノ規定ニ依リ信託財産ヲ固有財産ト爲シ得ヘキコトヲ定ムルトキハ其ノ財産ノ種類、價格算定ノ方法
- 十三 信託會社カ受クヘキ報酬ニ付其ノ額又ハ其ノ計算方法、支拂義務者並支拂ノ方法及時期
- 十四 信託財産ニ關スル租稅、公課、修繕費其ノ他ノ費用ニ關スル事項
- 十五 金錢信託ニ付信託法第五十七條ノ規定ニ依ル信託ノ解除ニ關スル事項
- 十六 信託終了ノ場合ニ於ケル最終計算及其ノ報告ニ關スル事項
- 十七 左ノ事項ニ付信託契約ニ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ之ニ關スル事項
  - イ 信託法第八條第一項但書ノ規定ニ依ル信託管理人ノ指定
  - ロ 受託者數人アル場合ニ於ケル信託事務ノ處理
  - ハ 受託者ノ辭任
  - ニ 任務終了ノ場合ニ於ケル新受託者ノ選任



ホ 信託終了ノ事由

ハ 金錢信託以外ノ信託ニ付信託法第五十七條ノ規定ニ依ル解除

ト 信託法第五十八條ノ規定ニ依ル信託ノ解除

十八 證書作成ノ年月日

十九 其ノ他重要ナル事項

第八條 信託會社ハ五百圓未滿ノ金錢信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 信託會社ハ信託期間一年ヲ下ル金錢信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス但シ運用方法ノ特定セルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 信託會社ハ其ノ保證ノ責ニ任スヘキ限度ノ確定セサル債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 信託會社ノ保證スル債務ノ總額ハ其ノ資本金及準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス一人債務者ノ爲ニ保證スル債務ノ總額ハ資本金準備金ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 主タル債務者カ會社ナルトキハ信託會社カ其ノ會社ノ爲ニ保證スル債務ノ總額ハ該會社ノ資本金又ハ財産ノ目的トスル出資ノ拂込金準備金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 主タル債務者カ會社ニ非サルトキハ信託會社ハ物上擔保ヲ徵スルニ非サルハ保證ヲ爲スコトヲ得ス但シ主タル債務者カ公共團體又ハ産業組合ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 信託會社カ國債、地方債、特別ノ法令ニ依リ設立シタル會社ノ社債若ハ株式、不動産又ハ法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ擔保トシテ保證シタル債務額ハ第十一條及第十二條ノ適用ニ付信託會社ノ保證スル債務ノ總額ヨリ之ヲ除算ス

第十五條 信託會社ハ信託業法第七條ノ規定ニ依ル信託額カ資本金ノ十分ノ一(資本金千萬元以上ナルトキハ五十萬元)ニ達スル迄ハ毎事業年度末日ヨリ二十日以内ニ資本金ノ二分ノ一以上(資本金千萬元以上ナルトキハ五萬元以上)ノ金額ニ相當スル供託ヲ爲ヘス

信託會社ハ事業年度末日ニ於ケル信託財産ノ價格カ資本金ノ額ニ達シタルトキハ該事業年度末日ヨリ二十日以内ニ前項ノ規定ニ拘ラス資本金ノ十分ノ一以上(資本金千萬元以上ナルトキハ百萬元以上)ノ金額ニ相當スル供託

ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ハ其ノ供託價格カ資本金ノ十分ノ一(資本金千萬元以上ナルトキハ百萬元)ヲ超過スル部分ニ非サルハ其ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得ス但シ供託換ノ目的ヲ以テ供託シタル國債ノ供託價格ノ以下部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託ハ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託國債ノ供託價格ハ毎事業年度末日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條 信託會社ハ信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託ヲ爲シタルトキハ供託受領證ノ寫ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

第二十條 信託會社ハ信託業法第七條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ノ下戻ヲ受ケムトスルトキハ大正十一年司法省令第二號供託物取扱規則又ハ大正十一年司法省令第四號ノ手續ニ依ルノ外地方官カ其ノ下戻ヲ承認シタルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ供託局、供託局出張所又ハ供託事務ヲ取扱フ銀行ニ提出スヘシ

信託會社ハ前項ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由並國債ノ種類、記號、番號、枚數、

券面額及供託價格ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請ニ對シ承認ヲ爲シタルトキハ申請書ノ寫ヲ添附シテ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 信託會社カ信託業法第九條ノ規定ニ依リ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ補足スヘキ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ利益歩合ハ大藏大臣ノ定ムル歩合ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條 信託會社カ信託業法第十一條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケムトスルトキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ

第二十三條 信託會社ノ事業年度ハ毎年六月ヨリ十一月迄及十二月ヨリ翌年五月迄トス

第二十四條 信託業法第十三條第一項ノ業務報告書ハ附屬難形ニ準シテ調製シ事業年度經過後二月内ニ大藏大臣ニ提出スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケテ之カ提出ヲ延期スルコトヲ得

第二十五條 信託會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲シタル後信託會社ノ總取締役ノ署名シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣

ニ提出スヘシ

其ノ事由並國債ノ種類、記號、番號、枚數、

券面額及供託價格ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請ニ對シ承認ヲ爲シタルトキハ申請書ノ寫ヲ添附シテ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十一條 信託會社カ信託業法第九條ノ規定ニ依リ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ補足スヘキ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ利益歩合ハ大藏大臣ノ定ムル歩合ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條 信託會社カ信託業法第十一條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケムトスルトキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ



ニ提出スヘシ  
 一 株主總會ノ決議録及社員ノ同意アリタルコトヲ知ルニ足ル書面  
 二 合併ニ關スル契約書  
 三 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面  
 四 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル貸借對照表  
 五 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依ル公告及催告並商法第二百二十條ノ二ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタルコトヲ知ルニ足ル書面  
 第二十六條 信託會社カ定款ヲ變更セムトストキハ認可申請書ニ理由書及株主總會ノ決議ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ資本減少ニ關シ定款ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ尙前條第四號及第五號ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ  
 第二十七條 信託會社カ業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトストキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ  
 第二十八條 信託會社カ代理店ヲ設置セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書及代理店契約書ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ  
 第二十九條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ遲滯

ナク其ノ事由ヲ具シテ之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ  
 一 取締役又ハ監査役ノ就任又ハ退任アリタルトキ  
 二 本店、支店又ハ代理店ヲ移轉シタルトキ  
 三 代理店契約ノ變更、又ハ消滅又ハ更新アリタルトキ  
 四 訴訟事件ノ被告トナリタルトキ  
 五 支拂停止ヲ爲シタルトキ  
 六 業務ヲ廢止シ又ハ解散シタルトキ  
 七 和議開始ノ申立ヲ爲シ、和議認可ノ決定カ確定シ又ハ和議力其ノ效力ヲ失ヒタルトキ  
 八 破産ノ宣告ヲ受ケ、破産宣告ニ對シ抗告ヲ爲シ又ハ抗告ニ對シ裁判所ノ決定ヲ受ケタルトキ  
 九 強制和議認可ノ決定カ確定シ又ハ強制和議力其ノ效力ヲ失ヒタルトキ  
 第四十條 信託業法又ハ本令ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス  
 第三十一條 本令ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得  
 第三十二條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締役又ハ監査役ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處

ス  
 一 第八條及第九條ノ規定ニ違反シタルトキ  
 二 第五條及第二十九條ノ規定ニ依リ届出ヲ怠リ又ハ其ノ届出ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ  
 附則  
 本令ハ信託業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 第一條第二項ノ規定ハ信託業法施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム株式會社カ營業ノ免許ヲ受ケムトスル場合ニ付之ヲ準用ス  
 信託業法附則第二項ノ適用ヲ受ケヘキ株式會社カ提出スル免許申請書ニハ第一條第二項ニ依リ添附スヘキ書類ノ外本法施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營メルコトヲ知ルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

本令施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ信託業法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノハ本令施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本令ノ規定ニ適合セサルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得 (離形略ス)

**一定ノ町村又ハ其大字  
 土地登記之部  
 一定ノ町村又ハ**

第一條 本法ニ於テ立木ト稱スルハ一筆ノ土地又ハ一筆ノ土地ノ一部分ニ植栽ニ依リ生立セシメタル樹木ノ集團ニシテ其所有者ガ本法ニ依リ所有權保存ノ登記ヲ受ケタルモノヲ謂フ  
 第二條 立木ハ之ヲ不動産ト看做ス  
 立木ノ所有者ハ土地ト分離シテ立木ヲ讓渡シ又ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得  
 土地所有權又ハ地上權ノ處分ノ效力ハ立木ニ及ハス  
 第三條 立木ノ所有者ハ立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テモ當事者ノ協定シタル施業方法ニ依リ其ノ樹木ヲ採取スルコトヲ妨グズ、且申  
 第四條 立木ヲ目的トスル抵當權ハ前條ノ規定ニ依リ採取ノ場合ヲ除クノ外其ノ樹木カ土地ヨリ分離シタル後ト雖其ノ樹木ニ付之ヲ行フコトヲ得  
 抵當權者ハ債權ノ期限ノ到來前ト雖前項ノ樹木ヲ競賣スルコトヲ得但シ其ノ競賣代金ハ之ヲ供託スヘシ  
 樹木ノ所有者ハ競賣ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所ニ相當ノ擔保ヲ供託シテ競賣ノ免除ヲ申立ツルコトヲ得



第四十五號(同八年第五十八號ヲ以テ改正)

一、奈良縣大和國吉野郡四郷村、小川村、川上村、十津川村大字川津、折立、山手谷、高瀧、神下、那知合、檜原、猿飼、桑畑、上湯川、天川村大字河川、川合、枋尾、九尾、高見村大字小津、平野、杉谷、谷尾、萩原、瀧野、日裏、野家、野迫川村大字北股、北今四、大塔村大字阪本、南吉野村大字才谷、長谷桂原、赤瀧、中莊村大字喜佐谷、檜尾、

(四十一年五月二十一日司法省告示第二十八號) 明治三十九年司法省令第十七號第一條第二項ニ依リ左ノ大字ヲ指定ス

一、奈良縣大和國宇陀郡御杖村大字土屋原、菅室生村大字田口、曾爾村大字小長、桃保尾

一同縣同國吉野郡十津川村大字谷垣内、道(四十四年九月十九日司法省告示第五十六號) 明治三十九年司法省令第十七號第一條第二項ニ依リ左ノ大字ヲ指定ス 一、奈良縣大和國吉野郡高見村大字伊豆尾 一同縣同郡十津川村大字七色

立木登記之部

立木ニ關スル法律

(四十二年四月二日法律第二十二號)

大字ノ土地登記簿ニ關スル件

(明治三十九年七月九日司法省令第十七號) 一定ノ町村又ハ其大字ノ土地登記簿ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十九年七月九日 司法大臣松田正久

第一條 一定ノ町村又ハ其大字ノ土地登記簿ニ關スル件附錄第一號雜形ニ依リ之ヲ調製スルコトヲ得

前項ノ町村又ハ其大字ハ地方裁判所長ノ具申ニ因リ司法大臣之ヲ定ム

第二條 前條ノ土地登記簿ヲ備ヘタル登記所ハ地上權登記索引簿ヲ備フルコトヲ得

地上權登記索引簿ハ附錄第二號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ(雜形略)

一定ノ町村及ヒ其ノ大字ノ指定ノ件

(三十九年八月司法省告示第二十五號) 本年司法省令第十七號第一條第二項ニ依リ左ノ町村及ヒ其ノ大字ヲ指定ス(大正四年十月司法省告示)

樹木ノ所有者ハ抵當權者ニ對シテ一箇月以上ノ期間ヲ定メ競賣ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ抵當權者カ其ノ期間内ニ競賣ヲ爲ササルトキハ其ノ樹木ニ付抵當權ヲ行フコトヲ得

第一項ノ規定ハ民法第九十二條乃至第九十四條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第五條 立木カ土地ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其ノ土地又ハ立木ノミカ抵當權ノ目的タルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付地上權ヲ設定シタルモノト看做ス但シ其ノ存續期間及地代ハ當事者ノ請求ニ依リ地方ノ慣習ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

第六條 立木カ地上權者ニ屬スル場合ニ於テ其ノ地上權又ハ立木ノミカ抵當權ノ目的タルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付地上權ノ存續期間内ニ於テ其ノ土地ノ貸貸借ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ存續期間及借貸ニ付テハ前條但書ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ地上權ノ存續期間ノ定ナキトキハ其ノ期間ハ當事者又ハ貸借人ノ請求ニ依リ地方ノ慣習ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム

民法第六百四條及第六百十二條ノ規定ハ第一項ノ貸貸借ニ之ヲ適用セズ

第七條 前條ノ規定ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得ル土地ノ貸借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 地上權者又ハ土地ノ賃借人ニ屬スル立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テハ地上權者又ハ賃借人ハ抵當權者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ權利ヲ拋棄シ又ハ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 立木カ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ所有者カ樹木ノ運搬ヲ爲土地ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ立木ノ競賣人ハ其ノ權利ヲ行使スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相當ノ對價ヲ支拂フヘシ

前項ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第十條 第二條第三項及第三條乃至第九條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス

第十一條 土地又ハ地上權カ質權ノ目的タル場合ニ於テハ其ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲スコトヲ得



第十二條 各登記所ニ立木登記簿ヲ備フ  
不動産登記法第十四條第二項及第十九條ノ規  
定ハ前項ノ登記簿ニ之ヲ準用ス

第十三條 立木登記簿ハ一箇ノ立木ニ付キ一用  
紙ヲ備フ

第十四條 立木登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號  
欄、表題部及甲乙ノ二區ニ分チ表題部ニ表示  
欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番  
號欄ヲ設ケ

登記番號欄ニハ各立木ニ付登記簿ニ始テ登記  
ヲ爲シタル順序ヲ記載ス  
表示欄ニハ立木ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關  
スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登  
記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス  
乙區事項欄ニハ先取特權及抵當權ニ關スル事  
項ヲ記載ス  
順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタ  
ル順序ヲ記載ス

第十五條 登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三  
十六條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載ス  
ヘシ

有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地ノ登記  
用紙中表示欄ニ立木ノ登記番號ヲ記載シ登記  
官吏捺印スヘシ立木ノ區分ノ登記ヲ爲シタル  
トキ又ハ立木ノ存スル土地ニ付所有權保存ノ  
登記ヲ爲シタルトキ亦同シ

立木ノ登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ前項ノ規  
定ニ依リテ記載シタル登記番號ヲ朱抹シ登記  
官吏捺印スヘシ

第二十條 立木ノ分合若ハ滅失アリタルトキ又  
ハ第十五條第一號及第二號ニ掲ケタル事項ニ  
變更アリタルトキハ所有權ノ登記名義人ハ選  
滯ナク其ノ登記ヲ申請スヘシ但シ樹木ノ發生  
若ハ成長又ハ第三條ノ施業方法ニ依ル變更ニ  
付テハ此ノ限ニ在ラス

立木ノ存スル土地ノ地目、字、番號又ハ段別ニ  
變更アリタルトキ亦前項ニ同シ  
不動産登記法中建物ノ滅失及其ノ表示ノ變更  
ノ登記ニ關スル規定ハ前二項ノ登記ニ之ヲ準  
用ス

第二十一條 立木ヲ目的トスル抵當權設定ノ登  
記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ不動産登  
記法第十七條ニ掲ケタル事項ノ外施業方法

四百九十二

一 樹木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ生立スル場  
合ニ於テハ其ノ部分ノ位置及段別、其ノ部  
分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其  
ノ名稱又ハ番號

二 樹種、數量及樹齡

第十六條 不動産登記法第六條及第七條ノ  
規定ハ所有權保存ノ登記ニ之ヲ準用ス

第十七條 所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ  
於テ其ノ保存登記ニ付土地ノ登記簿上利害ノ  
關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ  
承諾書又ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ謄本ヲ添附ス  
ヘシ

第十八條 既登記ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所  
有權保存ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ土  
地ノ登記用紙中土地又ハ地上權ヲ目的トスル  
先取特權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ立木登  
記簿ニ其ノ登記ヲ轉寫スヘシ但シ其ノ登記ニ  
抵當權カ樹木ニ及ハサル旨ノ記載アルトキハ  
此ノ限ニ在ラス

不動産登記法第八十三條第一項及第二項ノ規  
定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 既登記ノ土地ニ生立スル樹木ニ付所  
有權保存ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ土  
地ノ登記用紙中土地又ハ地上權ヲ目的トスル  
先取特權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ立木登  
記簿ニ其ノ登記ヲ轉寫スヘシ但シ其ノ登記ニ  
抵當權カ樹木ニ及ハサル旨ノ記載アルトキハ  
此ノ限ニ在ラス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治  
四十三年五月二十日ヨリ施行)

立木登記規則

(明治四十三年四月司法省令第五號)

第一條 明治四十二年法律第二十二號ニ依ル立  
木ノ登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ  
除クノ外不動産登記法施行細則ノ規定ニ依ル

第二條 立木登記簿ハ附錄第一號雜形ニ依リ地  
方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條 立木共同人名簿ハ附錄第二號雜形ニ依  
リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 立木登記見出帳ハ附錄第三號雜形ニ依  
リテ之ヲ調製スヘシ

第五條 立木登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九  
ノ部マテヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記  
載スル毎ニ立木ノ存スル土地ノ番號ノ頭字ニ  
依リ相當ノ部ニ其ノ土地ノ番號、登記用紙ヲ  
編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記  
入シ若樹木ノ生立スル部分ヲ表示スヘキ名稱



又ハ番號アルトキハ其ノ名稱又ハ番號ヲモ記  
入スヘシ但シ立木ノ存スル土地カ二箇以上ノ  
番號ヲ有スルトキハ其ノ少ナキ番號ノ部ニ  
ミ記入スヘシ

既登記ノ地上權者ノ申請ニ因リ立木ニ付所有  
權保存ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ前項ノ  
外其ノ地上權ノ順位番號ヲモ記入スヘシ

第六條 第四條ニ定メタル雜形ノ見出帳ヲ使用  
スルチ不便トスル地方ニ在リテハ地方裁判所  
長ハ特別ノ見出帳ヲ調製セシムルコトヲ得  
前項ノ見出帳ノ雜形、之ヲ用ウヘキ登記所及  
其ノ記入手續ニ付テハ豫メ司法大臣ノ認可ヲ  
受クヘシ

第七條 不動産登記法施行細則第三十條及第三  
十一條ノ規定ハ立木登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ  
交附又ハ立木登記簿若ハ附屬書類ノ閱覽ノ請  
求ニ之ヲ準用ス但シ樹木ノ生立スル部分ヲ表  
示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ申請書ニ其  
ノ名稱又ハ番號ヲモ記載スヘシ

第八條 樹木ノ數量ハ材積及本數ヲ記載スヘシ  
但シ三十年生以下ノ樹木ニ在リテハ本數ヲ記  
載スルチ以テ足ル

材積ノ單位、呼稱及測定方法ハ各地方ノ慣習  
ニ從フ

第九條 一集團ニ二種以上ノ樹木生立スル場合  
ニ於テハ各種毎ニ材積及本數ヲ記載スヘシ

第十條 樹齡ハ一集團ニ異ナル樹木ノ生  
立スル場合ニ於テハ何年生以上何年生以下ト  
記載スルチ以テ足ル

第十一條 樹種、數量及樹齡ヲ申請書ニ記載ス  
ル場合ニ於テハ之ヲ調査シタル年度ヲ記載ス  
ヘシ

第十二條 既登記ノ地上權者カ立木ニ付所有權  
保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ  
其ノ地上權ノ順位番號ヲ記載スヘシ

第十三條 登記ノ申請書ニ添附スヘキ圖面ハ附  
錄第四號雜形ニ準シテ調製シ之ニ左ノ事項ヲ  
記載シ申請人署名捺印スヘシ  
一 立木所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番  
號  
二 地目及段別  
三 樹木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ生立スル場  
合ニ於テハ其ノ部分ノ位置及段別、其ノ部  
分ヲ表示スヘキ名稱又ハ番號アルトキハ其

ノ名稱又ハ番號

四 立木ノ存スル土地又ハ土地ノ部分ノ境界  
ニ道路、河川、湖海、沼池其ノ他境界ノ目標  
タルヘキモノアルトキハ其ノ名稱及位置

五 隣接地ノ番號並地目及其ノ所有者ノ氏名

六 立木カ一筆ノ土地ノ一部分ニ存スル場合  
ニ於テハ其ノ部分ニ隣接スル他ノ部分ノ表  
示

七 隣接スル土地又ハ土地ノ部分ニ生立スル  
樹木ノ所有者カ土地ノ所有者ト異ナルトキ  
ハ其ノ樹木ノ所有者ノ氏名

第十四條 市區町村ニ地方長官ノ認可ヲ得テ作  
製シタル立木ニ關スル實測圖面及公簿ノ備ア  
ルトキハ登記ノ申請書ニ其ノ圖面及公簿ノ謄  
本ヲ添附スヘシ但シ此ノ圖面ハ前條ニ掲ケタ  
ル事項ヲ具備スルコトヲ要ス

第十四條ノ二 登記所カ市區町村ヨリ實測圖面  
ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキハ便宜整理シ永  
久ニ之ヲ保存スヘシ(追加大正元年八月省令  
第一號)

第十五條 抵當權設定ノ登記ノ申請書ニ記載ス  
ヘキ施業方法カ詳密ニ涉ルトキハ申請書ノ記

載ニ代ヘ其ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附ス  
ヘシ

第十六條 前條ノ添附書面ニハ申請人之ニ署名  
捺印シ且其ノ書面カ數葉ニ涉ルトキハ每葉ノ  
綴目ニ契印スヘシ但シ登記權利者又ハ登記義  
務者カ多數ナルトキハ其ノ一人ノ署名捺印又  
ハ契印ヲ以テ足ル

第十七條 第十五條ノ添附書面ハ受附番號ノ順  
序ニ依リテ之ヲ編綴シ且之ニ丁數ヲ附スヘシ

第十八條 第十五條ノ場合ニ於テ登記官吏カ乙  
區事項欄ニ抵當權設定ノ登記ヲ爲ストキハ施  
業方法ヲ記載シタル添附書面ノ提出アリタル  
旨ヲ記載シ登記ノ末尾ニ其ノ書面ノ綴込帳ノ  
冊數及丁數ヲ記載シ且添附書面ニ申請書受附  
ノ年月日受附番號、登記番號及順位番號ヲ記  
載スヘシ

前項ノ記載ヲ爲シタルトキハ添附書面ニ掲ケ  
タル施業方法ハ乙區事項欄ニ記載セラレタル  
モノト看做ス

第十九條 添附書面ニ掲ケタル施業方法ノ變更  
ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ  
變更ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ



### ◎立木ノ先取特權ニ 關スル件

(明治四十三年四月法律第五十六號)

他人ノ土地ノ上ニ立木ヲ有スル者カ土地ノ所有  
者ニ對シ樹木伐採ノ時期ニ於テ其ノ樹木ノ價格  
ニ對スル一定ノ割合ノ地代ヲ支拂フヘキ契約ヲ  
爲シタルトキハ土地ノ所有者ハ地代ニ付其ノ立  
木ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ハ他ノ權利ニ對シテ優先ノ效力  
ヲ有ス但シ民法第三百二十九條第二項ノ適用ヲ  
妨ケス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四  
十三年五月二十日ヨリ施行)

第二十條 第十六條乃至第十八條ノ規定ハ前條  
ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二十一條 登記官吏カ添附書面ニ掲ケタル施  
業方法ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ添附書  
面中變更シタル事項ヲ朱抹シ其ノ餘白ニ變更  
ヲ記載シタル書面ノ冊數及丁數ヲ記入スヘシ  
第二十二條 前三條ノ規定ハ添附書面ニ掲ケタ  
ル事項ノ更正ノ登記ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十二年法律第二十二號施行ノ日ヨ  
リ之ヲ施行ス

(附錄第一號乃至第三號雜形及ヒ第四號圖式  
ハ之ヲ略ス)

附則

(大正五年十二月省令第二十六  
號帳簿雜形ノミ改正ニ對スル

本令ハ大正六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前調製シタル帳簿ハ本令施行後ト雖之  
ヲ使用スヘシ  
見出帳ハ之ヲ改製スル迄ハ仍從前ノ雜形ニ依ル  
ヘシ

## 第二編 商事法規

### 通法之部

#### ◎商法(明治三十二年三月 法律第四十八號)

第一編 總則

第一章 法例	五〇〇
第二章 商人	五〇〇
第三章 商業登記	五〇〇
第四章 商號	五〇二
第五章 商業帳簿	五〇三
第六章 商業使用人	五〇三
第七章 代理商	五〇三
第二編 會社	五〇四
第一章 總則	五〇四
第二章 合名會社	五〇五
第一節 設立	五〇五
第二節 會社ノ内部ノ關係	五〇六
第三節 會社ノ外部ノ關係	五〇六
第四節 社員ノ退社	五〇七
第五節 解散	五〇七
第六節 清算	五〇八

### 第三章 合資會社

第四章 株式會社	五〇三
第一節 設立	五〇四
第二節 株式	五〇四
第三節 會社ノ機關	五〇五
第一款 株主總會	五〇五
第二款 取締役	五〇五
第三款 監査役	五〇五
第四節 會社ノ計算	五〇六
第五節 社債	五〇七
第六節 定款ノ變更	五〇九
第七節 解散	五〇九
第八節 清算	五〇九
第五章 株式合資會社	五〇九
第六章 外國會社	五〇九
第七章 罰則	五〇九
第三編 商行爲	五〇九
第一章 總則	五〇九
第二章 買賣	五〇九
第三章 交互計算	五〇九
第四章 匿名組合	五〇九
第五章 仲立營業	五〇九



第六章	問屋營業	五七五
第七章	運送取扱營業	五七六
第八章	運送營業	五七七
第一節	物品運送	五七七
第二節	旅客運送	五八〇
第九章	寄託	五八〇
第一節	總則	五八〇
第二章	倉庫營業	五八一
第十章	保險	五八五
第一節	損害保險	五八五
第一款	總則	五八五
第二款	火災保險	五九〇
第三款	運送保險	五九一
第二節	生命保險	五九一
第四編	手形	五九三
第一章	總則	五九三
第二章	爲替手形	五九四
第一節	振出	五九四
第二節	裏書	五九五
第三節	引受	五九六
第四節	擔保ノ請求	五九八
第五節	支拂	五九九

第四百九十八	第六節	償還ノ請求	五九九
	第七節	保證	六〇三
	第八節	參加	六〇三
	第一款	參加引受	六〇三
	第二款	參加支拂	六〇三
	第九節	拒絕證書	六〇四
	第十節	爲替手形ノ複本及ヒ謄本	六〇五
	第三章	約束手形	六〇六
	第四章	小切手	六〇七
	第五編	海商	六〇八
	第一章	船舶及ヒ船舶所有者	六〇八
	第二章	船員	六一一
	第一節	船長	六一一
	第二節	海員	六一一
	第三章	運送	六一四
	第一節	物品運送	六一六
	第一款	總則	六一六
	第二款	船荷證券	六一六
	第二節	旅客運送	六一三
	第四章	海難救助	六一三
	第五章	海難救助	六一三
	第六章	保險	六一六

第七章 船舶債權者  
商法

第一編	總則	
第一章	法例	
第一條	商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用シ商慣習法ナキトキハ民法ヲ適用ス	
第二條	公法人ノ商行為ニ付テハ法令ニ別段ノ定ナキトキニ限リ本法ノ規定ヲ適用ス	
第三條	當事者ノ一方ノ爲メニ商行為タル行爲ニ付テハ本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス	
第二章	商人	
第四條	本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行為ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ	
第五條	未成年者又ハ妻カ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス	
第六條	會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ其會社ノ業務ニ關シテハ之ヲ能力者ト看做ス	
第七條	法定代理人カ親族會ノ同意ヲ得テ無能力者ノ爲メニ商業ヲ營ムトキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス(改正四十四年法律第七十三號)	

法定代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(同上)		
第八條	戶戶ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他小商人ニハ商業登記、商號及ヒ商業帳簿ニ關スル規定ヲ適用セス	
第三章	商業登記	
第九條	本法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ハ當事者ノ請求ニ因リ其營業所ノ裁判所ニ備ヘタル商業登記簿ニ之ヲ登記ス	
第十條	本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス	
第十一條	登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス	
第十二條	登記スヘキ事項ハ登記及ヒ公告ノ後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス登記及ヒ公告ノ後ト雖モ第三者カ正當ノ事由ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキ亦同シ	
第十三條	支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ヲ登記セサリシトキハ前條ノ規定ハ其支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テノミ之ヲ適用ス	



第十四條 登記ハ其公告ト抵觸スルトキト雖モ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第十五條 登記シタル事項ニ變更ナシ又ハ其事項カ消滅シタルトキハ當事者ハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 商號

第十六條 商人ハ其氏、氏名其他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得

第十七條 會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合名會社、合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用ユルコトヲ要ス

第十八條 會社ニ非スシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ユルコトヲ得ス會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シ

第十九條 他人カ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ之ヲ登記スルコトヲ得ス

第二十條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 商號ノ讓渡ハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十二條 商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ讓渡人ハ同市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第二十四條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 前條ノ規定ハ營業ノミナ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第二十七條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 前條ノ規定ハ營業ノミナ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第三十條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第三十二條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 前條ノ規定ハ營業ノミナ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第三十五條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十六條 讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス

ルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定ス

第二十一條 商號ノ讓渡ハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十二條 商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ讓渡人ハ同市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第二十四條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 前條ノ規定ハ營業ノミナ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第二十七條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 前條ノ規定ハ營業ノミナ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第三十條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第三十二條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條 前條ノ規定ハ營業ノミナ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第三十五條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十六條 讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス

第三十七條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 前條ノ規定ハ營業ノミナ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第四十條 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ異議アラハ其期間内ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告シ若シ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ直チニ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第五章 商業帳簿

第二十五條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日ノ取引

其他財産ニ影響ヲ及ボスヘキ一切ノ事項ヲ整理且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但家事費用ハ

然且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但家事費用ハ一個月毎ニ其總額ヲ記載スルヲ以テ足ル

小賣ノ取引ハ現金賣ト掛賣トヲ分チ日ノ賣上總額ノミヲ記載スルコトヲ得

第二十六條 動産、不動産、債權、債務其他ノ財産ノ總目錄及貸方借方ノ對照表ハ商人ノ開業ノ時又ハ會社ノ設立登記ノ時及ヒ毎年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ作り特ニ設ケタル帳簿ニ

之ヲ記載スルコトヲ要ス  
財産目錄ニハ動産、不動産、債權其他ノ財産ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス其價額ハ財産目錄調製ノ時ニ於ケル價額ニ超ユルコトヲ得ス(同上)

第二十七條 年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社

ニ在リテハ毎配當期ニ前條ノ規定ニ從ヒ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第二十七條ノ二 裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ訴訟ノ當事者ニ其商業帳簿ノ提出ヲ命スルコトヲ得(追加同上)

第二十八條 商人ハ十年間其商業帳簿及ヒ其營業ニ關スル信書ヲ保存スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ商業帳簿ニ付テハ其帳簿閉鎖ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六節 商業使用人

第二十九條 商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムルコトヲ得

第三十條 支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得

支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十條ノ二 商人ハ數人ノ支配人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シ







請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得

第四十八條ノ二 本編ノ規定ニ據リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス(同上)

第二章 合名會社

第一節 設立

第四十九條 合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第五十條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 商號
- 三 社員ノ氏名、住所
- 四 本店及ヒ支店ノ所在地
- 五 社員ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

第五十一條 會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二 本店及ヒ支店

三 設立ノ年月日

四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

五 社員ノ出資ノ種類及ヒ財産ヲ目的トスル出資ノ價格

六 會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名

七 數人ノ社員カ共同シ又ハ社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定(同上)

會社設立ノ後支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ前項ニ定メタル登記ヲ爲シ本店及ヒ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第五十二條 會社カ其本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間内ニ前條

第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 會社ノ内部トノ關係

第五十四條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 社員カ債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者カ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザリシトキハ社員ハ其辨濟ノ責ニ任ス此場合ニ於テハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第五十七條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ社員ノ過半數

ヲ以テ之ヲ決ス

第五十八條 定款ノ變更其他會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行為ヲ爲スニハ總社員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五十九條 社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ其讓渡ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第六十條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

社員カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ハ過半數ノ決議ニ依リ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ他ノ社員ノ一人カ其行為ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキハ消滅スル行為ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三節 會社ノ外部ノ關係

第六十一條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ



會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メカサトキハ各社員會社ヲ代表ス

第六十一條ノ二 會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ數人ノ社員カ共同シ又ハ社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得(同上)

第三十條ノ二第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第六十二條 會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

民法第四十四條第一項及ヒ第五十四條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第六十三條 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員連帶シテ其辨濟ノ責ニ任ス

第六十四條 設立ノ後會社ニ加入シタル社員ハ其加入前ニ生シタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ

第六十五條 社員ニ非サル者ニ自己ヲ社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其者ハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フ

五百六

第六十六條 社員ノ出資ノ減少ハ之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ本店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シタル後二年間債權者カ之ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ此限ニ在ラス

第六十七條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第四節 社員ノ退社

第六十八條 定款ヲ以テ會社ノ存立時間ヲ定メ

サリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トナ問ハス己ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 前條ニ掲ゲタル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總社員ノ同意

- 三 死亡
- 四 破産
- 五 禁治産
- 六 除名

第七十條 社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス

一 社員カ出資ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ僱告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲ササルトキ

二 社員カ第六十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 社員カ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當タリ會社ニ對シテ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ

四 社員カ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサル場合ニ於テ其業務ノ執行ニ干與シタルトキ

第七十一條 退社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其持分ノ拂戻ヲ

受クルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十二條 會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用井タルトキハ退社員ハ其氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第七十三條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ其登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第五節 解散

第七十四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能
- 三 總社員ノ同意
- 四 會社ノ合併
- 五 社員カ一人ト爲リタルコト
- 六 會社ノ破産
- 七 裁判所ノ命令



第七十五條 前條第一號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十六條 會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 會社ノ合併ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第七十九條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

第八十條 會社カ第七十八條第二項ニ定メタル公告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其債權者ニ對シテ對抗スルコトヲ得

第八十一條 會社カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十二條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第八十四條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ス

第六節 清算

第八十五條 解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第八十六條 前條ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定メザリシトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外後十五條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス(改正同上)

第八十七條 清算ハ總社員又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

第八十八條 清算人ノ選任ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第八十九條 第七十四條第五號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第九十條 清算人ノ選任アリタルトキハ其清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ

第八十五條 解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第八十六條 前條ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定メザリシトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外後十五條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス(改正同上)

第八十七條 清算ハ總社員又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

第八十八條 清算人ノ選任ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第八十九條 第七十四條第五號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス



左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス(同上)

- 一 清算人ノ氏名、住所
- 二 會社ヲ代表スヘキ清算人ヲ定メタルトキハ其氏名
- 三 數人ノ清算人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

第九十一條 清算人ノ職務左ノ如シ

- 一 現務ノ結了
  - 二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
  - 三 殘餘財産ノ分配
- 會社ヲ代表スヘキ清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス(同上)
- 清算人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 民法第八十一條ノ規定ハ合名會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十一條ノ二 會社ハ辨濟期ニ至ラサル債權ト雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス(追加同上)

半數ヲ以テ之ヲ決ス

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第九十七條 第九十條ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ清算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス(改正同上)

第九十八條 清算人ノ任務カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ計算ニ對シ社員カ一个月内ニ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス但清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十九條 清算カ結了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條ノ二 會社カ事業ニ著手シタル後社員カ其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張スルコトヲ得(追加同上)

第九十九條ノ三 前條ノ訴ハ本店ノ所在地ノ地

五百十

テ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス(同上)

第九十二條 會社ニ現存スル財産カ其債務ヲ完濟スルニ不足ナルトキハ清算人ハ辨濟期ニ拘ハラス社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十三條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス(改正同上)

第九十三條ノ二 第六十一條及ヒ第六十一條ノ二ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス(追加同上)

裁判所カ數人ノ清算人ヲ選任スル場合ニ於テ會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メス又ハ數人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メサルトキハ其清算人ハ各自會社ヲ代表ス(同上)

第九十四條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第九十五條 清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社財産ヲ社員ニ分配スルコトヲ得ス

第九十六條 社員カ選任シタル清算人ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得此解任ハ社員ノ過

方裁判所ノ管轄ニ專屬ス(同上)

數箇ノ訴カ同時ニ繫屬スルトキハ辯論及ヒ裁判ハ合併シテ之ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第九十九條ノ四 設立ヲ無効トスル判決ハ當事者ニ非サル社員ニ對シテモ其效力ヲ有ス(同上)

原告カ敗訴シタル場合ニ於テ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス(同上)

第九十九條ノ五 設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第九十九條ノ六 設立ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス(同上)

設立ヲ無効トスル判決ハ會社ト第三者トノ間ニ成立シタル行爲ノ效力ニ影響ヲ及ボサス(同上)

第百條 會社カ事業ニ著手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス此場合

五百十一



ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス(改正同上)

第百一條 會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ第八十五條ノ場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後其他ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム

第百二條 社員カ死亡シタル場合ニ於テ其相續人數人アルトキハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

第百三條 第六十三條ニ定メタル社員ノ責任ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年ヲ經過シタルトキハ消滅ス  
前項ノ期間經過ノ後ト雖モ分配セサル殘餘財產尙ホ存スルトキハ會社ノ債權者ハ之ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第三章 合資會社

第百四條 合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第百五條 合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第百六條 合資會社ノ定款ニハ第五十條ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第百七條 會社ハ定款ヲ作りタル日リ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第五十一條第一項ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

第百八條 有限責任社員ハ金錢其他ノ財産ノミヲ以テ其出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第百九條 各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ  
無限責任社員數人アルトキハ會社ノ業務執行ハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第百十條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ無限責任社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第百十一條 有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於テ營業時間内ニ限リ會社ノ財産目錄及ヒ貸借對照表ノ閱覽ヲ求メ且會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得  
重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ有限責任社

員ノ請求ニ因リ何時ニテモ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ノ検査ヲ許スコトヲ得

第百十二條 有限責任社員ハ無限責任社員全員ノ承諾アルトキハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得

第百十三條 有限責任社員ハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得

第百十四條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メサルトキハ各無限責任社員會社ヲ代表ス

第百十五條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ス

第百十六條 有限責任社員ニ自己ヲ無限責任社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其社員ハ善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第百十七條 有限責任社員カ死亡シタルトキハ其相續人之ニ代ハリテ社員ト爲ル  
有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受クルモ之ニ因リテ退社セズ

第百十八條 合資會社ハ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員カ退社シタルトキハ解散ス但有限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ無限責任社員ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

前項但書ノ場合ニ於テハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第百十八條ノ二 合資會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其組織ヲ變更シテ之ヲ合名會社ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス(追加同上)

第四章 株式會社

第一節 設立

第百十九條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス

第百二十條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 商號
- 三 資本ノ總額



- 四 一株ノ金額
- 五 取締役カ有スヘキ株式ノ數
- 六 本店及ヒ支店ノ所在地
- 七 會社カ公告ヲ爲ス方法
- 八 發起人ノ氏名、住所

第百二十一條 前條第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定款ニ記載セザリシトキハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ得前項ノ株主總會ノ決議ハ第二百九號ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 第百二十二條 左ニ掲ケタル事項ヲ定メタルトキハ之ヲ定款ニ記載スルニ非サレハ其效ナシ
- 一 存立時期又ハ解散ノ事由
- 二 株式ノ額面以上ノ發行
- 三 發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名
- 四 金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數
- 五 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額

第百二十三條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ會社ハ之ニ因リテ成立ス此場合ニ於テハ發起人ハ遲滞ナク株金ノ四分ノ一ヲ下ラサル第一回ノ拂込ヲ爲シ且取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス此選任ハ發起人ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第百二十四條 取締役ハ其選任後遲滞ナク第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査セシムル爲メ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

- 裁判所ハ検査役ノ報告ヲ聽キ第百三十五條ノ規定ニ準據シテ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第百二十五條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス
- 第百二十六條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通ニ其引受クヘキ株式ノ數及ヒ住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス(改正同上)
- 株式申込證ハ發起人之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 定款作成ノ年月日
- 二 第百二十條及ヒ第百二十二條ニ掲ケタル

事項

- 三 各發起人カ引受ケタル株式ノ數
  - 四 第一回拂込ノ金額
  - 五 一定ノ時期マテニ會社カ成立セサルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト(追加同上)
- 額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ引受價額ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第百二十六條ノ二 第百七十二條ノ二ノ規定ハ株式申込人又ハ株式引受人ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス(同上)
- 第百二十七條 株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應ジテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ
- 第百二十八條 株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ス
- 第一回拂込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス
- 第百二十九條 株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク各株ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

- 第百三十條 株式引受人カ前條ノ拂込ヲ爲サタルトキハ發起人ハ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株式引受人ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得
- 發起人カ前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ此場合ニ於テ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得
- 前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ゲス
- 第百三十一條 各株ニ付キ第百二十九條ノ拂込アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス
- 創立總會ニハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス
- 第百五十六條第一項、第二項、第百六十一條第



三項、第四項及ヒ第六十二條乃至第六十三條ノ四ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ準用ス（改正同上）

第三百二十二條 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第三百二十三條 創立總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第三百二十四條 取締役及ヒ監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 各株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ

三 第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ノ正當ナルヤ否ヤ

取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ検査役ヲ選任シ其者ニ代ハリテ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百二十五條 創立總會ニ於テ第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得但金錢以外

五百十六

ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ於テ之ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ減シタルトキハ其者ハ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得

第三百二十六條 引受ナキ株式又ハ第二百二十九條ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ發起人ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキト亦同シ

第三百二十七條 前二條ノ規定ハ發起人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第三百二十八條 創立總會ニ於テハ定款ノ變更又ハ設立ノ廢止ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第三百二十九條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケザリシトキハ會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス

第四百十條 創除同上

第四百十一條 會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第二百二十四條ニ定メタル調査終了ノ日ヨリ又發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケザリシトキハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二百二十條第一號乃至第四號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項

二 本店及ヒ支店

三 設立ノ年月日

四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

五 各株ニ付キ拂込ミタル株金額

六 開業前ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率

七 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

八 會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタルトキハ其氏名（追加同上）

九 數人ノ取締役カ共同シ又ハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定（同上）

第五十一條第二項、第三項、第五十二條及ヒ第五十三條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第四百十二條 會社カ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ハ株式引受人ハ詐欺又ハ強迫ニ因リテ其申込ヲ取消スコトヲ得ス

第四百十二條ノ二 發起人カ會社ノ設立ニ關シ

其任務ヲ怠リタルトキハ其發起人ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負ス（同上）

發起人ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ其發起人ハ第三者ニ對シテモ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負ス（同上）

第四百十二條ノ三 會社カ成立セザル場合ニ於テハ發起人ハ會社ノ設立ニ關シテ爲シタル行為ニ付キ連帶シテ其責任ヲ負ス（同上）

前項ノ場合ニ於テ會社ノ設立ニ關シテ支出シタル費用ハ發起人ノ負擔トス（同上）

第四百十二條ノ四 取締役又ハ監査役カ第三百十四條第一項ニ定メタル任務ヲ怠リタルニ因リ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負スヘキ場合ニ於テ發起人モ亦其責任ヲ負スヘキトキハ其取締役、監査役及ヒ發起人ハ之ヲ連帶債務者トス（同上）

第二節 株式

第四百十三條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第四百十四條 株主ノ責任ハ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ限度トス

株主ハ株金ノ拂込ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對

五百十七



抗スルコトヲ得ス

第百四十五條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス但一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り之ヲ二十圓マテニ下スコトヲ得

第百四十六條 株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第百四十七條 株券ハ第百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ發行シタル株券ハ無効トス但株券ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第百四十八條 株券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號  
二 第百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日

五百十八

三 資本ノ總額

一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメサル場合ニ於テハ拂込アル毎ニ其金額ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第百四十九條 株式ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但第百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ之ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

第百五十條 記名株式ノ移轉ハ取得者ノ氏名、住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(改正同上)

第百五十一條 會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ買權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ銷却スルコトヲ得ス但定款ノ定ムル所ニ從ヒ株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テスルハ此限ニ在ラス

第百五十二條 株金ノ拂込ハ二週間前ニ之ヲ各株主ニ備告スルコトヲ要ス

株主カ期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルキトハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ會社カ株主ニ對シ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ通知スルトキハ會社ハ其通知スヘキ事項ヲ公告スルコトヲ要ス(追加同上)

第百五十三條 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得ス

讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ株式ヲ競賣スルコトヲ要ス此場合ニ於テ競賣ニ依リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得若シ從前ノ株主カ二週間内ニ之ヲ辨濟セサルトキハ會社ハ讓渡人ニ對シテ其辨濟ヲ請

求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ會社カ損害賠償及ヒ定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百五十三條ノ二 前條第一項ノ規定ニ依リ株主カ其權利ヲ失ヒタルトキハ會社ハ遲滞ナク其株主ノ氏名、住所及ヒ株券ノ番號ヲ公告スルコトヲ要ス(同上)

第百五十四條 第百五十三條ニ定メタル讓渡人ノ責任ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス(改正同上)

第百五十五條 株金全額ノ拂込アリタルトキハ株主ハ其株券ヲ無記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

株主ハ何時ニテモ其無記名式ノ株券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

第百五十五條ノ二 無記名式ノ株券ヲ有スル者カ株主ノ權利ヲ行ハントスルトキハ其權利ノ行使ニ必要ナル員數ノ株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス(追加同上)

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第百五十六條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ二

五百十九



週間前ニ各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ通知ニハ會議ノ目的タル事項ヲ記載スルコトヲ要ス(改正同上)

會社カ無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クヘキ旨及ヒ前項ニ掲ケタル事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第五百五十七條 定時總會ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ取締役之ヲ召集スルコトヲ要ス

年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ總會ヲ召集スルコトヲ要ス

第五百五十八條 (削除同上)

第五百五十九條 臨時總會ハ必要アル毎ニ取締役之ヲ召集ス

第六十條 資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ハ會議ノ目的タル事項及ヒ其召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得(改正同上)

取締役カ前項ノ請求アリタル後二週間内ニ總會召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其請求ヲ爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其召集ヲ爲スコトヲ得

トキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限リ又株主カ總會ニ出席セザル場合ニ於テハ自己ニ對スル總會召集ノ手續カ法令又ハ定款ニ反スルコトヲ理由トスルトキニ限リ前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得(同上)

第九十九條ノ三及ヒ第九十九條ノ四ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第六十三條ノ二 決議無効ノ訴ハ決議ノ日ヨリ一个月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス(追加同上)

口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ開始スルコトヲ得ス(同上)

訴ノ提起及ヒ口頭辯論ノ期日ハ取締役遲滯ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス(同上)

第六十三條ノ三 株主カ決議無効ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但其株主カ取締役又ハ監査役ナルトキハ此限ニ在ラス(同上)

第六十三條ノ四 決議シタル事項ノ登記アリタル場合ニ於テ其決議ヲ無効トスル判決カ確定シタルトキハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ

第六十條ノ二 總會ハ取締役ノ提出シタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得(追加同上)

第六十一條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス(改正同上)

株主ハ代理人ヲ以テ其議決權ヲ行フコトヲ得但其代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出タスコトヲ要ス

總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其議決權ヲ行フコトヲ得ス

第六十二條 各株主ハ一株ニ付キ一箇ノ議決權ヲ有ス但十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權ハ定款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第六十三條 總會召集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反スルトキハ株主、取締役又ハ監査役ハ訴ヲ以テノミ其決議ノ無効ヲ主張スルコトヲ得(同上)

株主ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ヘタル

其登記ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第二款 取締役

第六十四條 取締役ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス

會社ト取締役トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ(同上)

第六十五條 取締役ハ三人以上タルコトヲ要ス

第六十六條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス但定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ルマテ其任期ヲ伸長スルコトヲ妨ケス(改正同上)

第六十七條 取締役ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但任期ノ定アル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其任期前ニ之ヲ解任シタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條ノ二 取締役ノ任務カ終了シタル場合ニ於テ法律又ハ定款ニ定メタル員數ノ取締役ナキニ至リタルトキハ退任シタル取締役ハ破産及ヒ禁治産ノ場合ヲ除ク外新ニ選任セ



ラレタル取締役カ就職スルマテ仍ホ取締役ノ  
權利義務ヲ有ス(追加同上)

第六十八條 取締役ハ定款ニ定メタル員數ノ  
株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第六十九條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ  
定ナキトキハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス  
支配人ノ選任及ヒ解任亦同シ

第七十條 定款又ハ株主總會ノ決議ヲ以テ取  
締役中會社ヲ代表スヘキ者ヲ定メス又ハ數人  
ノ取締役カ共同シ若クハ取締役カ支配人ト共  
同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メサルトキ  
ハ取締役ハ各自會社ヲ代表ス(改正同上)

第三十條ノ二第二項及第六十二條ノ規定ハ取  
締役ニ之ヲ準用ス(同上)

第七十一條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議錄  
ヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ置キ且株主名簿及ヒ社  
債原簿ヲ本店ニ備ヘ置クコトヲ要ス

株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテ  
モ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ  
得

第七十二條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載ス  
ルコトヲ要ス

- 五百二十二
- 一 株主ノ氏名、住所
  - 二 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號
  - 三 各株ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂込ノ年月日
  - 四 各株式ノ取得ノ年月日
  - 五 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其數番號及ヒ發行ノ年月日
- 第七十二條ノ二 會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其否カ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツルチ以テ足ル(追加同上)
- 前項ノ通知又ハ催告ハ通常其到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス(同上)
- 第七十三條 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 社債權者ノ氏名、住所
  - 二 債券ノ番號
  - 三 社債ノ總額
  - 四 各社債ノ金額
  - 五 社債ノ利率
  - 六 社債償還ノ方法及ヒ期限
  - 七 數回ニ分チテ社債ノ拂込ヲ爲サシムルト

キハ其拂込ノ金額及ヒ時期(追加同上)隨テ  
舊第七號ヲ第九號トナシ以下順次繰下)

八 各社債ニ付キ拂込ミタル金額及ヒ拂込ノ年月日(同上)

九 債券發行ノ年月日

十 各社債ノ取得ノ年月日

十一 無記名式ノ債券ヲ發行シタルトキハ其數、番號及ヒ發行ノ年月日

第七十四條 會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ヲ報告スルコトヲ要ス

會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ取締役ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ監査役ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二个月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第七十六條 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用セス(改正同上)

第七十七條 取締役カ其任務ヲ怠リタルトキハ其取締役ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス(同上)

取締役カ法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ其取締役ハ第三者ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス(同上)

第七十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ監査役ノ請求ニ



因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス(同上)  
會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス  
第七十九條 取締役カ受クヘキ報酬ハ定款ニ其額ヲ定メサリシトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第三款 監査役

第八十條 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス(同上)

第八十一條 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第八十二條 監査役ハ株主總會ヲ召集スル必要アリト認メタルトキハ其召集ヲ爲スコトヲ得此總會ニ於テハ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第八十三條 監査役ハ取締役カ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其意見ヲ報告スルコトヲ要ス

第八十四條 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼スルコトヲ得但取締役中ニ缺員アルトキハ

取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第九十二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ルマテハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第八十五條 會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シテ提起スル場合ニ於テハ其訴ニ付テハ監査役會社代表ス但株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得

資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ請求シタルトキハ特ニ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第八十六條 監査役カ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テ取締役モ亦其責ニ任スヘキトキハ其監査役及ヒ取締役ハ之ヲ連帶債務者トス(同上)

第八十七條 株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ

第九十一條 取締役ハ定時總會ノ會日前ニ前條ニ掲ゲタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ本店ニ備フルコトヲ要ス

株主及會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲ゲタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得

第九十二條 取締役ハ第九十條ニ掲ゲタル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第九十三條 定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ爲シタルトキハ會社ハ取締役及ヒ監査役ニ對シテ其責任ヲ解除シタルモノト看做ス但取締役又ハ監査役ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十四條 會社ハ其資本ノ四分ノ一ニ達スルマテハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ前項ノ額ニ達スルマテ之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス

會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第八十五條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス(同上)

會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス

第八十八條 (削除同上)

第八十九條 第六十四條、第六十六條但書、第六十七條、第六十七條ノ二、第六十七條及ヒ第六十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス(改正同上)

第四節 會社ノ計算

第九十條 取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ左ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

- 一 財産目錄
- 二 貸借對照表
- 三 營業報告書
- 四 損益計算書
- 五 準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案



第五百二十五條

會社ハ損失ヲ填補シ且前條第一項ニ定メタル準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第五百二十六條

前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第五百二十七條

會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ第四百十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後二年以上前項業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但

第五百二十八條

其利率ハ法定利率ニ超ユルコトヲ得但前項ニ掲ケタル定款ノ規定ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第五百二十九條

利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス但會社力優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十條

裁判所ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第五百三十一條

検査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監督役ヲシテ株主總會ヲ召集セシムルコトヲ得此總會ニ於テハ前項ノ調査ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得(同上)

第五百三十二條

第五節 社債

第五百三十三條

社債ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

第五百三十四條

社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ニ超ユルコトヲ得ス

第五百三十五條

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ金額ニ滿タサルトキハ社債ノ總額ハ其財産ノ額ニ超ユルコトヲ得ス

第五百三十六條

社債ハ前ニ募集シタル社債總額ノ拂込ヲ爲サシメタル後ニ非サレハ更ニ社債ヲ募集スルコトヲ得ス(追加同上)

第五百三十七條

各社債ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第五百三十八條

社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其金額ハ各社債ニ付キ同一ナルコトヲ要ス

第五百三十九條

社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ遲滞ナク各社債ニ付キ其金額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス(改正同上)

第五百四十條

社債募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ第二百三條第二項及ヒ前條ニ定メタル行爲ヲ爲スコトヲ得(追加同上)

第五百四十一條

取締役ハ第二百四條ノ拂込アリタル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス(同上)

第五百四十二條

第二百七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項

第五百四十三條

社債發行ノ價額又ハ其最低價額

第五百四十四條

會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額

第五百四十五條

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

第五百四十六條

前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサル總額

第五百四十七條

社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ社債募集者ハ社債申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

第五百四十八條

前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケル場合ニハ之ヲ適用セス社債ノ募集ノ委託ヲ受ケタル者カ自ラ社債ノ一部ヲ引受ケル場合ニ於テ其一部ニ付キ亦同シ(追

第五百二十六

検査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監督役ヲシテ株主總會ヲ召集セシムルコトヲ得此總會ニ於テハ前項ノ調査ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得(同上)

第五節 社債

第五百三十三條

社債ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

第五百三十四條

社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ニ超ユルコトヲ得ス

第五百三十五條

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ金額ニ滿タサルトキハ社債ノ總額ハ其財産ノ額ニ超ユルコトヲ得ス

第五百三十六條

社債ハ前ニ募集シタル社債總額ノ拂込ヲ爲サシメタル後ニ非サレハ更ニ社債ヲ募集スルコトヲ得ス(追加同上)

第五百三十七條

各社債ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第五百三十八條

社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其金額ハ各社債ニ付キ同一ナルコトヲ要ス

第五百三十九條

社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ遲滞ナク各社債ニ付キ其金額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス(改正同上)

第五百四十條

社債募集ノ委託ヲ受ケタル者ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲メニ第二百三條第二項及ヒ前條ニ定メタル行爲ヲ爲スコトヲ得(追加同上)

第五百四十一條

取締役ハ第二百四條ノ拂込アリタル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス(同上)

第五百四十二條

第二百七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケタル事項

第五百四十三條

社債發行ノ最低價額又ハ其最低價額

第五百四十四條

會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額

第五百四十五條

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

第五百四十六條

前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサル總額

第五百四十七條

社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ社債募集者ハ社債申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

第五百四十八條

前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケル場合ニハ之ヲ適用セス社債ノ募集ノ委託ヲ受ケタル者カ自ラ社債ノ一部ヲ引受ケル場合ニ於テ其一部ニ付キ亦同シ(追

第五百二十九條

社債ノ募集ニ應セントスル者ハ社債申込證ニ通シ其引受ケヘキ社債ノ數及ヒ住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス(改正同上)

第五百三十條

社債申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

第五百三十一條

會社ノ商號

第五百三十二條

第二百七十三條第三號乃至第七號ニ掲ケタル事項

第五百三十三條

社債發行ノ價額又ハ其最低價額

第五百三十四條

會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額

第五百三十五條

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

第五百三十六條

前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘサル總額

第五百三十七條

社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ社債募集者ハ社債申込證ニ應募價額ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

第五百三十八條

前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケル場合ニハ之ヲ適用セス社債ノ募集ノ委託ヲ受ケタル者カ自ラ社債ノ一部ヲ引受ケル場合ニ於テ其一部ニ付キ亦同シ(追

第五百三十九條

検査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監督役ヲシテ株主總會ヲ召集セシムルコトヲ得此總會ニ於テハ前項ノ調査ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得(同上)

第五百四十條

第五節 社債

第五百三十三條

社債ハ第二百九條ニ定メタル決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス



第二百五條 債券ハ社債全額ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス(改正同上)

債券ニハ會社ノ商號及ヒ第七十三條第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス(同上)

第二百六條 記名社債ノ移轉ハ取得者ノ氏名、住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其氏名ヲ債券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(同上)

第二百七條 第七十五條ノ規定ハ債券ニ之ヲ準用ス

第二百七條ノ二 第七十二條ノ二ノ規定ハ社債囑募者又ハ社債權者ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス(追加同上)

第六節 定款ノ變更

第二百八條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテノミ之ヲ變更スルコトヲ得

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第五十六條ニ定メタル通知及ヒ公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

第二百九條 定款ノ變更ハ總株主ノ半數以上ニ

シテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但第六十一條第二項ノ規定ニ依リテ株券ヲ供託セサル者ハ總株主ノ員數ニ之ヲ算入セス(改正同上)

ハキトキハ株主總會ノ決議ノ外優先株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要ス

優先株主ノ總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百十二條ノ二 會社カ其資本ヲ増加スル場合ニ於テ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アルトキハ其者、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數ハ資本増加ノ決議ト同時ニ之ヲ決議スルコトヲ要ス(追加同上)

第二百十二條ノ三 株式申込證ハ取締役之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

- 一 會社ノ商號
- 二 増加スヘキ資本ノ總額
- 三 資本増加ノ決議ノ年月日
- 四 第一回拂込ノ金額
- 五 額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ其旨
- 六 前條ノ規定ニ依リテ決議シタル事項
- 七 優先株ヲ發行スル場合ニ於テハ其種類及ヒ其各種ノ株式ノ數
- 八 一定ノ時期マテニ資本増加ノ登記ヲ爲サ

シテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但第六十一條第二項ノ規定ニ依リテ株券ヲ供託セサル者ハ總株主ノ員數ニ之ヲ算入セス(改正同上)

前項ニ定メタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各株主ニ對シテ其假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告シ更ニ一ヶ月内ニ第二回ノ株主總會ヲ召集スルコトヲ要ス(同上)

第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百十條 會社ノ資本ハ株金全額拂込ノ後ニ非サレハ之ヲ増加スルコトヲ得ス

第二百十一條 會社ハ其資本ヲ増加スル場合ニ限り優先株ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其旨ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十二條 會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更ハ優先株主ニ損害ヲ及ボス

サルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト

數種ノ優先株ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ其引受クヘキ株式ノ種類及ヒ各種ノ株式ノ數ヲ記載スルコトヲ要ス(同上)

第二百十三條 會社カ其資本ヲ増加シタル場合ニ於テ各新株ニ付キ第七十九條ノ拂込アリタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百十四條 監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス

- 一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
- 二 各新株ニ付キ第七十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ
- 三 (削除同上)

株主總會ハ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第二百十五條 (同上)

第二百十六條 引受ナキ株式又ハ第七十九條ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ取締役ハ連

五百二十九



帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務  
ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキ亦同シ

第二百十七條 會社ハ第二百十三條ノ規定ニ依  
リテ招集シタル株主總會終結ノ日ヨリ二週間  
内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ  
登記スルコトヲ要ス

- 一 増加シタル資本ノ總額
- 二 資本増加ノ決議ノ年月日
- 三 各新株ニ付キ拂込ミタル株金額
- 四 優先株ヲ發行シタルトキハ其種類及ヒ其  
各種ノ株式ノ株數(改正同上)
- 第五十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
(追加同上)

第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記  
ヲ爲スマテハ新株券ノ發行及ヒ新株ノ讓渡又  
ハ其豫約ヲ爲スコトヲ得ス(改正同上)

第二百十八條 新株ヲ發行シタルトキハ前條第  
一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ  
爲シタル年月日ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス  
優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利ヲ株  
券ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十九條 第二百二十六條第一項、第三項、第

百二十六條ノ二乃至第三百三十條、第四百十二  
條及ヒ第四百十七條第二項ノ規定ハ新株發行  
ノ場合ニ之ニ準用ス(同上)

第二百二十條 株主總會ニ於テ資本減少ノ決議  
ヲ爲ストキハ同時ニ其減少ノ方法ヲ決議スル  
コトヲ要ス

第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ資本減少ノ  
場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ二 資本減少ノ爲メ株式ヲ併合  
スヘキ場合ニ於テハ會社ハ株主ニ對シ一定ノ  
期間内ニ株券ヲ會社ニ提供スヘキ旨及ヒ其期  
間内ニ之ヲ提供セサルトキハ株主ノ權利ヲ失  
フヘキ旨ヲ通知スルコトヲ得但其期間ハ三個  
月ヲ下ルコトヲ得ス(追加同上)

第二百二十條ノ三 會社カ前條ニ定メタル手續  
ヲ踐ミタルモ株主カ株券ヲ提供セサルトキハ  
其權利ヲ失フ株主カ株券ヲ提供シタル場合ニ  
於テ併合ニ適セサル株アルトキハ其株ニ付キ  
亦同シ(同上)

前項ノ場合ニ於テ會社ハ新ニ發行シタル株式  
ヲ競賣シ且株數ニ應シテ其代金ヲ從前ノ株主  
ニ交付スルコトヲ要ス(同上)

第二百二十條ノ四 第二百五十二條第三項及ヒ第  
百五十三條ノ二ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ  
準用ス(同上)

第二百二十條ノ五 株式併合ノ場合ニ於テ從前  
ノ株式ヲ目的トスル質權ハ併合ニ因リテ株主  
カ受クヘキ株式及ヒ金錢ノ上ニ存在ス(同上)

第七節 解散  
第二百二十一條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散  
ス

- 一 第七十四條第一號、第二號、第四號、第六  
號及ヒ第七號ニ掲ゲタル事由
- 二 株主總會ノ決議
- 三 株主カ七人未滿ニ減シタルコト

第二百二十二條 前條第二號及ヒ合併ノ決議ハ  
第二百九條ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ爲ス  
コトヲ得ス

第二百二十三條 (削除同上)

第二百二十四條 會社カ解散シタルトキハ破産  
ノ場合ヲ除ク外取締役ハ遲滞ナク株主ニ對シ  
テ其通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタ  
ル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百二十五條 第七十六條及第七十八條乃至  
第八十二條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規  
定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ  
準用ス(追加同上)

第二百二十條ノ五ノ規定ハ株式ヲ併合セサル  
場合ニ於テ合併ニ因リ消滅スル會社ノ株式ヲ  
目的トスル質權ニ之ヲ準用ス(同上)

第八節 清算  
第二百二十六條 會社カ解散シタルトキハ合併  
及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲  
ル但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ  
於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ  
裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選  
任ス

第二百二十七條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會  
社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照  
表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求  
ムルコトヲ要ス(第二項削除同上)

第二百二十七條ノ二 清算人ハ財産目錄、貸借  
對照表及ヒ事務報告書ヲ作り定時總會ノ會日  
ニ提出スルコトヲ要ス



ヨリ一週間前ニ之ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス(追加同上)

**第二百二十八條** 株主總會ニ於テ選任シタル清算人ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

**第二百二十九條** 殘餘財産ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ株主ニ分配スルコトヲ要ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限ニ在ラス

**第二百三十條** 清算事務カ終ハリタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承諾ヲ求ムルコトヲ要ス(第二項削除同上)

**第二百三十一條** (削除同上)  
**第二百三十二條** 會社カ事業ニ著シタル後株主、取締役又ハ監査役カ其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ訴ヲ以テノミ其無効ヲ主張スルコトヲ得(改正同上)

第九十九條ノ三乃至第九十九條ノ六及ヒ第六十三條ノ二第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

**第二百三十三條** 會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス

**第二百三十四條** 第八十四條、第八十九條乃至第九十三條、第九十三條ノ二第二項、第九十五條、第九十七條、第九十九條、第一百五十七條乃至第一百六十條ノ二、第一百六十三條乃至第一百六十三條ノ四、第一百六十四條第二項、第一百六十七條ノ二、第一百七十條、第一百七十一條、第一百七十六條乃至第一百七十九條、第一百八十一條、第一百八十三條乃至第一百八十七條、第一百九十一條乃至第一百九十三條及ヒ民法第七十九條、第八十條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

**第五章 株式合資會社**  
**第二百三十五條** 株式合資會社ハ無限責任社員

ト株主トヲ以テ之ヲ組織ス  
**第二百三十六條** 左ノ事項ニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用ス

一 無限責任社員相互ノ關係  
二 無限責任社員ト株主及ヒ第三者トノ關係  
三 無限責任社員ノ退社  
此他株式合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外株式會社ニ關スル規定ヲ準用ス

**第二百三十七條** 無限責任社員ハ發起人ト爲リテ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

一 第二百二十條第一號、第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項  
二 株金ノ總額  
三 無限責任社員ノ氏名、住所  
四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準

**第二百三十八條** 無限責任社員ハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス  
株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 第二百二十二條、第二百二十六條第二項第一

號、第四號、第五號及ヒ前條ニ掲ケタル事項(同上)

二 無限責任社員カ株式ヲ引受ケタルトキハ其各自カ引受ケタル株式ノ數  
**第二百三十九條** 創立總會ニ於テハ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス  
**第二百四十條** 無限責任社員ハ創立總會ニ出席シテ其意見ヲ述フルコトヲ得但株式ヲ引受ケタルトキト雖モ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス無限責任社員カ引受ケタル株式其他ノ出資ハ議決權ニ關シテハ之ヲ算入セス

前二項ノ規定ハ株主總會ニ之ヲ準用ス  
**第二百四十一條** 監査役ハ第三百三十四條第一項及ヒ第三百三十七條第四號ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

**第二百四十二條** 會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第二百二十條第一號、第二號、第四號、第七號及ヒ第四百一十一條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項



二 株金ノ總額  
三 無限責任社員ノ氏名、住所  
四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及  
七 財産ヲ目的トスル出資ノ價格  
五 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メタ  
ルトキハ其氏名  
六 監査役ノ氏名、住所  
七 數人ノ無限責任社員カ共同シ又ハ無限責  
任社員カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘ  
キコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規  
定(追加同上)

第二百四十三條 會社ヲ代表スヘキ無限責任社  
員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ヲ準用  
ス但第百六十四條乃至第百六十八條、第百七  
十五條及ヒ第百七十九條ノ規定ハ此限ニ在ラ  
ス

第二百四十四條 合資會社ニ於テ總社員ノ同意  
ヲ要スル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ノ外無  
限責任社員ノ一致アルコトヲ要ス

第二百四十五條 監査役ハ無限責任社員ヲシテ  
株主總會ノ決議ヲ執行セシムル責ニ任ス

第五百三十四  
第二百四十六條 株式合資會社ハ合資會社ト同  
一ノ事由ニ因リテ解散ス但第八十三條ノ場合  
ハ此限ニ在ラス

第二百四十七條 無限責任社員ノ全員カ退社シ  
タル場合ニ於テ株主ハ第百九條ニ定メタル  
決議ニ依リ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコ  
トヲ得此場合ニ於テハ株式會社ノ組織ニ必要  
ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第百十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ  
準用ス

第二百四十八條 會社カ解散シタルトキハ合  
併、破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタ  
ル場合ヲ除ク外清算ハ無限責任社員ノ全員又  
ハ其選任シタル者及ヒ株主總會ニ於テ選任シ  
タル者之ヲ爲ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ  
此限ニ在ラス

無限責任社員カ清算人ヲ選任スルトキハ其過  
半數ヲ以テ之ヲ決ス

株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ無限責任社  
員ノ全員若クハ其相續人又ハ其選任スル者ト  
同數ナルコトヲ要ス

第二百四十九條 無限責任社員ハ何時ニテモ其

選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得  
前條第二項ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準用  
ス

第二百五十條 第百二條ノ規定ハ株式合資會社  
ノ無限責任社員ニ之ヲ準用ス

第二百五十一條 清算人ハ第百二十七條、第  
二百二十七條ノ二及ヒ第百三十條ニ定メタ  
ル計算ニ付キ株主總會ノ承認ノ外無限責任社  
員全員ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス(改正同上)

第二百五十二條 株式合資會社ハ第百四十四  
條ヲ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會  
社ト爲スコトヲ得

第二百五十三條 前條ノ場合ニ於テハ株主總會  
ハ直チニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決  
議スルコトヲ要ス此總會ニ於テハ無限責任社  
員モ亦其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ議決權  
ヲ行フコトヲ得

第七十八條、第七十九條第一項、第二項及ヒ第  
八十三條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用  
ス(同上)

第二百五十四條 (削除同上)

第六章 外國會社

第二百五十五條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケ  
タルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最  
モ之ニ類似セルモノト同一ノ登記及ヒ公告ヲ  
爲スコトヲ要ス

右ノ外日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其日  
本ニ於ケル代表者ヲ定メ且支店設立ノ登記ト  
同時ニ其氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十二條ノ規定ハ外國會社ノ代表者ニ之ヲ  
準用ス

第二百五十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定  
ニ依リ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタル  
トキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨ  
リ之ヲ起算ス

第二百五十七條 外國會社カ始メテ日本ニ支店  
ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ登記  
ヲ爲スマテハ第三者ハ其會社ノ成立ヲ否認ス  
ルコトヲ得

第二百五十八條 日本ニ本店ヲ設ケ又ハ日本ニ  
於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社  
ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ  
設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第二百五十九條 第百四十七條、第百四十九條、  
五百三十五



第五百五十條、第五百五十五條第一項、第二百五十七條第一項、第二百六條、第二百七條及二百七十七條第二項ノ規定ハ日本ニ於テスル外國會社ノ株券又ハ債券ノ發行及ヒ其株式又ハ社債ノ移轉ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店ヲ以テ本店ト看做ス(改正同上)

第二百六十條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其代表者カ會社ノ業務ニ付キ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

第七章 罰則

第二百六十一條 發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル社員、監査役、檢査役又ハ株式會社若クハ株式合資會社ノ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス(同上)

一 會社ノ設立若クハ資本ノ増加又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ株式總數ノ引受又ハ資本ニ對スル拂込額ニ付キ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキ

五百三十六

二 何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス會社ノ計算ニ於テ不正ニ其株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益又ハ利息ノ配當ヲ爲シタルトキ

四 會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲メニ會社財産ヲ處分シタルトキ

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セス(同上)

第二百六十二條

發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス(同上)

一 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ合併、會社財産ノ處分、資本ノ減少又ハ組織ノ變更ヲ爲シタルトキ

三 檢査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ

四 第二百五十一條第二項ノ規定ニ違反シテ株式ヲ消却シタルトキ

五 第五百五十五條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ

六 第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

七 第九十四條ノ規定ニ違反シ準備金ヲ積立テサルトキ

八 第二百條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シ又ハ第二百五條第一項ノ規定ニ違反シテ債券ヲ發行シタルトキ

九 第二百六十條ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

十 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲ササルトキ

十一 清算ノ結了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ民法第七十九條ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

十二 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第九十五條ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ

第二百六十二條ノ二 發起人、會社ノ業務ヲ執

行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス但其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス(追加同上)

一 本編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 本編ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルトキ

三 本編ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ

四 本編ノ規定ニ依ル檢査又ハ調査ヲ妨ケタルトキ

五 第四十六條ノ規定ニ違反シテ開業ノ準備ニ著手シタルトキ

六 第二百二十六條第二項、第二百三條第二項、第二百十二條ノ三第一項及ヒ第二百三十八條第二項ノ規定ニ違反シ株式申込證又ハ社債申込證ヲ作ラズ、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

七 第四百十七條第一項又ハ第二百十七條第

五百三十七



三項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルト

八 株券又ハ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セ

九 定款、株主名簿、社債原簿、總會ノ決議錄、

告書、損益計算書及ヒ準備金並ニ利益又ハ

利息ノ配當ニ關スル議案ヲ本店若クハ支店

ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載

十 第七十四條第一項又ハ第九十八條第

二項ノ規定ニ違反シ株主總會ヲ召集セサル

トキ

第二百六十二條ノ三 第四十四條ノ三第二項ノ

規定ニ依リテ選任セラレタル者ハ本章ノ適用

ニ付テハ之ヲ發起人ト看做ス(同上)

第三章 商行爲

第一節 總則

第二百六十三條 左ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ商行

爲トス

一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動産、

不動産若クハ有價證券ノ有價取得又ハ其取

得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行爲

二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券ノ

供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有價取得

ヲ目的トスル行爲

三 取引所ニ於テスル取引

四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲

第二百六十四條 左ニ掲ケタル行爲ハ營業トシ

テ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス但專ラ賃金

ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服ス

ル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス

一 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動

産ノ有價取得若クハ賃借又ハ其取得若クハ

賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行爲

二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル

五百三十八

得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行爲

二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券ノ

供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有價取得

ヲ目的トスル行爲

三 取引所ニ於テスル取引

四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲

第二百六十四條 左ニ掲ケタル行爲ハ營業トシ

テ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス但專ラ賃金

ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服ス

ル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス

一 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動

産ノ有價取得若クハ賃借又ハ其取得若クハ

賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行爲

二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル

行爲

三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲

四 運送ニ關スル行爲

五 作業又ハ勞務ノ請負

六 出版、印刷又ハ攝影ニ關スル行爲

七 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引

八 兩替其他ノ銀行取引

九 保險

十 寄託ノ引受

十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲

十二 商行爲ノ代理ノ引受

第二百六十五條 商人カ其營業ノ爲メニスル行

爲ハ之ヲ商行爲トス

商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定

ス

第二百六十六條 商行爲ノ代理人カ本人ノ爲メ

ニスルコトヲ示ササルトキト雖モ其行爲ハ本

人ニ對シテ其效力ヲ生ス但相手方カ本人ノ爲

メニスルコトヲ知ラサリシトキハ代理人ニ對

シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二百六十七條 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨

ニ反セサル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケサル行爲

ヲ爲スコトヲ得

第二百六十八條 商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ

本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス

第二百六十九條 對話者間ニ於テ契約ノ申込ヲ

受ケタル者カ直ニ承諾ヲ爲ササルトキハ申

内ニ承諾ノ通知ヲ發セサルトキハ申込ハ其效

力ヲ失フ

民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之

ヲ準用ス

第二百七十一條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ

其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル

トキハ遲滞ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要

ス若シ之ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込

ヲ承諾シタルモノト看做ス

第二百七十二條 商人カ其營業ノ部類ニ屬スル

契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ

受取りタル物品アルトキハ其申込ヲ拒絕シタ

ルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其物品ヲ保

管スルコトヲ要ス但其物品ノ價額カ其費用ヲ

償フニ足ラサルトキ又ハ商人カ其保管ニ因リ

テ損害ヲ受クヘキトキハ此限ニ在ラス

第二百七十三條 數人カ其一人又ハ全員ノ爲メ

ニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ負擔シタル

トキハ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ

商行爲ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證カ商行

爲ナルトキハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別

五百三十九



ノ行為ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス

**第二百七十四條** 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

**第二百七十五條** 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

**第二百七十六條** 商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

**第二百七十七條** 民法第三百四十九條ノ規定ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セス

**第二百七十八條** 商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ其行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラサルトキハ特定期物ノ引渡ハ行爲ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ

五百四十

之ヲ爲スコトヲ要ス  
指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ヲ以テ營業所ト看做ス

**第二百七十九條** 指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限カ到來シタル後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞ノ責任ス

**第二百八十條** (削除同上)

**第二百八十一條** 金錢其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ノ所持人カ其證券ヲ毀失シタル場合ニ於テ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其證券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルコトヲ得(改正同上)

**第二百八十二條** 第四百四十一條、第四百四十九條ノ二、第四百五十七條、第四百六十一條及ヒ第四百六十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物又ハ

有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ適用ス(同上)

**第二百八十三條** 法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限リ債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

**第二百八十四條** 商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者所有ノ物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス(同上)

**第二百八十五條** 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

**第二百八十五條ノ二** 第四十二條第二項ニ定メタル會社ノ行爲ニハ商行爲ニ關スル規定ヲ準用ス(追加同上)

第二章 賣買

**第二百八十六條** 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其

目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス  
損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得  
前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

**第二百八十七條** 賣買ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

**第二百八十八條** 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ検査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シ



テ其通知ヲ發スルニ非サレハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス賣買ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサル瑕疵アリタル場合ニ於テ買主カ六个月内ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

**第二百八十九條** 前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其物ニ付キ減失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所カ同市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セス

**第二百九十條** 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル

場合ニ於テ準用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

**第三章 交互計算**

**第二百九十一條** 交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

**第二百九十二條** 手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

**第二百九十三條** 當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ之ヲ六個月トス

**第二百九十四條** 當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但錯誤又ハ脫漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

**第二百九十五條** 相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス

**第二百九十六條** 各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ計算ノ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

**第四章 匿名組合**

**第二百九十七條** 匿名組合契約ハ當事者ノ一方カ相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

**第二百九十八條** 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財産ニ歸ス

匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シテ權利義務ヲ有セス

**第二百九十九條** 匿名組合員カ其氏若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用井又ハ其商號ヲ營業者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責ニ任ス

**第三百條** 出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其填補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得ス

場合ニ之ヲ準用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

**第五百四十二**

**第二百九十一條** 交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

**第二百九十二條** 手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

**第二百九十三條** 當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ之ヲ六個月トス

**第二百九十四條** 當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但錯誤又ハ脫漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

**第二百九十五條** 相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス

**第二百九十六條** 各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ計算ノ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

**第四章 匿名組合**

**第二百九十七條** 匿名組合契約ハ當事者ノ一方カ相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

**第二百九十八條** 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財産ニ歸ス

匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シテ權利義務ヲ有セス

**第二百九十九條** 匿名組合員カ其氏若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用井又ハ其商號ヲ營業者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責ニ任ス

**第三百條** 出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其填補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得ス

**第三百一一條** 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メザリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但六個月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

組合ノ存續期間ヲ定メタルトキハ各當事者ハ何ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

**第三百二條** 前條ニ掲ゲタル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

二 營業者ノ死亡又ハ禁治産

三 營業者又ハ匿名組合員ノ破産

**第三百三條** 組合契約カ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

**第三百四條** 第八條、第一百一條及ヒ第一百五條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

**第五章 仲立營業**

**第三百五條** 仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介

四百十三



ヲ爲スチ業トスル者ヲ謂フ

第三百六條 仲立人ハ其媒介シタル行爲ニ付キ  
當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受クルコト  
ヲ得ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ  
此限ニ在ラス

第三百七條 仲立人カ其媒介スル行爲ニ付キ見  
本ヲ受取リタルトキハ其行爲カ完了スルマテ  
之ヲ保管スルコトヲ要ス

第三百八條 當事者間ニ於テ行爲カ成立シタル  
トキハ仲立人ハ遲滞ナク各當事者ノ氏名又ハ  
商號、行爲ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル  
書面ヲ作り署名ノ後之ヲ各當事者ニ交付スル  
コトヲ要ス

第三百九條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ掲  
前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ書面ヲ受  
領セス又ハ之ニ署名セザルトキハ仲立人ハ遲  
滞ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ  
要ス

ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百十條 當事者カ其氏名又ハ商號ヲ相手方  
ニ示ササルヘキ旨ヲ仲立人ニ命シタルトキハ  
仲立人ハ第三百八條第一項ノ書面及ヒ前條第  
二項ノ謄本ニ其氏名又ハ商號ヲ記載スルコト  
ヲ得ス

第三百十一條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又  
ハ商號ヲ其相手方ニ示ササリシトキハ之ニ對  
シテ自ラ履行ヲ爲ス責ニ任ス

第三百十二條 仲立人ハ第三百八條ノ手續ヲ終  
ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ  
得ス  
仲立人ノ報酬ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔  
ス

第六章 問屋營業

第三百十三條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ  
爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スチ業トスル  
者ヲ謂フ

第三百十四條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販

賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ラ權利ヲ  
得義務ヲ負フ

問屋ト委託者トノ間ニ於テハ本章ノ規定ノ外  
委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百十五條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル  
販賣又ハ買入ニ付キ相手方カ其債務ヲ履行セ  
サル場合ニ於テ自ラ其履行ヲ爲ス責ニ任ス但  
別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在  
ラス

第三百十六條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額  
ヨリ廉價ニテ販賣ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ  
爲シタル場合ニ於テ自ラ其差額ヲ負擔スルト  
キハ其販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其效力  
ヲ生ス

第三百十七條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ  
販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ラ買  
主又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣  
買ノ代價ハ問屋カ買主又ハ賣主ト爲リタルコ  
トノ通知ヲ發シタル時ニ於ケル取引所ノ相場  
ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テモ問屋ハ委託者ニ對シテ報  
酬ヲ請求スルコトヲ得

第三百十八條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場  
合ニ於テ委託者カ買入レタル物品ヲ受取ルコ  
トヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ

第三百十九條 第三百七條及ヒ第四十一條ノ規  
定ハ問屋ニ之ヲ準用ス

第三百二十條 本章ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他  
人ノ爲メニ販賣又ハ買入ニ非サル行爲ヲ爲ス  
チ業トスル者ニ之ヲ準用ス

第七章 運送取扱營業

第三百二十一條 運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以  
テ物品運送ノ取次ヲ爲スチ業トスル者ヲ謂フ  
運送取扱人ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除  
ク外問屋ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百二十二條 運送取扱人ハ自己又ハ其使用  
人カ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人又ハ他  
ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ  
怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品  
ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ  
免ルルコトヲ得ス

第三百二十三條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人  
ニ引渡シタルトキハ直チニ其報酬ヲ請求スル  
五百四十五



コトヲ得

運送取扱契約ナリテ運送貨ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ特約アルニ非サレハ別ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百二十四條 運送取扱人ハ運送品ニ關シ受取ルヘキ報酬、運送貨其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第三百二十五條 數人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

前項ノ場合ニ於テ後者カ前者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第三百二十六條 運送取扱人カ運送人ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ運送人ノ權利ヲ取得ス

第三百二十七條 運送取扱人ハ特約ナキトキハ自ラ運送ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

運送取扱人カ委託者ノ請求ニ因リテ貨物引換證ヲ作りタルトキハ自ラ運送ヲ爲スモノト看做ス(同上)

第三百二十八條 運送取扱人ノ責任ハ荷受人カ

五百四十六

運送品ヲ受取リタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其引渡アルヘカリシ日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ運送取扱人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三百二十九條 運送取扱人ノ委託者又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百三十條 第三百三十八條及ヒ第三百四十三條ノ規定ハ運送取扱營業ニ之ヲ準用ス

第八章 運送營業

第三百三十一條 運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第一節 物品運送

第三百三十二條 荷受人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷受人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 運送品ノ種類、重量又ハ容積及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號

二 到達地

三 荷受人ノ氏名又ハ商號

四 運送狀ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十三條 運送人ハ荷受人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 前條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二 荷受人ノ氏名又ハ商號

三 運送貨

四 貨物引換證ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十四條 貨物引換證ヲ作りタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル

第三百三十五條 貨物引換證ヲ作りタルトキハ運送品ニ關スル處分ハ貨物引換證ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(同上)

第三百三十六條 貨物引換證ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但貨物引換證ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス(同上)

五百四十七

第三百三十五條 貨物引換證ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得ヘキ者ニ貨物引換證ヲ引渡シタルトキハ其引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付キ運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス(改正同上)

第三百三十六條 運送品ノ全部又ハ一部カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ其運送貨ヲ請求スルコトヲ爲ス若シ運送人カ既ニ其運送貨ノ全部又ハ一部ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還スルコトヲ要ス

運送品ノ全部又ハ一部カ其性質若クハ瑕疵又ハ荷受人ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十七條 運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運送品ノ受取、引渡、保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百三十八條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ荷受人カ運送ヲ委託スルニ當タリ其種類及ヒ價額ヲ明告シタルニ非サレハ運送人



ハ損害賠償ノ責ニ任セス

**第三百二十九條** 數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

**第三百四十條** 運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アルヘカリシ日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム  
運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アリタル日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但延著ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

**第三百四十一條** 運送品カ運送人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失、毀損又ハ延著シタルトキハ運送人ハ一切ノ損害ヲ賠償スル責任ス(同上)

**第三百四十二條** 荷送人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止、運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應スル

對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス  
**第三百四十六條** 前條ノ規定ハ運送品ノ引渡ニ關シテ爭アル場合ニ之ヲ準用ス

運送人カ競賣ヲ爲スニハ豫メ荷受人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告シ其期間經過ノ後更ニ荷送人ニ對スル催告ヲ爲スコトヲ要ス

運送人ハ運送ナク荷受人ニ對シテモ運送品ノ供託又ハ競賣ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス  
**第三百四十七條** 第二百八十六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

**第三百四十八條** 運送人ノ責任ハ荷受人カ留保ヲ爲サシテ運送品ヲ受取り且運送貨其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人カ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス  
**第三百四十九條** 第三百二十四條、第三百二十五條、第三百二十八條及ヒ第三百二十九條ノ

五百四十八

運送貨、立替金及ヒ其處分ニ因リテ生シタル費用ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ定メタル荷送人ノ權利ハ運送品カ到達地ニ達シタル後荷受人カ其引渡ヲ請求シタルトキハ消滅ス

**第三百四十三條** 運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ因リテ生シタル荷送人ノ權利ヲ取得ス

荷受人カ運送品ヲ受取りタルトキハ運送人ニ對シ運送費其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ

**第三百四十四條** 貨物引換證ヲ作りタル場合ニ於テハ之ヲ引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

**第三百四十五條** 荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運送人カ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付キ指圖ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルモ荷送人カ其指圖ヲ爲ササルトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得

運送人カ前二項ノ規定ニ從ヒテ運送品ノ供託又ハ競賣ヲ爲シタルトキハ運送ナク荷送人ニ

規定ハ運送人ニ之ヲ準用ス

第二章 旅客運送

第三百五十條 旅客ノ運送人ハ自己又ハ其使用

人カ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ旅客カ運送ノ爲メニ受ケタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付テハ裁判所ハ被害者及ヒ其家族ノ情況ヲ斟酌スルコトヲ要ス

**第三百五十一條** 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送貨ヲ請求セサルトキト雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

手荷物カ到達地ニ達シタル日ヨリ一週間内ニ旅客カ其引渡ヲ請求セサルトキハ第二百八十六條ノ規定ヲ準用ス但住所又ハ居所ノ知レサル旅客ニハ催告及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要セス

**第三百五十二條** 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ自己又ハ其使用人ニ過失アル場合ヲ除ク外損害賠償ノ責ニ任セス

第九章 寄託

第一節 總則

五百四十九



第三百五十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ

寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト

雖モ善其ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來

集テ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受

ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力

ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠

償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶

シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注

意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ

主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シ

タルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ

免ルルコトヲ得ス

第三百五十五條 貨幣、有價證券其他ノ高價品

ニ付テハ客カ其種類及ヒ價額ヲ明告シテ之ヲ

前條ノ場屋ノ主人ニ寄託シタルニ非サレハ其

場屋ノ主人ハ其物品ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ

生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第三百五十六條 前二條ノ責任ハ場屋ノ主人カ

寄託物ヲ返還シ又ハ客カ携帶品ヲ持去リタル

五百五十

後一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅

ス

前項ノ期間ハ物品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ

客カ場屋ヲ去リタル時ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ場屋ノ主人ニ惡意アリタル場

合ニハ之ヲ適用セス

第二節 倉庫營業

第三百五十七條 倉庫營業者トハ他人ノ爲メニ

物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百五十八條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ

因リ寄託物ノ預證券及ヒ質入證券ヲ交付スル

コトヲ要ス

第三百五十九條 預證券及質入證券ニハ左ノ事

項及ヒ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名スル

コトヲ要ス

一 受寄物ノ種類、品質、數量及其荷造ノ種

類、個數並ニ記號

二 寄託者ノ氏名又ハ商號

三 保管ノ場所

四 保管料

五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間

六 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金

額、保險期間及ヒ保險者ノ氏名又ハ商號

七 證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百六十條 倉庫營業者カ預證券及ヒ質入證

券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳簿ニ左ノ

事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 前條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第六

號ニ掲ケタル事項

二 證券ノ番號及ヒ其作成ノ年月日

第三百六十一條 預證券及ヒ質入證券ノ所持人

ハ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ且其各部

分ニ對スル預證券及ヒ質入證券ノ交付ヲ請求

スルコトヲ得此場合ニ於テハ所持人ハ前ノ預

證券及ヒ質入證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコ

トヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ分割及ヒ證券ノ交付

ニ關スル費用ハ所持人之ヲ負擔ス

第三百六十二條 預證券及ヒ質入證券ヲ作りタ

ルトキハ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所

持人トノ間ニ於テハ其證券ノ定ムル所ニ依ル

第三百六十三條 削除同上

第三百六十四條 預證券及ヒ質入證券ハ其記名

式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又

ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁ス

ル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲ササル間ハ預

證券及ヒ質入證券ハ各別ニ之ヲ讓渡スコトヲ

得ス

第三百六十五條 第三百三十四條ノ二及ヒ第三

百三十五條ノ規定ハ預證券及ヒ質入證券ニ之

ヲ準用ス(改正同上)

第三百六十六條 預證券又ハ質入證券カ滅失シ

タルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更

ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ

於テハ倉庫營業者ハ其質入帳簿ニ記載スルコ

トヲ要ス

第三百六十七條 質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ

爲スニハ債權額、其利息及辨濟期ヲ記載スル

コトヲ要ス

第一ノ質權者カ前項ニ掲ケタル事項ヲ預證券

ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サレハ質權者以

テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百六十七條ノ二 預證券ノ所持人ハ寄託物

ヲ以テ預證券ニ記載シタル債權額及ヒ利息ヲ

辨濟スル義務ヲ負フ(追加同上)

五百五十一



第三百六十七條ノ三 質入證券所持人ノ債權ノ辨濟ハ倉庫營業者ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス(同上)

第三百六十八條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第三百六十九條 質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非サレハ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百七十條 倉庫營業者ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スヘキ租税、保管料其他保管ニ關スル費用及ヒ立替金ヲ控除シタル後其殘額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百七十一條 競賣代金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨濟スルコト能ハサリ

シトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百七十二條 質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ其裏書人ニ對シテ不足額ヲ請求スルコトヲ得ハ改正(同上)

第四百八十七條ノ二乃至第四百八十八條ノ四、第四百九十一條、第四百九十二條及ヒ第四百九十五條ノ規定ハ前項ニ定メタル不足額ノ請求ニ之ヲ準用ス(同上)

第三百七十三條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサリシ場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキ又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セサリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ

第三百七十四條 質入證券所持人ノ預證券所持人ニ對スル請求權ハ辨濟期ヨリ一年質入證券裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六個月質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

(同上)

第三百七十五條 寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ抽出ヲ求メ又ハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三百七十六條 倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百七十七條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非サレハ保管料及ヒ立替金其他受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス但受寄物ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ割合ニ應シテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得(同上)

第三百七十八條 當事者カ保管ノ期間ヲ定メサリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其返還ヲ爲スコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七十九條

券及ヒ質入證券ヲ作リタル場合ニ於テハト引換ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百八十條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前ト雖モ其債權ノ全額及ヒ辨濟期マテノ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得(第二項削除同上)

第三百八十一條ノ二 寄託物カ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有シ且分割スルコトヲ得ヘキ物ナルトキハ預證券ノ所持人ハ債權額ノ一部及ヒ其辨濟期マテノ利息ヲ供託シ其割合ニ應シテ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ供託ヲ受ケタル金額及ヒ返還シタル寄託物ノ數量ヲ預證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス(追加同上)

第三百八十二條 前項ニ定メタル寄託物ノ一部出庫ニ關スル費用ハ質入證券ノ所持人ノ之ヲ負擔ス(同上)

第三百八十三條ノ三 前二條ノ場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ供託金ノ上ニ存在ス(同上)



ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ一部ヲ辨  
濟シタル場合ニ之ヲ準用ス(同上)

**第三百八十一條** 第二百八十六條第一項及ヒ第  
二項ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄  
託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト  
能ハサル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テ質入  
證券ノ所持人ノ權利ハ競賣代金ノ上ニ存在ス  
(改正同上)

**第三百七十條及ヒ第三百七十一條ノ規定ハ前  
項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)**

**第三百八十二條** 第三百四十八條ノ規定ハ倉庫  
營業者ニ之ヲ準用ス

**第三百八十三條** 寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リ  
テ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日ヨリ  
一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅  
ス

前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テ  
ハ倉庫營業者カ預證券ノ所持人、若シ其所持  
人カ知レサルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ  
通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス  
前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場  
合ニハ之ヲ適用セズ

五百五十四

**第三百八十三條ノ二** 倉庫營業者ハ寄託者ノ請  
求アルトキハ預證券及ヒ質入證券ニ代ヘテ倉  
荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス(追加同上)

倉荷證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス(同  
上)

**第三百八十三條ノ三** 倉荷證券ヲ以テ質權ノ目  
的ト爲シタル場合ニ於テ質權者ノ承諾アルト  
キハ寄託者ハ債權ノ辨濟期前ト雖モ寄託物ノ  
一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ  
倉庫營業者ハ返還シタル寄託物ノ種類、品質  
及ヒ數量ヲ倉荷證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ  
記載スルコトヲ要ス(同上)

第十章 保險

第一節 損害保險

第一款 總則

**第三百八十四條** 損害保險契約ハ當事者ノ一方  
カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトア  
ルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之  
ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效  
力ヲ生ス

**第三百八十五條** 保險契約ハ金錢ニ見積ルコト  
ヲ爲ヘキ利益ニ限り之ヲ以テ其目的ト爲スコ

トヲ得

**第三百八十六條** 保險金額カ保險契約ノ目的ノ  
價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ  
付テハ保險契約ハ無効トス

**第三百八十七條** 同一ノ目的ニ付キ同時ニ數箇  
ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其保險金額  
カ保險價額ニ超過シタルトキハ各保險者ノ負  
増額ハ其各自ノ保險金額ノ割合ニ依リテ之ヲ  
定ム

數箇ノ保險契約ノ日附カ同一ナルトキハ其契  
約ハ同時ニ爲シタルモノト推定ス

**第三百八十八條** 相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シ  
タルトキハ前ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ若シ  
其負擔額カ損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラサル  
トキハ後ノ保險者之ヲ負擔ス

**第三百八十九條** 保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シ  
タル後ト雖モ左ノ場合ニ限り更ニ保險契約ヲ  
爲スコトヲ得

- 一 前ノ保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ  
讓渡スコトヲ約シタルトキ
- 二 前ノ保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一部  
ヲ拋棄スヘキコトヲ後ノ保險者ニ約シタル

トキ

三 前ノ保險者カ損害ノ填補ヲ爲ササルコト  
ヲ條件トシタルトキ

**第三百九十條** 同時ニ又ハ相次テ數箇ノ保險契  
約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者ノ一人ニ對ス  
ル權利ノ拋棄ハ他ノ保險者ノ權利義務ニ影響  
ヲ及ボサス

**第三百九十一條** 保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シ  
タル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ  
保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

**第三百九十二條** 保險價額カ保險期間中著シク  
減少シタルトキハ保險契約者ハ保險者ニ對シ  
テ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコト  
ヲ得但保險料ノ減額ハ將來ニ向テノミ其效力  
ヲ生ス

**第三百九十三條** 保險者カ填補スヘキ損害ノ額  
ハ其損害カ生シタル地ニ於ケル其時ノ價額ニ  
依リテ之ヲ定ム

前項ノ損害額ヲ計算スルニ必要ナル費用ハ保  
險者之ヲ負擔ス

**第三百九十四條** 當事者カ保險價額ヲ定メタル  
トキハ保險者ハ其價額ノ著シク過當ナルコト  
五百五十五



ヲ證明スルニ非サレハ其填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ス

**第三百九十五條** 戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

**第三百九十六條** 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

**第三百九十七條** 保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無効トス

**第三百九十八條** (削除同上)  
**第三百九十九條** 保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

**第三百九十九條ノ二** 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事

五百五十六

ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其實情ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス(追加同上)

前項ノ解除權ハ保險者カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一ヶ月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ(同上)

**第三百九十九條ノ三** 前條ノ規定ニ依リ保險者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス(同上)

保險者ハ危險發生ノ後解除ヲ爲シタル場合ニ於テモ損害ヲ填補スル責ニ任セス若シ既ニ保險金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其返還ヲ請求スルコトヲ得但保險契約者ニ於テ危險ノ發生カ其告ケ又ハ告ケザリシ事實ニ基カサルコトヲ證明シタルトキハ此限ニ在ラス(同上)

**第四百條** 保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ附シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

第四百一條

保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

**第四百二條** 保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

第四百三條

保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ス  
保險證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 保險ノ目的
- 二 保險者ノ負擔シタル危險
- 三 保險價額ヲ定メタルトキハ其價額
- 四 保險金額
- 五 保險料及ヒ其支拂ノ方法
- 六 保險期間ヲ定メタルハ其始期及ヒ終期
- 七 保險契約者ノ氏名又ハ商號
- 八 保險契約ノ年月日
- 九 保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第四百四條

被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタ

ルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

前項ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

**第四百五條** 保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ相當ノ擔保ヲ供セシメ又ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ保險契約者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前二項ノ規定ハ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス但保險契約者カ既ニ保險料ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ此限ニ在ラス

第四百六條

他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

**第四百七條** 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲